

608錢÷8=76錢……平均一升ノ代金 答 76錢

式  $(70錢 \times 5 + 86錢 \times 3) \div (5+3) = 76錢$

- (9) 菓物商アリ、林檎360個ヲ買ヒ入レシニ其ノ内162個ハ1個3.5錢ニシテ、其ノ餘ハ1個2.5錢ナリシトイフ、然ルトキハ平均1個ノ價何程

(解キ方)  $3.5錢 \times 162 = 567錢$ ……162個ノ代金

$360個 - 162個 = 198個$ ……2.5錢ノ個數

$2.5錢 \times 198 = 495錢$ ……198個ノ代金

$567錢 + 495錢 = 1062錢$ ……買ヒ入レ總代金

$1062錢 \div 360 = 2.95錢$ ……平均1個ノ代金

答 2錢9厘5毛

式  $(3.5錢 \times 162 + 2.5錢 \times (360個 - 162個)) \div 360 = 2.95錢$

- (10) 甲乙二數ノ平均ハ129ニシテ丙ハ162ナリ、甲乙丙三數ノ平均何程ニナルカ

(解キ方)  $129 \times 2 = 258$ ……甲乙ノ平均ヲ二倍シタ數ハ即チ平均セサル

甲乙兩數ノ合計デアル

$258 + 162 = 420$ ……甲乙丙三數ノ合計

$420 \div 3 = 140$ ……三數ノ平均 答 140

- (11) 甲ノ所有金ハ74圓、乙ノ所有金ハ52圓ナルトキ甲ハ乙ニ幾圓ヲ與フレバ甲乙ノ所有相等シクナルカ

(解キ方) 先ヅ二人ノ所持金ノ總和ヲ見テ平均スレハ  $(74圓 + 52圓) \div 2 = 63圓$ ……ハ二人ノ所持金ヲ平均シタルモノ、コレニヨリ甲ノ所持金ノ多キ部分ヲ知ルコトカ出來タ

故ニ乙ニ與フル金ハ  $74圓 - 63圓 = 11圓$  答 11圓

- (12) 或商人一反3圓85錢ノ紺ガスリ17反ヲ買ヒ入レ、之ヲ賣リテ合計12圓75錢ヲ利セリト云フ一反ノ賣價何程ナルカ

(解キ方)  $1275錢 \div 17 = 75錢$ ……一反ノ利益

$380錢 + 75錢 = 4圓55錢$ ……一反ノ賣價、即チ 答 4圓55錢

(別ニ)  $380錢 \times 17 = 6460錢$ ……買入總額

$6460錢 + 1275錢 = 7735錢$ ……賣上總額

$7735錢 \div 17 = 455錢$ ……一反ノ賣價

式  $(380錢 \times 17 + 1275錢) \div 17 = 455錢$

- (13) 商人アリ一冊ニツキ6圓50錢ノ書物130冊ヲ買ヒ入レ内70冊ハ一冊ニツキ7圓ツツニ賣リ残りハ若干圓ニ賣リテ總計113圓ヲ利セリトイフ残りハ一冊平均何程ニ賣リタルカ

(解キ方)  $7圓 - 6.5圓 = .5圓$ ……一冊ノ利益

$.5圓 \times 70 = 35圓$ ……70冊ノ利益

$130冊 - 70冊 = 60冊$ ……一冊7圓ニ賣ツタ残りノ本

$113圓 - 35圓 = 78圓$ ……残りノ本ヲ賣ツタ總利益

$78圓 \div 60 = 1.3圓$ ……残りノ本ノ一冊ノ利益

$6.5圓 + 1.3圓 = 7.8圓$ ……残り分ノ一冊ノ賣價

答 7圓80錢

式  $\{113圓 - (7圓 - 6.5圓) \times 70\} \div (130 - 70) + 6.5圓 = 7.8圓$

(別ニ)  $6.5圓 \times 130 = 845圓$ ……買入總額

$845圓 + 113圓 = 958圓$ ……賣上總額

$7圓 \times 70 = 490圓$ ……70冊ノ賣上額

$958圓 - 490圓 = 468圓$ ……残りノ賣上額

$130冊 - 70冊 = 60冊$ ……残りノ冊數

$468圓 \div 60 = 7.8圓$ ……残り分ノ一冊ノ賣價

式  $(6.5圓 \times 130 + 113圓 - 7圓 \times 70) \div (130 - 70) = 7.8圓$

- (14) 細筆20本ヲ買ハントテC0錢ヲ持チ行キシニ、4本ノ代價ト尙4錢不足

セリト云フ、細筆一本ノ價何程

(解キ方) 20本-4本=16本……四本分ノ代金不足故四本ハ買ハナイコトニシタノダ

60錢+4錢=64錢……ダガ尙金ニテ四錢不足ダカラ不足分ヲ足シタ、コレガ16本ノ代金ダ

64錢÷16=4錢……一本ノ代金 即チ 答 4 錢

(15) 玉子若干個入ノ一箱ヲ18圓20錢ニテ買ヒ之ヲ一個ニツキ8錢ヅツニ賣リテ4圓20錢ノ利ヲ得タト云フ一箱幾個入ナリシカ

(解キ方) 18.2圓+4.2圓=22.4圓……賣價ノ總額

22.4圓÷8錢=280個……求ムル個數

即チ 答 280個

(16) 或人95圓ニテ牛一頭ヲ買ヒ、ソレヨリ7週間ノ後之ヲ150圓ニテ賣レリ而シテ其牛ヲ養ヒシ間ハ毎週5.6圓ヲ要セシト云フ、此人ノ損益如何

(解キ方) 5.6圓×7=39.2圓……牛ノ飼料

95圓+39.2圓=134.2圓……支出總額

150圓-134.2圓=15.8圓……利益 答 15圓80錢

(17) 大小二數アリ、其ノ和ハ83ニシテ其ノ差ノ2倍ハ54ナリト大小各何程ナルカ

(解キ方) 54÷2=27……大小二數ノ差

83+27=110……大ノ二倍

110÷2=55……大ノ數

83-55=28……小ノ數 答 55 大 28 小

(18) 2丈8尺3寸ノ反物ニテ兄弟二人ノ着物ヲ仕立テルニ兄ノ分ハ弟ノ分ヨリ4尺3寸多ク用ヒタリト云フ幾尺ヅツナルカ

式 (283寸+43寸)÷2=163寸……兄ノ分

(283寸-43寸)÷2=120寸……弟ノ分

答 兄 1丈6尺3寸 弟 1丈2尺

(19) 兄弟ノ年齢ノ和ノ2倍ハ58ニシテ、兄ハ弟ヨリ五ツ年上ナリトイフ兄弟ノ年齢各何歳ナルヤ

式 (58歳÷2+5)÷2=17歳……兄ノ年

(58歳÷2-5)÷2=12歳……弟ノ年

答 兄17歳 弟12歳

(20) 或書物ヲ上下揃ヘテ45部買ヒシニ其代金16圓20錢ナリ、而シテ上ハ下ヨリ一冊ニツキ4錢高シトイフ上下一冊ノ價各何程ナルカ

式 (1620錢÷45+4錢)÷2=20錢……上ノ本代

(1620錢÷45-4錢)÷2=16錢……下ノ本代 答 20錢上 16錢下

(21) 或人銘仙2反ト木綿縞4反トヲ買ヒ代金合セテ26圓40錢ヲ拂ヒタリ而シテ銘仙1反ノ價ハ木綿縞1反ノ價ヨリ1圓80錢高シト云フ、各1反ノ價何程ナルカ

(考ヘ方) 此ノ問題ニ付テハ銘仙モ木綿縞ト同値ニスルコトヲ考ヘルニアリ、即チ銘仙ハ木綿縞ヨリ1反ニツキ1圓80錢高キニヨリ此ノ高キ分ヲトレハ木綿縞ト同値トナルワケナリ

(解キ方) 180錢×2=360錢……銘仙2反ノ木綿縞ヨリ高キ分

2640錢-360錢=2280錢……木綿縞(2+4)反分ニ相當ス

2280錢÷(2+4)=380錢……木綿縞1反ノ代金

380錢+180錢=560錢……銘仙1反ノ代金

答 銘仙 5圓60錢 木綿縞 3圓80錢

(22) 48間ヲ隔テ、2本ノ電柱ガアル、此ノ2本ノ柱ノ間ヘ1間半毎ニ櫻ヲ植エルニハ幾本ノ櫻ガイルカ

(解キ方)  $48間 + 1.5間 = 32 \dots \dots 48間$ ノ中ニ1間半ガ幾ツアルカヲ知ラル  
シテ櫻ノ木ハ此數ヨリ1少ナイノデア、故ニ  
 $32 - 1 = 31本 \dots \dots$ 櫻ノ木ノ數、即チ 答 31本

(23) 2里アル道路ノ兩側ニ5間ヅツ隔テテ櫻樹ヲ植エントス樹數何本ヲ  
要スルカ

(解キ方)  $60間 \times 36 \times 2 = 4320間 \dots \dots$ 2里ノ間數  
 $4320間 + 5 + 1 = 865本 \dots \dots$ 片側ニ植エル櫻ノ木ノ數  
 $865本 \times 2 = 1730本 \dots \dots$ 兩側ニ植エル櫻ノ木ノ數  
答 1730本

(24) 道ノ兩側ニ5間オキニ柱ヲ立テタルニ148本ヲ要シタリトイフ道ノ  
長サ何程カ

(解キ方)  $148本 \div 2 = 74本 \dots \dots$ 片側ニ立テタ柱ノ數  
 $74 - 1 = 73 \dots \dots$ 柱ト柱トノ間數  
 $5間 \times 73 = 365間 \dots \dots$ 道ノ間數  
 $365間 + 60間 = 6町5間 \dots \dots$ 道ノ長サ 答 6町5間

式  $5間 \times (148 \div 2 - 1) + 60間 = 6町5間$

(25) 周リガ72間ノ池ガアル、此ノ池ノ周リヘ2間毎ニ柳ヲ植エルト柳幾  
本イルカ

(解キ方)  $72間 \div 2間 = 36 \dots \dots$ 2間ヅツノ數  
此數ガ柳ノ木ト同數ナノダ 答 36本

(26) 縦13間横11間ノ地面アリ、其ノ周圍ニ杉苗ヲ植エントスルニ1間ニ  
苗14本ヅツ植ウレバ幾本ヲ要スルヤ

(解キ方)  $(13間 + 11間) \times 2 = 48間 \dots \dots$ 周圍ノ間數  
 $14本 \times 48 = 672本 \dots \dots$ 杉苗ノ總數 答 672本

(27) 甲乙二人東西兩地ヨリ同時ニ相向ヒテ出發シ毎時甲ハ34町30間、乙

ハ30町45間ヅツ歩ミタルニ7時間ノ後相會セリト云フ東西兩地ノ距離何  
程ナルヤ

式  $(34町30間 + 30町45間) \times 7 = 448町525間$

$448町 \div 36町 = 12里16町$

$525間 \div 60間 = 8町45間$

$16町 + 8町 = 24町$  答 12里24町45間

(28) 東京ヨリ神戸ニ至ル距離ハ京都ヲ通ルトキハ約150里ナリト云フ、今  
甲ハ東京ヲ發シ乙ハ神戸ヲ發シ相向ヒテ旅行スルニ甲ハ毎日13里乙ハ12  
里ヲ行ク時ハ何日後ニ兩人相會スルヤ

式  $150里 \div (13里 + 12里) = 6日$  答 6日

(29) 甲乙兩人相距ルコト70里ナル兩地ヨリ同時ニ相向ヒテ出發シ4日ノ  
後相會セリ、而シテ一日ニ甲ハ乙ヨリ1.5里ヅツ多ク歩ミタリト云フ甲乙  
兩人一日ノ行程何程ナルカ

(解キ方)  $70里 \div 4 = 17.5里 \dots \dots$ 甲乙一日ノ行程ノ和  
 $(17.5里 + 1.5里) \div 2 = 9.5里 \dots \dots$ 甲一日ノ行程  
 $9.5里 - 1.5里 = 8里 \dots \dots$ 乙一日ノ行程

答 甲9.5里 乙8里

(30) 甲乙二人アリ東西兩地ヨリ相向ヒテ出發ス、甲ハ毎日10里15町ヅツ  
歩ミ乙ハ甲ヨリ2日後レテ發シ毎日8里27町ヅツ歩ミ15日ノ後出會セリ  
東西兩地ノ距離何程ナルヤ

(解キ方)  $10里15町 + 8里27町 = 19里6町 \dots \dots$ 甲乙一日ノ行程  
 $19里6町 \times 15 = 287里18町 \dots \dots$ 兩人十五日間ノ行程  
 $10里15町 \times 2 = 20里30町 \dots \dots$ 甲二日間ノ行程  
 $287里18町 + 20里30町 = 308里12町 \dots \dots$ 東西兩地ノ距離  
答 308里12町

$$\text{式 } (10\text{里}15\text{町}+8\text{里}27\text{町})\times 15+10\text{里}15\text{町}\times 2=308\text{里}12\text{町}$$

- (31) 金100圓ヲ兄弟二人ニ分配スルニ兄ノワケ前ハ弟ノ三倍ニセントス  
各幾何ヅツナルカ

(解キ方) 弟ヲ1トスレバ兄ハ弟ノ3倍ナルニヨリ3トナルワケテアル  
故ニ

$$100\text{圓}\div(1+3)=25\text{圓}\cdots\cdots\text{弟ノ取分}$$

$$25\text{圓}\times 3=75\text{圓}\cdots\cdots\text{兄ノ取分} \quad \text{答 } \underline{75\text{圓兄}} \quad \underline{25\text{圓弟}}$$

- (32) 墨1挺ト筆1本トノ價合セテ36錢ニシテ墨ハ筆ノ3倍ヨリ4錢高シ  
トイフ、各價何程ヅツナルヤ

$$\text{式 } (36\text{錢}-4\text{錢})\div(1+3)=8\text{錢}\cdots\cdots\text{筆ノ代}$$

$$36\text{錢}-(36\text{錢}-4\text{錢})\div(1+3)=28\text{錢}\cdots\cdots\text{墨ノ代}$$

$$\text{答 } \underline{\text{筆}8\text{錢}} \quad \underline{\text{墨}28\text{錢}}$$

- (33) 兄ハ120錢弟ハ99錢ヲ持テリ、弟ヨリ幾何ヲ兄ニ與フレバ兄ノ所持  
金ガ弟ノ所持金ノ2倍トナルカ

$$\text{式 } 99\text{錢}-(120\text{錢}+99\text{錢})\div(1+2)=26\text{錢} \quad \text{答 } \underline{26\text{錢}}$$

- (34) 金1000圓ヲ三人ノ兄弟ニ分ケルニ次男ハ三男ヨリ100圓多ク、長男  
ヨリ50圓少シト云フ、各得ル所幾何ナルカ

$$\text{式 } (1000\text{圓}+50\text{圓}+50\text{圓}+100\text{圓})\div 3=400\text{圓}\cdots\cdots\text{長男}$$

$$400\text{圓}-50\text{圓}=350\text{圓}\cdots\cdots\text{次男}$$

$$350\text{圓}-100\text{圓}=250\text{圓}\cdots\cdots\text{三男}$$

$$\text{(別ニ)} (1000\text{圓}-100\text{圓}-100\text{圓}-50\text{圓})\div 3=250\text{圓}\cdots\cdots\text{三男}$$

$$250\text{圓}+100\text{圓}=350\text{圓}\cdots\cdots\text{次男}$$

$$350\text{圓}+50\text{圓}=400\text{圓}\cdots\cdots\text{長男}$$

$$\text{答 } \begin{cases} \text{長男}400\text{圓} \\ \text{次男}350\text{圓} \\ \text{三男}250\text{圓} \end{cases}$$

- (35) 甲乙二人ノ所持金合セテ1888圓ニシテ、甲ハ乙ノ7倍ヨリ112圓多  
シト云フ、然ラハ甲ハ乙ヨリ幾何多キカ

$$\text{式 } (1888\text{圓}-112\text{圓})\div(1+7)=222\text{圓}\cdots\cdots\text{乙}$$

$$222\text{圓}\times 7+112\text{圓}=1666\text{圓}\cdots\cdots\text{甲}$$

$$1666\text{圓}-222\text{圓}=1444\text{圓}\cdots\cdots\text{乙ヨリ甲ノ多キ分}$$

$$\text{答 } \underline{1444\text{圓}}$$

- (36) 甲ハ金35圓ヲ有シ乙ハ7圓ヲ有ス、甲ヨリ乙ニ何程ヲ與フレバ甲ハ乙  
ノ3倍トナルヘキカ

$$\text{式 } 35\text{圓}-(35\text{圓}+7\text{圓})\div(1+3)\times 3=3.5\text{圓} \quad \text{答 } \underline{3\text{圓}50\text{錢}}$$

- (37) 1個4錢ノモノト、7錢ノモノト取り混ゼテ20個ノ林檎ヲ買ヒ、95錢  
ヲ拂ヘリト云フ、各幾何ナルカ

$$\text{式 } (95\text{錢}-4\text{錢}\times 20)\div(7\text{錢}-4\text{錢})=5\text{個}\cdots\cdots 7\text{錢ノモノ}$$

$$20\text{個}-5\text{個}=15\text{個}\cdots\cdots 4\text{錢ノモノ}$$

$$\text{答 } \underline{15\text{個}} \quad \underline{5\text{個}}$$

- (38) 父ノ年ハ56歳ニシテ、子ハ12歳ナリ、今ヨリ何年ノ後父ノ年ハ子ノ  
年ノ3倍トナルカ

$$\text{式 } (56\text{歳}-12\text{歳})\div(3-1)=22\cdots\cdots\text{子ノ年デアル}$$

$$22\text{年}-12\text{年}=10\text{年} \quad \text{答 } \underline{10\text{年}}$$

- (39) 大小二數アリ、其ノ積ハ102ニシテ小ナル方ハ6ナリト云フ、此二  
數ノ和ハ何程ナルカ

$$\text{式 } 102\div 6=17\cdots\cdots\text{大ナル數}$$

$$17+6=23\cdots\cdots\text{大小ノ和} \quad \text{答 } \underline{23}$$

- (40) 120間ノ道路ノ兩側ニ8尺ヅツ隔テテ柳ノ木ヲ植エントス總計何本ヲ  
要スルカ

$$\text{式 } 6\text{尺}\times 120=720\text{尺}\cdots\cdots 120\text{間ノ尺數}$$

$$(720\text{尺}\div 8\text{尺}+1)\times 2=182 \quad \text{答 } \underline{182\text{本}}$$

- (41) 金3圓ヲ所持セシ人今卵180個ヲ買ヒタルニ卵3個ノ代金ト外ニ9

厘不足セリトイフ卵1個ノ價何程ナルカ

式  $(3\text{圓}+.009\text{圓})\div(180-3)=.017\text{圓}$  答 1錢7厘

- (42) 横2間、縦2間3尺ノ室ノ疊替ヘヲナスニ、疊表1枚1圓75錢ニシテ、手間賃其他ノ費用ハ全部ニテ5圓ヲ要ストイフ總額何程ナルカ

式  $2.5\text{間}\times 2\text{間}=5\cdots\cdots$ 坪數

$2\text{枚}\times 5=10\text{枚}\cdots\cdots$ 疊數

$1.75\text{圓}\times 10+5\text{圓}=22.5\text{圓}$  答 22圓50錢

- (43) 南北兩倉ノ米ヲ檢シタルニ南倉ニハ55俵、北倉ニハ79俵アリ、今兩倉ノ俵數ヲ等シクセンニハ北倉ヨリ南倉ニ幾俵ヲ移スヘキカ

式  $79\text{俵}-(79\text{俵}+55\text{俵})\div 2=12\text{俵}$  答 12俵

- (44) 1部ガ上下2冊ヨリナル本アリ、一部ノ代金75錢ニシテ上卷ハ下卷ヨリ5錢高シ、今或人此本ヲ15部ト下卷ノミ20冊トヲ買ヘリト云フ代金何程ヲ拂フヘキカ

式  $(75\text{錢}-5\text{錢})\div 2=35\text{錢}\cdots\cdots$ 下卷ノ代金

$75\text{錢}\times 15+(75\text{錢}-5\text{錢})\div 2\times 20=1825\text{錢}$  答 18圓25錢

- (45) 大豆1升ト小豆1升トノ價ノ和ハ38錢ナリ、大豆5升ト小豆1斗3升トノ價ノ和ハ3圓90錢ナリトイフ、各1升ノ代金何程ナルヤ

(解キ方) 大豆 小豆 價

1升ト 1升トハ 38錢

5升ト 5升トハ  $38\text{錢}\times 5=190\text{錢}$ トナル……(1)

5升ト 13升トハ 390錢デアルカラ……(2)

(2)ヨリ(1)ヲ引ケバ大豆ガナクナツテ次ノ如クナル

小豆 $(13\text{升}-5\text{升})=390\text{錢}-190\text{錢}=200\text{錢}\cdots\cdots$ 大豆ノ價ガナク

ナツテ小豆8升ノ價トナル

故ニ  $200\text{錢}\div 8=25\text{錢}\cdots\cdots$ 小豆1升ノ代金

$88\text{錢}-25\text{錢}=13\text{錢}\cdots\cdots$ 大豆1升ノ代金

答 大豆1升 13錢 小豆1升 25錢

式  $(390\text{錢}-38\text{錢}\times 5)\div(13\text{升}-5\text{升})=25\text{錢}\cdots\cdots$ 小豆1升ノ代金

$38\text{錢}-25\text{錢}=13\text{錢}\cdots\cdots$ 大豆1升ノ代金

# 法律目次

## 警察法

一 警察ノ意義ヲ問フ……………	一
二 警察權ノ基礎ヲ問フ……………	一
三 警察權ノ限界……………	一
四 警察ノ分類ヲ問フ……………	一
五 國家警察ト地方警察トノ別ヲ問フ……………	二
六 保安警察ト特殊警察トノ別ヲ問フ……………	二
七 高等警察ト普通警察トノ別ヲ問フ……………	二
八 司法警察ト行政警察トノ別ヲ問フ……………	二
九 豫防警察ト鎮壓警察トノ別ヲ問フ……………	二
一〇 警察機關ノ意義及種類ヲ問フ……………	三
一一 內務大臣ノ警察權ヲ問フ……………	三
一二 地方長官ノ警察權ヲ問フ……………	三
一三 警察署長及分署長ノ警察權ヲ問フ……………	三
一四 警察官ノ意義ヲ問フ……………	三
一五 警察作用(行爲)ノ意義ヲ問フ……………	四
一六 下命トハ何ソヤ……………	四
一七 許可トハ何ソヤ……………	四
一八 認可トハ何ソヤ……………	四
一九 警察罰ノ意義ヲ問フ……………	四
二〇 警察上ノ強制手段ヲ問フ……………	五
二一 代執行トハ何ソヤ……………	五
二二 執行罰トハ何ソヤ……………	五
二三 直接強制トハ何ソヤ……………	五
二四 直接處分ノ意義ヲ問フ……………	五
二五 檢束ノ意義ヲ問フ……………	六
二六 假領置トハ何ソヤ……………	六
二七 強制健康診斷及治療ニ就テ記セ……………	六
二八 警察上家宅ノ侵入ニ付テ問フ……………	六
二九 土地物件ノ使用處分及使用ノ制限ヲ問フ……………	六

- 三〇 試験品ノ收去ヲ問フ……………七
- 三一 武器ノ使用ヲ説明セヨ……………七
- 三二 集會トハ何ソヤ……………七
- 三三 結社ノ意義ヲ問フ……………七
- 三四 質屋古物商取締ノ要旨ヲ問フ……………七
- 三五 法定傳染病ヲ舉ケヨ……………八
- 三六 宿屋取締ノ要旨ヲ問フ……………八
- 三七 賣笑婦取締ノ要旨ヲ問フ……………八

刑法

- 一 刑法ノ意義ヲ問フ……………九
- 二 刑法ノ種類ヲ舉ケヨ……………九
- 三 刑法ノ效力……………九
- 四 犯罪ノ意義ヲ問フ……………九
- 五 犯罪ノ主體及客體トハ何ソ……………一〇
- 六 行爲ノ意義ヲ問フ……………一〇
- 七 違法行爲トハ何ソ……………一〇

- 八 緊急防衛(正當防衛)ヲ説明セヨ……………一〇
- 九 緊急避難ヲ説明セヨ……………一一
- 一〇 自害及被害者ノ承諾ハ罪トナルヤ……………一一
- 一一 責任無能力者トハ如何……………一一
- 一二 犯意トハ何ソヤ……………一一
- 一三 過失トハ何ソヤ……………一二
- 一四 犯罪行爲ノ段階ヲ説明セヨ……………一二
- 一五 未遂罪ヲ問フ……………一二
- 一六 中止犯ヲ説明セヨ……………一二
- 一七 間接正犯トハ何ソヤ……………一三
- 一八 共犯ヲ論スヘシ……………一三
- 一九 繼續犯、連續犯及牽連犯ヲ説明セヨ……………一三
- 二〇 累犯ヲ問フ……………一三
- 二一 刑ノ執行猶豫ヲ問フ……………一四
- 二二 刑罰ノ意義及種類ヲ問フ……………一四
- 二三 皇室ニ對スル罪ヲ問フ……………一四
- 二四 内亂罪ニ付テ問フ……………一四

刑事訴訟法

- 二五 公務ノ執行ヲ妨害スル罪ヲ問フ……………一四
- 二六 逃走ノ罪ヲ問フ……………一五
- 二七 騷擾罪ヲ問フ……………一五
- 二八 放火及失火ノ罪ヲ問フ……………一五
- 二九 住所ヲ侵ス罪ヲ問フ……………一五
- 三〇 通貨偽造變造ノ罪ヲ問フ……………一五
- 三一 文書偽造罪ヲ問フ……………一五
- 三二 賭博及富籤ノ罪ヲ問フ……………一五
- 三三 誣告罪ヲ問フ……………一六
- 三四 殺人罪ヲ問フ……………一六
- 三五 傷害罪ヲ問フ……………一六
- 三六 逮捕及監禁ノ罪ヲ問フ……………一六
- 三七 脅迫ノ罪ヲ問フ……………一七
- 三八 竊盜ノ罪ヲ問フ……………一七
- 三九 強盜ノ罪ヲ問フ……………一七
- 四〇 詐欺罪……………一七
- 四一 恐喝ノ罪ヲ問フ……………一七

- 四二 横領ノ罪ヲ問フ……………一八
- 四三 贓物ニ關スル罪ヲ問フ……………一八
- 四四 毀棄ノ罪ヲ問フ……………一八

刑事訴訟法

- 一 刑事訴訟法ノ意義ヲ問フ……………一九
- 二 訴訟主體トハ何ソヤ……………一九
- 三 彈劾主義ト糾問主義トノ別ヲ問フ……………一九
- 四 裁判所ノ管轄ヲ問フ……………一九
- 五 事物ノ管轄ヲ記セ……………二〇
- 六 土地ノ管轄……………二〇
- 七 檢事ノ職務ヲ問フ……………二二
- 八 被疑者ト被告人トノ別ヲ問フ……………二二
- 九 搜查トハ如何ナルモノソ……………二二
- 一〇 現行犯ヲ説明セヨ……………二二
- 一一 準現行犯トハ如何……………二二
- 一二 緊急事態トハ如何……………二三

- 一三 召喚ノ意義ヲ問フ……………三三
- 一四 勾引トハ如何……………三三
- 一五 勾留ノ意義ヲ問フ……………三三
- 一六 保釋責付及勾留ノ執行停止ヲ問フ……………三三
- 一七 押收及搜索ノ意義ヲ問フ……………三三
- 一八 證人トハ何ソヤ……………三三
- 一九 鑑定ノ意義ヲ問フ……………三三
- 二〇 告訴トハ如何……………三四
- 二一 告發トハ如何……………三四
- 二二 自首トハ如何……………三四
- 二三 公訴トハ如何……………三四
- 二四 公訴時効トハ如何……………三四
- 二五 公訴權ノ消滅原因ヲ述ヘヨ……………三四
- 二六 豫審トハ如何……………三五
- 二七 公判トハ如何……………三五
- 二八 公判審理ノ順序……………三五
- 二九 一事不再理ノ原則トハ如何……………三五

- 三〇 上訴ノ意義ヲ問フ……………三六
- 三一 控訴トハ如何……………三六
- 三二 上告トハ如何……………三六
- 三三 抗告トハ如何……………三六
- 三四 再審及非常上告……………三六

憲法

- 一 憲法ノ意義ヲ問フ……………三七
- 二 三權分立主義トハ何ソヤ……………三七
- 三 國家ノ意義ヲ問フ……………三七
- 四 國體トハ如何……………三七
- 五 政體トハ如何……………三八
- 六 立憲政體ト專制政體トヲ説明セヨ……………三八
- 七 憲法ノ種類ヲ問フ……………三八
- 八 憲法ノ改正手續ヲ問フ……………三八
- 九 統治權ノ主體トハ何ソ……………三九
- 一〇 天皇ノ特權ニ付テ記セ……………三九

- 一一 皇位繼承トハ如何……………三九
- 一二 領土トハ如何……………三九
- 一三 臣民トハ何ソヤ……………三九
- 一四 臣民ノ權利ニ就テ問フ……………三九
- 一五 參政權トハ如何ナルモノソ……………三九
- 一六 行爲請求權ヲ問フ……………三九
- 一七 兵役納稅ノ義務ヲ問フ……………三九
- 一八 自由權ヲ問フ……………三九
- 一九 攝政トハ何ソ……………三九
- 二〇 國務大臣トハ如何……………三九
- 二一 國務大臣副署ノ責任ヲ問フ……………三九
- 二二 樞密顧問ニ就テ知ル所ヲ記セ……………三九
- 二三 帝國議會ノ意義ヲ問フ……………三九
- 二四 貴族院ノ組織ヲ問フ……………三九
- 二五 衆議院ニ就テ記セ……………三九
- 二六 普通選舉トハ如何……………三九
- 二七 議會ノ解散トハ如何……………三九

行政法

- 一 行政ノ意義ヲ問フ……………三五
- 二 行政法トハ如何……………三五
- 三 官治ト自治トノ別ヲ問フ……………三五
- 四 中央集權ト地方分權トノ別ヲ問フ……………三五
- 五 行政官廳トハ何ソヤ……………三五
- 六 中央官廳ト地方官廳トノ別ヲ問フ……………三六
- 七 普通官廳ト特別官廳トノ別ヲ問フ……………三六
- 八 各省大臣ニ就テ知ル所ヲ記セ……………三六
- 九 府縣知事ニ就テ知ル所ヲ記セ……………三六
- 一〇 官吏ノ意義ヲ問フ……………三七



- 一一 官吏ノ權利ヲ問フ……………三七
- 一二 官吏ノ義務ヲ問フ……………三七
- 一三 官吏ノ服從義務ヲ問フ……………三七
- 一四 自治トハ何ソヤ……………三八
- 一五 地方團體トハ如何……………三八
- 一六 市町村ノ機關……………三八
- 一七 公共組合トハ何ソ……………三八
- 一八 營造物ノ意義ヲ問フ……………三八
- 一九 行政行為ノ意義ヲ問フ……………三九
- 二〇 行政法規トハ何ソ……………三九
- 二一 行政處分トハ如何ナルモノソ……………三九
- 二二 許可(免許)トハ如何……………三九
- 二三 認可ト特許トノ別ヲ問フ……………三九
- 二四 行政上ノ強制手段トハ何ソ……………三九
- 二五 行政上ノ救濟手段ヲ問フ……………四〇
- 二六 訴訟ノ意義ヲ記セ……………四〇
- 二七 行政訴訟ノ意義ヲ問フ……………四〇

- 二八 行政ノ監督トハ何ソヤ……………四〇
- 二九 權限爭議ヲ説明セヨ……………四一

裁判所構成法

- 一 裁判所構成法ノ性質ヲ述ヘヨ……………四三
- 二 裁判所ノ職員ハ如何ナル者ナリヤ……………四三
- 三 裁判所ノ組織ヲ略說セヨ……………四三
- 四 區裁判所ノ構成及其權限ノ大略ヲ記セ……………四三
- 五 地方裁判所ノ構成及其權限ノ大略ヲ記セ……………四五
- 六 控訴院ノ構成及其權限ノ大略ヲ記セ……………四五
- 七 大審院ノ構成及其權限ノ大略ヲ記セ……………四五
- 八 裁判長ト裁判所長又ハ部長トノ區別如何……………四五
- 九 判決例ノ意義及效力ヲ問フ……………四六
- 一〇 檢事局ノ組織ヲ述ヘヨ……………四六

- 一一 區裁判所檢事ノ事務ヲ取扱フコトヲ得ル官吏アリヤ……………四六
- 一二 司法權ノ獨立トハ何ソ……………四六
- 一三 開廷ノ意義ヲ述ヘ其公開トノ區別ニ及フヘシ……………四七
- 一四 訴訟指揮及法廷警察トハ何ソ……………四七
- 一五 裁判ノ評議トハ何ソ……………四八
- 一六 裁判所ノ共助ノ意義及共助事項ヲ略說セヨ……………四八
- 一七 司法行政ノ機關及監督ニ付知ル所ヲ記セ……………四九

監獄法

- 一 監獄法トハ如何……………五一
- 二 刑務所トハ如何……………五一
- 三 刑務所ハ何ノ爲メニ設置スルヤ……………五一
- 四 刑務所(即チ監獄)ノ種類ヲ問フ……………五一

- 五 刑務所ハ參觀ヲ許スヤ……………五一
- 六 新入監アリタルトキノ措置如何……………五二
- 七 在監者ノ拘禁ハ如何ニ區別スルヤ……………五二
- 八 新ニ入監スル婦女ハ其子ヲ携帶スルコトヲ得ルヤ……………五二
- 九 囚人中獨居拘禁ニ付セラルル者ヲ擧ケヨ……………五二
- 一〇 夜間ノミ獨居監房ニ拘禁スヘキ囚人ハ如何……………五三
- 一一 雜居監房ニ付テノ諸規定ヲ述ヘヨ……………五三
- 一二 戒具ノ種類及其ノ使用スヘキ場合ヲ問フ……………五三
- 一三 監獄官吏ノ携帶スル劍又ハ銃ヲ使用スル場合ヲ説明スヘシ……………五三
- 一四 在監者懲罰處分ノ種類如何……………五四
- 一五 天災事變ニ際シ在監者ヲ如何ニ處置スルヤ……………五四

一六 刑事被告人ト既決囚トノ給與上ノ差異如何……………五五

一七 就役ヲ免スル日ト場合トヲ説ケ……………五五

一八 在監者ニ手當金ヲ給與スル場合ヲ説明セヨ……………五五

一九 在監者ニ賞金ヲ給スル場合ヲ列舉セヨ……………五五

二〇 在監者ニ作業ヲ課スル標準ヲ問フ……………五五

二一 作業賞與金ノ計算方ヲ説明セヨ……………五五

二二 作業賞與金ノ計算ヲ爲ササル在監者ヲ舉ケヨ……………五五

二三 監外ノ作業ニ就カシムルヲ得サル在監者ノ種類ヲ問フ……………五五

二四 在監者ニ許サルル接見ニ就テ記セ……………五五

二五 在監者ハ信書ノ發受ヲナシ得ラルヤ……………五五

二六 刑事被告人及受刑者ニ差入レ得ヘ……………五六

二七 キ物品ヲ舉ケヨ……………五六

二七 在監者ニ宛テ送致ノ物品ヲ没入又ハ廢棄シ得ヘキ場合ヲ問フ……………五七

二八 在監者賞遇ノ場合及方法ヲ問フ……………五七

二九 在監者逃走シタルトキノ措置ヲ問フ……………五七

三〇 在監者ノ教育ニ關スル規定ヲ述ヘヨ……………五七

三一 文書圖書ノ閱讀ニ係ル規定ヲ問フ……………五七

三二 教誨ノ目的及種類ヲ問フ……………五七

三三 在監者ノ衛生ニ付テ概略ヲ記セ……………五七

三四 在監者情願ヲ爲ストキ其取扱方如何……………五七

三五 在監者ノ釋放規定ノ概要ヲ述ヘヨ……………五七

三六 假釋放者ノ遵守スヘキ事項ヲ記セ……………五七

三七 死刑執行ノ方法ヲ述ヘヨ……………五七

三八 在監者死亡シタルトキノ處置如何……………五七

三九 受刑者死體ノ解剖及埋葬方ヲ問フ……………五七

四〇 刑務所ニ於テ用語上注意スヘキ點ヲ述ヘヨ……………五六

# 法律

## 警察法

一 警察ノ意義ヲ問フ  
警察トハ公共ニ對スル危害ヲ防止スル爲メ直接ニ人ノ自由ヲ制限スル權力作用ナリ、茲ニ公共トハ社會生活ヲ意味ス、危害ノ防止トハ社會生活ノ秩序維持ニ對スル侵害ナリ、警察ハ此ノ危害ニ對シ或ハ未前ニ或ハ發生後ニ之ヲ防止ス警察ノ作用ハ國家權力ヲ以テ直接ニ人ノ自由ヲ制限シ身體財産ニ拘束ヲ加フルヲ以テ特色トナス。

二 警察權ノ基礎ヲ問フ  
凡ソ法治國ニ在リテハ國民ノ行爲ヲ拘束スルニハ必ヤ法規ノ根據アルコトヲ要ス、故ニ警察權ノ發動ニ依リ人民ヲ拘束スル場合ニ於テ亦然リ即チ警察權ノ基礎ハ法規ニ在リト謂フヘシ、警察法規ニハ法律アリ命令アリ、法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ天皇ノ裁可公布セラレタル法規ヲ云ヒ、命令ハ天皇自ラ發シ(勅令)又ハ機關ヲシテ發セシムル法規(閣令省令廳府縣令等)ヲ云フ。

法律

## 三 警察權ノ限界

警察權ノ發動ハ元ヨリ法規ニ據ルコトヲ要スルカ故ニ警察權ニハ自ラ一定ノ限界ヲ有ス、此ノ限界ニハ各種ノ原則アリ。

(イ) 警察官廳ハ法律命令ノ規定ニ基キテノ警察權ヲ行フコトヲ得(説明前同)

(ロ) 警察權ハ社會生活ノ秩序ヲ維持スルカ爲メニ之ヲ行ヒ福利ヲ進メ文化開發ノ爲メニ行フモノニ非ス。

(ハ) 警察ハ人民ノ私生活ニ干渉スルコトヲ得ス。

(ニ) 警察ハ單純ナル民事關係ニ關與スヘカラス。

(ホ) 警察ハ危害防止又ハ殺滅ニ必要ナル範圍ニ於テ之ヲ爲スヘキナリ。

(ヘ) 危害ノ除去ニ他ノ社會上ノ不利益ヲ伴フ場合ニハ其ノ生スヘキ社會上ノ不利益カ除クヘキ危害ヨリモ小ナル場合ニ限ル、然ラサル場合ハ已ムヲ得サル害惡トシ之ヲ放任セサルヘカラス。

四 警察ノ分類ヲ問フ  
警察ハ其ノ觀察方ノ如何ニ依リ種々ニ分類スルコトヲ得(イ)國家警察ト地方警察(ロ)保安警察ト特殊警察(ハ)

高等警察ト普通警察(ニ)行政警察ト司法警察(ホ)豫防警察ト鎮壓警察等ニ區別ス。

五 國家警察ト地方警察トノ別ヲ問フ

我カ國ノ警察ハ皆國家ノ行政トシテ官廳ニ於テ司掌スルカ故ニ純理ヨリ言ヘハ悉ク國家警察ニシテ地方警察ナルモノナキ如キモ訴願法ニ於テハ地方警察ニ對シテ訴願ヲ爲スコトヲ得ト規定スルカ故ニ之カ解釋ノ必要ヲ生ス、内務省ノ見解ニテハ影響スル利害ノ廣狹ニ依リ區別シ即チ一般國家ノ利害ニ關係アルモノハ國家警察トシ一地方ノ利害ノミニ限局セラルモノヲ地方警察ナリトセリ闘牛ノ不認可、質屋營業ノ不許可、墓地新設不許可ノ如キハ後者ノ例ナリ。

六 保安警察ト特殊警察トノ別ヲ問フ

保安警察トハ一般ニ社會ノ安寧秩序ヲ保持スルカ爲メノ警察ヲ云フ即チ警察本來ノ警察ノ謂ニテ特殊警察トハ特殊ノ行政ヲ行フニ當リ之ニ伴フテ生スル障害ヲ除ク爲メノ警察ヲ云フ例之衛生警察、産業警察、鑛業警察ノ如キ之ナリ。

七 高等警察ト普通警察トノ別ヲ問フ

一〇 警察機關ノ意義及種類ヲ問フ

警察機關ニハ主トシテ警察權行使ノ任ニ當ル警察機關アリ例之内務大臣、地方長官及警察署長警察分署長ノ如シ又各種ノ行政ニ隨伴シテ警察權ヲ行フ場合アリ例之農林大臣カ森林、農業、水産ニ商工大臣カ工場、鑛業ニ大藏大臣カ銀行、貨幣ニ鐵道大臣カ鐵道ニ關シテ警察權ヲ行フカ如シ。

一一 内務大臣ノ警察權ヲ問フ

内務大臣ハ國ノ最高警察機關ナリ、内務大臣ハ警察ニ關シテ内務省令ヲ發シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督シ、是等官廳ノ違法又ハ不當處分ニ對シ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得ヘク特定ノ事項ニ關シテハ警察處分ヲ爲ス例之火藥、爆藥ノ製造許可、新聞紙出版物ノ發賣頒布禁止、結社ノ禁止ノ如シ、警保局衛生局ナル補助機關ヲ設ケ警察ノ事務ヲ掌理セシム。

一二 地方長官ノ警察權ヲ問フ

地方長官ハ中級ノ警察官廳ニシテ警察官廳中最モ重要ナルモノナリ、部内ノ警察事務ニ就キ廳府縣令ヲ發シ重要ナル警察處分ヲ爲シ且下級官廳ヲ指揮監督ス、非常急變

高等警察トハ國家又ハ廣ク社會公共ノ安寧秩序ヲ保持スルカ爲メノ警察ヲ云フ、例之集會、結社、出版、選舉等ニ關スル警察ノ如シ、普通警察トハ主トシテ一個人ノ安寧ヲ維持スルカ爲メノ警察ヲ云フ、例之營業、保安等ニ關スル警察ノ如シ。

八 司法警察ト行政警察トノ別ヲ問フ

司法警察トハ犯罪ノ捜査及犯人ノ逮捕ヲ目的トスル警察ニシテ行政警察トハ司法警察以外ノ警察ヲ云フ、司法警察ハ司法權發動ノ補助行爲ニシテ寧ロ司法系統ニ屬シ純然タル警察作用ニアラス適々行政警察機關ト其ノ機關ヲ同フシ警察トシテモ早クヨリ發達シ沿革上人民ノ腦裏ニ深刻マルモノナリ、行政警察ハ警察意義トシテ述フル所ニ同シ。

九 豫防警察ト鎮壓警察トノ別ヲ問フ

豫防警察トハ危害ノ未タ發生セサルニ當リ豫メ之ヲ防止スル警察ヲ云フ例之危險ナル道路ノ交通ヲ禁止シ、娼妓ノ健康診斷ノ如シ、鎮壓警察トハ既ニ發生セル危害ヲ擴大又ハ繼續スルヲ防止スル警察ヲ云フ例之火災消防、傳染病撲滅ハ之ニ屬ス。

ノ場合又ハ警護ノ爲メ必要アルトキハ師團長ニ出兵ノ要求ヲ爲スコトヲ得。

一三 警察署長及分署長ノ警察權ヲ問フ

原則トシテ都市ニ警察署ヲ置キ、必要ト認ムル場合警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトアリ共ニ最下級ノ警察官廳ナリ、警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充テ警察分署長ハ警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ受ケ管轄部内ノ警察及衛生ノ事務ヲ掌リ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス。

一四 警察官ノ意義ヲ問フ

警察官トハ警察官廳又ハ其ノ補助機關ヲ組織スル官吏ニシテ執行權ヲ有シ實力行使ノ任ニ當ル者ヲ云フ、警察官ハ地方官廳ニ隸屬シ東京府ハ警視總監ノ下ニ警務部長ヲ最高執行官トシ北海道廳及各府縣ニ在リテハ知事又ハ道廳長官ノ下ニ警察部長ヲ最高執行官トシ警視、警部、警部補及巡査之ニ屬シ警察事務ノ執行ニ任ス補助機關ハ獨立ノ權限ナキヲ原則トシ特別ノ法令又ハ上官ノ訓令訓示ニ依リ其ノ職務ヲ行フハ同時ニ其ノ權限ニシテ然モ其ノ權限内ニ於ケル行爲ハ即チ國家行爲ナルカ故ニ強制ノ權力

ヲ有スルヤ論ナキナリ。

一五 警察作用(警察)ノ意義ヲ問フ

警察作用ニハ一般抽象的ノ法則ヲ定ムルト個々ノ場合ニ關スルモノトアリ前者ヲ警察法規ト云ヒ後者ヲ警察處分ト云フ。

(イ) 警察法規 ニハ法律ト命令トアリ、命令ニハ勅令、省令、府縣令等アリ何レモ警察ノ目的ノ爲メニ人民ノ自由ヲ制限スル法規ナリ。

(ロ) 警察處分 トハ特定ノ場合ニ關シ警察權ノ發動スルヲ云フ、其ノ種類ニハ下命、許可、認可、證明、警察罰及警察強制等アリ。

一六 下命トハ何ソヤ

下命トハ國家ノ警察權ニ基キ警察上ノ目的ノ爲メニ人民ニ對シ作爲、不作爲又ハ受忍等ノ義務ヲ命スル處分ナリ。下命ハ特定ノ一人ニ對シ下サルコト多シ、又不定多數ノ人ニ對シテ命スルコトアリ、例之一町村内ノ全部ニ大掃除ヲ命シ、虎疫流行ノ際某地ニ對シテ交通ヲ遮斷シ或ハ通行止ノ如キ之ニ屬ス、下命ハ常ニ法規ノ根據アルコトヲ必要トス。

一七 許可トハ何ソヤ

一般ニ禁止セラレタル行爲ニ關シ特別ノ場合ニ其ノ禁止ヲ解除處分ヲ云フ故ニ絕對的禁止ニ對シテハ許可ヲ爲スコトヲ得ス例之亞片吸飲禁止、祕密結社ノ禁止ノ如シ許可ハ常ニ相對的禁止ニ對スルモノナリ即チ質屋、古物商營業ノ許可、建築許可、拳銃携帯許可等ノ如シ。

一八 認可トハ何ソヤ

認可トハ個人若ハ法人ノ行爲ニ法律上ノ效力ヲ附與スル處分ヲ云フ例之警察取締ニ屬スル營業組合規約ノ認可ノ如シ、認可ナキ行爲ハ處罰ヲ受クルコトナキモ法律上ノ效力ヲ發生セサルノミ。

一九 警察罰ノ意義ヲ問フ

警察罰トハ警察義務不履行ニ對スル制裁トシテ懲役、禁錮、罰金、拘留、科料等ノ刑罰ヲ科スルヲ云フ、國家カ法令又ハ處分ニ依リ人民ニ義務ヲ負ハスト雖モ之ヲ履行セサルニ於テハ其ノ目的ヲ實現スルヲ得ス、故ニ之ヲ確實ナラシムル爲メ違反者ニ刑罰ヲ科ス之ヲ警察罰ト云フ、刑法ノ科罰ハ法益ノ侵害其ノモノニ對シテ科スルモ警察罰ハ警察義務不履行者ニ對シテ科スル制裁ナリ。

二〇 警察上ノ強制手段ヲ問フ

警察法規又ハ處分ニ依リ私人が其ノ負擔スル義務ヲ從順ニ行フトキハ何等ノ問題ヲ生セサルモ往々ニシテ之ニ服從セサル場合アリ、是ニ於テカ行政上ノ強制手段ヲ必要トス、故ニ此ノ強制方法ハ必ス或特定ノ人ニ對シ特定ノ行爲不行爲ヲ強制スルヲ目的トス其ノ手段ニ三アリ(一)代執行(二)執行罰(三)直接強制是ナリ。

二一 代執行トハ何ソヤ

代執行トハ特定ノ行爲ヲ爲スヘキ義務アル者カ其ノ義務ヲ履行セサルトキ官廳自ラ之ヲ爲シ又ハ他人ヲシテ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルヲ云フ例之清潔法執行ヲ命シタルニ執行セサル場合代執行ヲ爲スカ如シ代執行ハ(一)行爲義務ノ強制ニシテ他人カ代ツテ爲シ得ルコト(二)豫メ戒告ヲ爲スコトヲ要ス但急迫ノ場合ハ此ノ限ニ非ス(三)無資力者ニ對シテハ費用ノ徴收不能ナレハ之ヲ爲スモ其ノ效果ナシ。

二二 執行罰トハ何ソヤ

執行罰トハ代執行ヲナスコトヲ得サル行爲義務又ハ不行爲義務ヲ強制スル爲メ一定ノ過料ヲ科スルヲ云フ例之娼

妓ノ健康診斷ヲ受クル義務ノ如シ、執行罰ハ警察罰ノ罰金科料ト均シク金錢ノ強制徴收ヲ爲スモ執行罰ハ過料ニシテ刑罰ニ非ス從ツテ一事不再理ノ原則ノ適用ナシ、執行罰ハ代執行ノ如ク直接ニ其ノ行爲ヲ強制スルニ非スシテ一定ノ金額ヲ納付セシメ間接ニ其ノ行爲ヲ強制ス

二三 直接強制トハ何ソヤ

直接強制トハ代執行又ハ執行罰ニ依リ義務ノ強制ヲナス能ハス又ハ急迫ノ事情アルトキ之ヲ爲ス例之鐵道線路ヲ通行スル者ニ對シテ危險切迫ノ刹那腕力ヲ用ヒ其ノ通行人ヲ強制シテ線路外ニ引出ス場合ノ如シ直接強制ハ終局的手段ニ付名ヲ急迫ニ藉リ安リニ之ヲ行フヲ得ス。

二四 直接處分ノ意義ヲ問フ

直接處分トハ警察上ノ必要ニ基キ職權トシテ實力ヲ用フル處分ナリ危害防止ヲ前提トスルモ個人カ義務不履行ヲ前提トセス、此ノ點ニ於テ直接強制トハ異ル直接處分ノ適例トシテハ防火ノ必要上家屋ノ取毀ヲ爲スカ如シ此ノ場合家屋ノ所有者ハ其ノ實力行使ヲ甘受シ之ヲ忍ブノ義務アルモノトス反之交通ニ危險ヲ及ホス家屋ノ取毀ヲ命セハ受命者ハ之ニ從フノ義務ヲ負擔ス此ノ義務ヲ履行セ

サルトキハ代執行又ハ直接強制ヲ爲スコトアルモ直接處分ヲ爲スニ由ナキナリ。

二五 檢束ノ意義ヲ問フ

檢束トハ身體ノ自由ヲ拘束スルヲ謂フ、其ノ方法ハ或ハ制縛ヲ施スト或ハ一定ノ場所ニ監禁スルト單ニ監守者ヲ附スルトヲ問ハサルナリ、其ノ方法ハ一ニ執行官ノ任意トス、檢束スヘキ場合ハ本人ノ救護ト犯罪ノ防止トニ在リ、行政執行法ハ前者ノ例トシテ泥酔者、癡癲者、自殺ヲ企ル者ヲ示シ後者ノ例トシテ暴行、鬭爭、其ノ他ノ公安ヲ害スル者ヲ擧ケタリ。

二六 假領置トハ何ソヤ

假領置トハ警察上危害ヲ生スル虞アル物件ニ付一時其ノ占有ヲ奪ヒ之ヲ警察官廳ニ保管スル處分ナリ、檢束ヲ加フヘキ者カ武器、兇器其ノ他危険ノ虞アル物件ヲ所持スルトキバ其ノ物件ヲ取上ケ三十日未滿内假領置ヲ爲スコトヲ得ルナリ。

二七 強制健康診斷及治療ニ就テ記セ

娼妓及密賣淫犯者若ハ其ノ前科者ニシテ尙密賣淫ノ常習アル者ニ對シ其ノ健康ヲ診斷シ必要ニ依リテハ入院治療

ヲ強制スルコトヲ得ルモノトス密賣淫犯者等ノ入院治療ニ要スル費用ハ本人又ハ媒介者ノ負擔ト爲シ若シ資力ナシト認ムルトキハ廳府縣警察費ヲ以テ支辨スルモノトス。

二八 警察上家宅ノ侵入ニ付テ問フ

住所ハ生活ノ城廓ナリ妄リニ侵入ヲ許ササルコトハ憲法ノ保障スル處ナリ行政執行法ニ日出前日没後ハ生命身體又ハ財産ニ對シ危害切迫シ又ハ賭博密賣淫ノ現行犯アリト認ムルトキハ現住者ノ意思ニ反シ家宅ニ侵入スルコトヲ得尤モ旅店、割烹店、劇場、湯屋其ノ他夜間ト雖業人ノ出入スル場所ハ其ノ公開中侵入スルコトヲ妨ケサルナリ。

二九 土地物件ノ使用處分及使用ノ制限ヲ問フ

警察官廳ハ危害豫防又ハ衛生ノ爲メ必要ト認ムルトキハ土地物件ヲ使用處分シ又ハ其ノ使用ヲ制限スル權限ヲ有ス、例之洪水ノ場合堤防決潰防止ノ爲メ他人ノ土地ニ立入り家具蠟材木等ヲ使用シ火災ノ場合火道ヲ斷ツ爲メ家屋ヲ破壊シ傳染病流行ノ際或ル井水ノ使用ヲ禁スルカ如シ。

三〇 試驗品ノ收去ヲ問フ

販賣用ノ物品ニ付危害ナキヤ否ヲ検査スルカ爲メニ試驗ニ必要ナル分量ヲ收去スルコトヲ得、此ノ場合ノ收去ハ沒收ニ非ス又公用徵收ニモ非ス警察上ノ目的ノ爲メニ事實上私人ノ物件ヲ處分スル行爲タリ飲食物ニ對シテ此ノ適用アリ。

三一 武器ノ使用ヲ説明セヨ

武器ノ携帯及使用ハ一般ニ禁止スルモ警察官ニノミ刀及拳銃ノ携帯ヲ許スカ故ニ警察ノ目的ノ爲メニ實力ヲ行使スル場合ト雖武器ノ使用ハ慎重ニセサルヘカラス即チ第一次ハ警察官ノ腕力使用ヲ以テ自由ヲ制限シ第二次トシテ騷擾鎮壓又ハ人ノ生命身體若ハ財産ヲ防衛ノ爲メ其ノ他職務執行ニ當リ或ハ職務上警護スル人、場所、物件ヲ支持スルニ當リ暴行ヲ受ケ又ハ暴行ヲ受ケムトシ其ノ情況急迫ニシテ武器ヲ使用スルノ外他ニ手段ナキ場合ハ之ヲ使用スルコトヲ得ルモ其ノ使用ハ防衛上必要ノ範圍ヲ超越スヘカラス、特ニ關係ナキ者ニ危害又ハ損害ヲ加ヘサル様十分注意スヘキナリ。

三二 集會トハ何ソヤ

法律

三三 結社ノ意義ヲ問フ

結社トハ特定ノ多數人カ共同ノ目的ノ爲メニ合意ニ依リ結合シタル永續的ノ團體ヲ云フ、政治ヲ目的トスル結社ヲ政社ト云フ政社ニハ警察官、女子、未成年者、神官神職僧侶、現役ノ陸海軍々人等ノ加入ヲ許サス、結社ノ主幹者又ハ警察官ノ主ナル社員ト認ムル者ハ警察官ノ尋問ニ答辯ヲ爲スノ義務アリ、結社ノ目的、社則、社員名等ヲ明ニセサル秘密結社ハ之ヲ嚴禁セリ。

三四 質屋古物商取締ノ要旨ヲ問フ

質屋ハ動産ヲ擔保トシテ金錢ヲ貸付クル營業ニシテ古物商ハ一度使用シタル物品又ハ其ノ物品ニ幾分ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スル營業ナリ此等ノ營業者ハ竊盜其ノ他ノ贓品ノ質入又ハ買入ノ虞ナシトセス故ニ主トシ

ヲ犯罪ノ豫防及傳染病毒汚染物ニ對スル危險防止ノ爲メ警察取締ヲ要スルナリ。

三五 法定傳染病ヲ舉ケヨ

傳染病ニハ急性ニ傳染スルモノアリ又慢性的ナルアリ傳染病豫防法ニ於テ法定傳染病トシテ指定スル者ハ前者ニ屬ス、即チ「コレラ」赤痢「腸チブス」痘瘡「發疹チブス」猩紅熱「チフテリア」ペスト及内務大臣ノ指定シタル「バラチブス」及流行性腦脊髄膜炎ノ十種ナリトス

三六 宿屋取締ノ要旨ヲ問フ

宿屋ニハ旅人宿、下宿屋、木賃宿ノ三種アリ、之カ取締ノ要旨ハ保安上ニ於テハ盜難、火災ノ防備其ノ他衛生、風俗、營業ニ關聯シテ幾多ノ取締要項アリ。

三七 賣笑婦取締ノ要旨ヲ問フ

賣笑婦ニハ娼妓、藝妓、酌婦等アリ、娼妓ハ主トシテ花柳病豫防ノ爲メ健康診斷ノ規定アリ、營業地域、貸座敷構造並營業方法ニ就キ幾多ノ制限アリ、藝妓ハ公安風俗ヲ害スル虞アル者ニハ許可セス且營業上ニ於テモ風俗及營業ニ關スル幾多ノ取締ヲ受ケ又酌婦ニハ雇入解雇ニ對シ届出其ノ他ノ取締規定アリ。

刑法

一 刑法ノ意義ヲ問フ

刑法トハ犯罪ト刑罰トヲ定メタル法規ヲ云フ、即チ人ノ行爲中或ル種ノ行爲ヲ犯罪ナリトナシ其ノ犯罪ニハ制裁トシテ如何ナル刑罰ヲ科スヘキヤヲ定メタル法規ヲ刑法ト云フ、例之殺人、竊盜、賭博及密賣淫ノ行爲ヲ犯罪ナリトシ之ニ死刑、懲役、罰金、拘留及科料ト云フ刑罰ヲ科スル法規ノ如シ。

二 刑法ノ種類ヲ舉ケヨ

刑法ハ普通刑法ト特別刑法トニ區別ス、此ノ區別ハ各種ノ方面ヨリ觀テ之ヲ別ツコトヲ得、(一)施行地域カ國內一般ナルト限地的ナルトニ依リ區別スルトキハ刑法及陸海軍刑法ハ普通刑法ニシテ臺灣律令、朝鮮制令、府縣令ニ依ル刑罰法令ハ特別刑法ナリ、(二)適用スル人ノ如何ニ依リ區別スルトキハ刑法ハ一般人ニ適用セラルルカ故ニ普通刑法ニシテ陸海軍刑法ハ陸海軍々々人軍屬ニノミ適用スル刑法ニ付特別刑法タリ、(三)規定スル事項ノ一般的ナリヤ否ヤニ依ルトキハ普通殺人罪ト殺尊屬罪、横領

罪ト業務上ノ横領罪トハ前者ノ普通刑法ナルニ對シ後者ハ特別刑法ナリ、此ノ區別ノ實益ハ同一行爲カ二法ニ觸ルルトキハ特別刑法ヲ適用スルニアリ。

三 刑法ノ效力

刑法ノ效力トハ刑法ノ支配力ノ謂ナリ、時、場所、人ノ關係ニ於テ支配力ノ問題ヲ生ス。  
(イ) 時ニ關スル效力 刑法ハ既往ノ行爲ニ遡ラス之ヲ刑法不遡及ノ原則ト謂フ但刑罰ノ變更アリタルトキハ舊法ノ刑罰カ新法ヨリ重キトキハ遡リテ新法ヲ適用スルモノトス之レ犯人ノ利益ノ爲メニ認ムルナリ  
(ロ) 場所ニ關スル效力 刑法ハ帝國内ニ犯サレタル犯罪ハ勿論帝國外ニ在ル帝國ノ船舶内ノ犯罪ニモ適用ス又比較的重大ナル犯罪ハ外國ニ於テ犯シタル犯罪ニモ適用ス。

四 犯罪ノ意義ヲ問フ

(ハ) 人ニ關スル效力 刑法ハ我カ領土内ニ在ル總テノ人ニ適用スルヲ原則トスルモ天皇、攝政、外國ノ君主、大統領並其ノ家族及從者、外國ノ外交官及其ノ家族從僕等ニ適用セス但内國人ヲ除ク。

犯罪トハ刑ヲ科シタル有責違法ノ行為ナリ、此ノ意義ヲ分析説明スルトキハ(一)刑ヲ科シタリトハ犯罪ノ制裁トシテ死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及科料ヲ科スルヲ云フ(二)有責トハ責任能力者ノ犯意又ハ過失ニ出テタル行為ナルコト(三)違法トハ刑罰法令ニ掲クル禁令又ハ命令ニ違反スル行為ヲ云フ。

五 犯罪ノ主體及客體トハ何ソ  
犯罪ノ主體トハ犯罪ヲ爲スモノヲ云フ。原則トシテ自然人ナリ。自然人トハ吾人々類ヲ云フ。其ノ他特ニ明文アル場合ニハ法人ヲ罰ス、法人トハ自然人ニアラスシテ權利ヲ得義務ヲ負フモノヲ云フ。例之府縣、市町村、會社ノ如シ、犯罪ノ客體トハ犯罪行為ノ目的物ヲ云フ。例之竊盜罪ニ於ケル他人ノ物、殺人罪ニ於ケル他人ノ生命、姦通罪ニ於ケル夫ノ名譽ノ如シ、被害者トハ其ノ意味ヲ異ニス、被害者トハ犯罪ニ依リ侵害セラルル被害物體ノ持主ヲ云フ。

六 行為ノ意義ヲ問フ  
行為トハ人ノ意思ニ基ク身體ノ動靜ナリ之ヲ區別シテ積極行為(作為又ハ行為)ト消極行為(不作爲又ハ不行爲)

ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得ザルニ出テタル行為ヲ云フ。故ニ緊急防衛ハ自己ノ權利ノミナラス他人ノ權利防衛ノ爲メニモ成立ス、已ムコトヲ得ストハ侵害行為ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ヲ云フ、例之大洋中ニ難船シタル者一個ノ木片ヲ爭ヒ他ヲ排シテ之ヲ奪ヒ自己ハ生命ヲ全フシ他人ヲ溺死セシメタルカ如シ、緊急避難ヲ認ムル場合ハ緊急防衛ヲ認ムル場合ヨリモ其ノ範圍狹シ、一定ノ法益トハ生命、身體、自由、財産ノ避難ニシテ名譽權等ニ對シテハ緊急避難ヲ主張スルヲ得ス、已ムコトヲ得ストハ現在ノ危難ヲ避クル爲メニハ加害行為ヲ爲スノ外他ニ何等ノ道ナカリシコトヲ要ス、且避難行為ハ避ケントシタル害ノ程度ヲ超ヘサルコトヲ要ス例之避難ノ目的物ハ輕微ナル財物ニ過キサルニ之カ爲メ人命ヲ失ハシメタルカ如シ。

九 緊急避難ヲ説明セヨ

緊急避難トハ一定ノ法益ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ヲ云フ、例之大洋中ニ難船シタル者一個ノ木片ヲ爭ヒ他ヲ排シテ之ヲ奪ヒ自己ハ生命ヲ全フシ他人ヲ溺死セシメタルカ如シ、緊急避難ヲ認ムル場合ハ緊急防衛ヲ認ムル場合ヨリモ其ノ範圍狹シ、一定ノ法益トハ生命、身體、自由、財産ノ避難ニシテ名譽權等ニ對シテハ緊急避難ヲ主張スルヲ得ス、已ムコトヲ得ストハ現在ノ危難ヲ避クル爲メニハ加害行為ヲ爲スノ外他ニ何等ノ道ナカリシコトヲ要ス、且避難行為ハ避ケントシタル害ノ程度ヲ超ヘサルコトヲ要ス例之避難ノ目的物ハ輕微ナル財物ニ過キサルニ之カ爲メ人命ヲ失ハシメタルカ如シ。

トニ別ツ、積極行為トハ人ノ意思ニ基ク身體ノ動作ニシテ即チ積極的ニ或ル行動ヲ爲スヲ云フ。斬殺、毆打、姦通ノ如シ、消極行為トハ人ノ意思ニ基ク身體ノ靜止ナリ、即チ消極的ニ或ル行為ヲ爲ササルヲ云フ、宿泊人ノ届出ヲ怠リ、扶養ヲ爲サスシテ餓死セシムルカ如シ、以上何レノ行為モ犯罪ヲ組成ス。

七 違法行為トハ何ソ  
違法行為トハ法ノ禁令命令ニ違反スル行為ナリ、刑罰法令ニ於テハ吾人ニ或ル行為ヲ禁止ス之ヲ禁止法ト云フ。例之人ヲ殺シタル者ハ何々ノ刑ニ處ス、他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ何々ノ刑ニ處ストアルカ如シ之ニ違反シタル者ハ刑罰ニ處セラル之ヲ禁止法違反(禁令違反)ト云フ、又法令ニ於テ或ル行為ヲ命スル場合アリ例之自己ノ占有スル場所内ニ人ノ死屍死胎アルコトヲ知ルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ、遺失物ヲ拾得シタル場合ハ届出ヘシトノ命令ニ違反スルトキハ犯罪トナル之ヲ命令法違反(命令違反)ト云フ、以上何レモ違法行為タルナリ。

八 緊急防衛(正當防衛)ヲ説明セヨ

緊急防衛トハ急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利

一〇 自害及被害者ノ承諾ハ罪トナルヤ

自殺又ハ自己ノ物ヲ毀損スルハ罪トナラサルモ其ノ行為カ同時ニ他ノ法益ヲ害スル場合ニハ罪トナル例之免役ヲ圖ル爲メ身體傷害(徵兵令違反)火ヲ放チテ自己ノ家屋ヲ燒燬スル行為ノ如シ又被害者ノ承諾カ罪トナラサルハ本人ニ處分權アル財産權、特許權等ノ場合ニシテ假令被害者ノ承諾アルモ被害者本人ニ其ノ處分ヲ許ササル生命身體ノ毀損ニハ犯罪成立ス。

一一 責任無能力者トハ如何

違法行為ヲナスモ精神狀態完全ナラサル爲メ罰セサル者ヲ云フ(一)幼者 十四歳未滿ノ者(二)心神喪失者、發狂者、白痴者ノ如シ以上何レモ罪ヲ犯スモ處罰セラレズ(三)心神耗弱者 心神喪失者ト精神狀態健全ナル者トハ中間者ニシテ俗ニ老耄者、薄馬鹿等ヲ云フ單ニ刑ヲ減輕スルニ止マル(四)瘖啞者 瘖ニシテ且啞ナル者ヲ云フ、全然罰セサルコトアリ又刑ヲ減輕セララル場合アリ。

一二 犯意トハ何ソヤ

犯意トハ罪ヲ犯スノ意ナリ、即チ罪トナルヘキ事實ノ認

識ナリ換言セハ罪トナルヘキ事實ヲ知ラスシテ爲ストキハ犯罪タルコトナシ例之他人ノ物タルコトヲ知ラスシテ持歸リ、人タルコトヲ知ラスシテ殺スカ如キハ竊盜罪又ハ殺人罪成立スルコトナシ但斯ル場合殺人ノ如キ重キ罪ニ對シテハ法律ニ特別規定ヲ設ケ過失殺トシテ罰スルナリ。

犯意ナキ行爲ヲ罰セサル意義ヲ推シ及ホシ罪本重カルヘクシテ犯ストキ知ラサル場合ハ其ノ知ラサル(認識)點ニ就テハ其ノ責ヲ負フコトナシ例之親タルコトヲ知ラスシテ殺ストキハ殺尊屬罪ヲ以テ律スルコトナク普通殺人罪ヲ以テ罰ス。

一三 過失トハ何ソヤ

過失ハ不注意ナリ即チ認識又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリシ事實ヲ不注意ニ依リ認識セサルヲ云フ例之不注意ニ依リ「ランプ」ヲ轉覆シテ火災ヲ起シタル場合ノ如シ、犯意ハ犯罪事實ノ認識アルモ過失ハ不認識ナリ、此ノ不認識カ不注意ニ基ク場合ニアラサレハ罪トナラス但現行法上過失ハ特ニ之ヲ罰スヘキ明文アル場合ニ於テノミ罪トナル例之過失殺傷、失火及往來妨害ノ罪ノ如シ。

一四 犯罪行爲ノ段階ヲ説明セヨ

犯罪ハ犯意ノ表示ニ始マリ豫備ヲ經テ着手ト爲リ實行ヲ以テ終ル(一)犯意ノ表示 トハ罪ヲ犯サントスル意思ヲ口頭又ハ書面等ニ依リ表示スルニテハ罰スルコトナキヲ原則トス但脅迫罪、内亂罪ノ陰謀ハ特ニ之ヲ罰ス(二)豫備 犯罪前ニ於ケル準備行爲ヲ云フ、人ヲ殺サントスル者カ刀劍ヲ購求スルカ如シ(三)着手 犯罪構成要素ノ一部又ハ之ニ近接スル行爲ヲ云フ(四)實行 犯罪行爲ノ本體ナリ。

一五 未遂罪ヲ問フ

未遂罪トハ犯罪ノ實行ニ着手シテ之ヲ遂ケサルヲ云フ、既遂未遂ハ必シモ犯人ノ豫期セシ目的ヲ達セシヤ否ヤニ依ル區別ニ非スシテ唯法律ノ定ムル犯罪構成要件カ全部充實シタルヤ否ヤニ依リテ定マル未遂ハ實行ニ着手シテ未遂トナル場合(着手未遂)ト實行ヲ終結スルモ犯罪要素タル結果ヲ生セサル場合(實行未遂)トアリ何レモ外部の障礙ニ因リテ遂ケル能ハサリシ場合ナリ。

一六 中止犯ヲ説明セヨ

中止犯トハ犯罪ノ實行ニ着手シタル者カ自己ノ意思ニ依

リテ之ヲ中止シタルヲ云フ、未遂犯ハ外部的原因ニ依ル障礙未遂ナルモ中止犯ハ任意ニ其ノ犯行ヲ中止シタルコトヲ要ス例之人ヲ毒殺セントシテ服毒セシメタルモノカ途中ニ犯意ヲ翻シ下毒セシメテ死ノ結果ヲ防止シタルカ如シ、中止犯ハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除セララル。

一七 間接正犯トハ何ソヤ

間接正犯トハ直接正犯ニ對スル語ニシテ一人カ他人ヲ利用シテ犯罪ヲ實行セシムル場合ニ於テ利用者ヲ以テ實行者ト看做シ單獨ノ責任ヲ負ハシムルヲ云フ、例之(一)責任無能力者ヲ使喚シテ罪ヲ犯サシメ(二)犯意ナキ者ヲ利用シテ犯シ(三)他人ヲ強制シテ之ヲ利用スルコトアリ、何レモ被利用者ハ共同ノ罪責ナキナリ。

一八 共犯ヲ論スヘシ

共犯トハ數人ノ共同加功ニ因リ同一犯罪ヲ成立セシムルヲ云フ(一)共同正犯(二)教唆犯(三)從犯ノ三種アリ。

(イ)共同正犯 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ヲ共同正犯トス、更ニ小別スレハ二人以上ニ非サレハ犯スコトヲ得サル姦通罪、騷擾罪ノ如キハ必要共犯ニシテ

一人ニテモ數人共同ニテモ犯シ得ル數人ノ竊盜ノ如キハ任意共犯ナリ。  
(ロ)教唆犯 教唆犯トハ故意ニ正犯ヲシテ犯罪ハ決意ヲ爲サシメタルヲ云フ、故ニ教唆者ハ造意者ニシテ犯罪ノ實行ヲ爲シタルモノニアラス。  
(ハ)從犯 從犯トハ正犯ヲ幫助スルモノヲ云フ、即チ正犯ノ犯罪ヲ容易ナラシムル總テノ行爲ヲ包括ス、殺人者ニ刀ヲ貸スカ如シ。

一九 繼續犯、連續犯及牽連犯ヲ説明セヨ

繼續犯 トハ或行爲ニ因リテ成立セル違法狀態カ或時間繼續スルニ因リテ成立スル犯罪ヲ云フ、例之監禁罪ノ如シ。  
連續犯 トハ連續シタル多數ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルモノヲ云フ、例之某倉庫ニ保管スル米ヲ數度ニ竊取スルカ如シ。

牽連犯 トハ一罪カ他ノ犯罪ノ手段トナリ又ハ結果トナルノ關係ニ立ツヘキ場合ヲ云フ、竊盜ノ爲メ家宅ニ侵入シ、殺人後ニ屍體ヲ遺棄スルカ如シ。

二〇 累犯ヲ問フ



累犯トハ確定判決ヲ經タル犯罪ニ對シ其ノ後ノ犯罪ヲ云フ累犯ハ特ニ刑ヲ加重セラルル而シテ累犯タルヘキ要件ハ(一)前ニ懲役ノ刑ニ處セラレタルコト(二)新ニ受クル刑カ懲役ナルコト(三)後犯カ前犯ノ執行ヲ終リ又ハ刑ノ執行免除アリタル日ヨリ五年以内ニ爲サレタルコトヲ要ス、從テ五年以上ヲ經過スルトキハ單ニ通常ノ刑ヲ科ス。

二二 刑ノ執行猶豫ヲ問フ

刑務所ハ改過遷善ノ所ナルモ短期自由刑ハ同囚ノ爲メニ却テ惡化セラレ時ニ其ノ效ヲ全ウスルヲ得サルコトアルニ付刑ノ執行猶豫ノ制ヲ設ケテ犯人ノ改悛ヲ獎勵セリ其ノ要件左ノ如シ(一)二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ナルコト(二)前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者(三)前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者。

二三 刑罰ノ意義及種類ヲ問フ

刑罰トハ國家カ犯罪ノ制裁トシテ犯人ノ法益ヲ剝奪スル

脅迫ヲ加フルニ因リテ成立ス、暴行脅迫ノ意義ハ廣義ニ解スヘシ即チ暴行ハ公務員ノ身體ハ勿論携帯セシ器具等ニ暴行ヲ爲スヲモ包含ス、脅迫ハ害惡ヲ加フヘシトノ豫告ノミニ因リテ成立ス、之カ爲メ被害者カ反抗力ヲ喪失スルコトヲ必要トセス。

二六 逃走ノ罪ヲ問フ

本罪ハ國家ノ拘禁力ヲ侵害スルノ罪ナリ、之ヲ大別スルトキハ(一)既決未決ノ囚人自ラ逃走スル罪、更ニ之ヲ小別シテ單純ニ逃走シタル場合ト拘禁場又ハ械具ヲ破壊若ハ暴行脅迫ヲ手段トシ或ハ二人以上通謀シテ逃走スル場合トアリ後者ハ其ノ刑罰ヲ加重ス(二)第三者カ法令ニ依リ拘禁セラレタル者ヲ奪取スル罪(三)逃走幫助ノ罪ノ三種アリ。

二七 騷擾罪ヲ問フ

騷擾罪ハ多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲スヲ云フ、内亂罪ト異ルハ其ノ目的カ朝憲紊亂ニ非サルコトニ存ス、故ニ本罪ハ主トシテ社會民衆ノ安全ヲ害スルモノナリ(イ)首魁(ロ)他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ卒先シテ勢ヲ助ケタル者(ハ)附和隨行シタル者ニ區別シ其ノ處分ニ輕重ヲ

ヲ云フ、刑罰ノ種類ニハ死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留、科料及附加刑トシテ沒收アリ、委シキハ監獄法ノ說明ニ讓ル。

二三 皇室ニ對スル罪ヲ問フ

皇室ニ對スル罪ハ危害罪ト不敬罪トアリ(一)危害罪トハ、天皇、皇后、皇太子、皇太孫ニ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ヲ死刑ニ處シ皇族ニ對シテハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス、危害トハ生命、身體、自由、貞操ニ對スル傷害ヲ意味ス(二)不敬罪トハ皇室ノ尊嚴ヲ害スヘキ一切ノ行爲ヲ云フ、誹毀、侮辱、罵詈、讒謗ニ亙ルヘキ言語、動作、文書圖畫等ヲ云フ公然ナルト否トヲ問ハス。

二四 内亂罪ニ付テ問フ

内亂罪トハ朝憲紊亂ヲ目的トスル暴動罪ヲ云フ、其ノ方法ニ政府ノ顛覆、邦土ノ僭竊等アリ(一)首魁者(二)謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者(三)諸般ノ職務ニ從事シタル者(四)附和隨行者ニ區別シテ處分ニ輕重アリ、尙内亂ノ未遂、豫備、陰謀ヲモ罰セリ。

二五 公務ノ執行ヲ妨害スル罪ヲ問フ

本罪ハ公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ

リ。

二八 放火及失火ノ罪ヲ問フ

放火罪トハ火ヲ放チテ家屋其ノ他ノ物件ヲ燒燬スル犯罪ヲ云フ、本罪ハ生命、身體、財産ニ關スルト共ニ公共ノ危險ヲ生スル犯罪ナリ、本罪ハ危險ノ程度及財物ノ種類ニ依リ其ノ刑罰ヲ異ニス、失火罪トハ火ヲ失シテ放火罪ノ目的物トナリ得ル物ヲ燒燬スル罪ナリ、罰金刑ヲ科ス。

二九 住所ヲ侵スル罪ヲ問フ

本罪ハ住所ノ安全ヲ害スル罪ナリ、住居ハ吾人生活ノ根城ニ付之カ安全ヲ保護セサルヘカラス、本罪ハ邸宅、建造物、艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其ノ場所ヨリ退去セサルニ因リテ成立ス舊刑法ノ家宅侵入罪ナリ。

三〇 通貨偽造變造ノ罪ヲ問フ

通貨トハ内國ニ於テ通用スル貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ總稱ス、偽造トハ鑄造發行權ヲ害スルノ謂ニシテ全ク眞貨ニ酷似セル模造品ヲ製出スルヲ云ヒ、變造トハ眞貨ニ加工シテ新貨ヲ製出スルヲ云フ、是等ノ物ヲ偽造變造ハ勿論偽貨ノ行使、輸入、收得等ヲ處罰セリ。

三一 文書偽造罪ヲ問フ

文書トハ文字ニ依リ或物體ノ上ニ記載セラレタル意思表示ヲ云フ、文字カ完全ニ具備セサルモ文字ノ節略ト見ルヘキ場合ハ同シク文書ナリ例之汽車電車ノ切符ノ如シ、文書ノ偽造變造ヲ罰スルハ取引上ノ信用ヲ害スルコト甚大ナレハナリ本罪ハ(イ)詔書(ロ)公文書(ハ)公務員ノ無形偽造(ニ)公正證書ニ虚偽ノ記載(ホ)一般ノ私文書(ヘ)醫師ノ無形偽造等各其ノ刑ヲ異ニス、以上ノ文書行使罪亦同様處罰ス。

三二 賭博及富籤ノ罪ヲ問フ

賭博ハ射倖心ヲ唆シ遊惰ノ風ヲ生シ延テハ各種犯罪ノ動機トナリ風紀上之ヲ禁スルノ要アリ、賭博ニハ博戯ト賭事トヲ含ム何レモ偶然ノ事情ニ基キテ利益ノ得喪ヲ決スルヲ云フ、富籤ハ多數人ヨリ財物ヲ抽出シ抽籤ニテ抽出財物ノ一部ヲ當籤者ニ分配スルヲ云フ射倖心ヲ唆ス點ニ於テ同シ。

三三 誣告罪ヲ問フ

本罪ハ人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲スニ因リテ成立ス、茲ニ刑事ノ處分トハ刑罰ヲ科スルコトヲ云ヒ懲戒ノ處分トハ官吏ニ懲戒

罰ヲ科スルヲ云フ、虚偽ノ申告トハ不實ノ事ヲ告クルノ謂ニシテ其ノ申告ハ特定ノ事項タルヲ要ス唯漠然ト彼ニ窃盜犯アリト云フカ如キハ誣告罪ニ非ス犯罪ハ犯罪捜査權アル檢事司法警察官、懲戒罰ハ本屬長官ニ對シテ爲スコトヲ要ス。

三四 殺人罪ヲ問フ

殺人罪トハ故意ニ他人ノ生命ヲ斷ツヲ云フ、殺害ノ動機、手段、態様等ニ關シテハ本罪ノ成立ニ關係ナシ、自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺ストキハ殺尊屬罪トシ重刑ヲ科ス、殺人罪ノ未遂ハ勿論豫備ヲモ處罰ス但情狀ニ依リ免刑セラル。

三五 傷害罪ヲ問フ

傷害罪ノ身體ノ健康狀態ヲ不良ニ變更スルヲ云フ、暴行ノ方法、程度、兇器ノ種類ノ如キハ傷害罪ノ成立ニ關係ナシ、傷害致死ハ傷害ノ犯意アルモ死ノ結果ヲ豫見セサル場合ナリ、此點ニ於テ殺人罪ト異ル傷害ハ現場ニ於テ助勢シタル者モ罰ス。

三六 逮捕及監禁ノ罪ヲ問フ

逮捕トハ直接ニ身體ニ對シ物質力ヲ加フルハ意ニシテ監

禁トハ一定ノ區劃ヲ以テ他ニ出ツルヲ得セシメサルハ意ナリ、逮捕ハ即時ニ成立シ監禁ハ多少時間ノ繼續スル性質ヲ有ス。

三七 脅迫ノ罪ヲ問フ

脅迫トハ人ヲシテ畏怖心ヲ生セシムル爲メ害惡ヲ加フヘキ事ヲ告クル罪ナリ、之カ爲メ被害者ニ畏怖心ヲ生シタルコトヲ必要トセス又脅迫者カ現實ニ害惡ヲ加フルノ意思アルヲ必要トセス、本罪ハ被脅迫者又ハ其ノ親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ害ヲ加フヘキコトヲ以テセサルヘカラス。

三八 竊盜ノ罪ヲ問フ

竊盜罪ハ他人ノ財物ヲ窃取スルニ因リテ成立スル犯罪ナリ但自己ノ物ト雖モ質入、預入等ニ依リ他人カ占有シ又ハ公務所ノ命ニ依リ他人ノ看守シタル物ヲ窃取スレハ竊盜罪トナル、窃取ノ手段ハ暴行脅迫ニ亘ラサル限り其ノ手段方法ノ何タルヲ問ハサルナリ搔拂、忍込、板間稼、萬引、置引、枕探シ、掏摸等ノ如シ、電氣ハ本來物ニ非サルモ法ノ擬制ニ依リ財物ト看做セリ。

三九 強盜ノ罪ヲ問フ

法律

強盜罪ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取スル罪ナリ、此ノ暴行脅迫ノ意味ハ狭ク解ス即チ被害者ノ反抗心ヲ全然抑壓スル程度ナラサルヘカラス、又強盜ニ非サルモ強盜ニ準スヘキ罪アリ即チ窃盜財物ヲ得テ其ノ取還ヲ防キ又ハ逮捕ヲ免レ若ハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲ス罪ナリ、人ヲ昏醉セシメテ財物ヲ盜取スル亦同シ。

四〇 詐欺罪

詐欺罪トハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スル罪ナリ、欺罔トハ虚偽ノ事實ヲ告ケ相手方ヲシテ錯誤ニ陥ラシムルヲ云フ、騙取トハ他人カ錯誤ニ陥リ任意ニ財物ヲ交付スルヲ云フ、又未成年者ノ智慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ財物ヲ交付セシムルヲ準詐欺罪トシ處罰ス、本罪ハ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ得セシメタルモノモ亦罰セリ。

四一 恐喝ノ罪ヲ問フ

恐喝罪ハ人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシムルニ因リテ成立ス、財物交付ニ恐喝ノ手段ヲ用フルカ本罪ノ特色タリ恐喝ハ脅迫ノ一種ナリ、例之汝百金ヲ與ヘサレハ汝ノ舊惡

ヲ新聞又ハ上官ニ曝露スト云フカ如シ、恐喝ハ反抗心ノ制限ニシテ被害者ハ反抗ノ自由ヲ有スル點ニ於テ強盜罪ト異ル。

四二 横領ノ罪ヲ問フ

横領罪トハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領スルニ因リテ成立ス公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル自己ノ物ニ付テ亦同シ、横領トハ財物ヲ經濟上ノ用方ニ從ヒ處分スルニ在リ消費、抵當、質入、販賣、交換、贈與、拐帶、隱匿等ヲ包含ス但破棄損壞ヲ含マス本罪ハ(一)一般横領罪(二)業務上ノ横領罪(三)遺失物ノ横領罪ニ區別ス。

四三 贓物ニ關スル罪ヲ問フ

本罪ハ贓物ヲ收受、運搬、寄藏、故買又ハ牙保スルニ依リテ成立ス、贓物トハ犯罪ニ因テ取得シタルカ又ハ横領セラレタル物件ヲ云フ、其ノ行爲ニハ(一)收受トハ情ヲ知ツテ受取ルヲ云フ(二)運搬トハ甲地ヨリ乙地ニ場所ヲ移スヲ云フ(三)寄藏トハ情ヲ知ツテ保管スルヲ云フ(四)故買トハ情ヲ知ツテ賣買、交換、質ニ受取ル如シ(五)牙保トハ贓物處分ノ媒介ヲ爲スヲ云フ賣買、交換又ハ質入ノ周旋ノ如シ。

四四 毀棄ノ罪ヲ問フ

毀棄トハ文書又ハ物件ヲ毀壞損傷スル犯罪ナリ、物ヲ經濟上ノ用法ニ處分セサル點ニ於テ横領罪ト異ル、本罪ハ目的物ノ如何ニ依リ(一)官文書毀棄罪(二)私文書毀棄罪(三)建造物艦船毀棄罪(四)其ノ他ノ物ノ毀棄罪(五)自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ質貸シタル物ヲ毀棄シタル罪トニ區別シ各處刑ヲ異ニス。

刑事訴訟法

一 刑事訴訟法ノ意義ヲ問フ

刑事訴訟法トハ科刑權ニ關スル法律ヲ云フ、即チ大正十一年五月法律第七十五號ヲ以テ公布セラレタル刑事訴訟法ト命名セラレタル法律ナリ、刑法ハ單ニ犯罪ト刑罰トノ關係ヲ規定スルノミ而シテ茲ニ罪トナルヘキ事實力實際ニ發生シタルトキ其犯罪ヲ捜査シ犯罪ノ嫌疑十分ナレハ檢事ハ裁判所ニ向ツテ事件ノ審理ヲ請求シ裁判所ハ該事件ニ付取調ヲ行ヒ判決ヲ爲シ終ニ判決ノ執行ニ到ル、此ノ手續ノ總體ハ何レモ科刑權ニ關シ之ヲ刑事訴訟ト云ヒ之ニ關スル法律ヲ刑事訴訟法ト云フ。

二 訴訟主體トハ何ソヤ

刑事訴訟ハ裁判所、檢事及被告人、三者間ハ權利義務ノ關係ヲ定メタリ、此ノ關係ヲ訴訟關係ト謂ヒ、是等ノ三者ヲ訴訟主體ト云フ、檢事ハ原告ニシテ被告ノ犯罪ニ付テ攻撃シ、被告ハ自己ニ對スル攻撃ヲ防禦シ裁判所ハ檢事被告人双方ノ上ニ立チテ公平ナル裁判ヲ爲ス機關ナリ、此ノ檢事被告人及裁判所ノ三者カ互ニ權利義務ノ關

係ニ立ツテ訴訟主體ノ三面關係ト謂フ。

三 彈劾主義ト糾問主義トノ別ヲ問フ

訴訟ノ方式ニ付テハ古來幾多ノ歴史ヲ有スルモ之ヲ大別スルトキハ彈劾主義ト糾問主義トニ區別ス彈劾主義トハ原告ヲシテ訴追攻撃ノ作用ヲ爲サシメ、被告ニハ防禦ノ手段ヲ盡サシメ而シテ裁判官ヲシテ之カ裁判ヲ爲スノ作用ヲ分擔セシムル方式ニシテ即チ三個ノ訴訟主體ヲ認ムルヲ謂フ、反之糾問主義トハ裁判官カ他人ノ彈劾ヲ待タズ職權ヲ以テ犯人ヲ逮捕審理及裁判スル主義ニシテ徳川時代ニ於ケル裁判ハ此ノ主義ナリ、此ノ主義ハ裁判官自ラ犯人ヲ檢擧シ自ラ之ヲ裁判スルカ故ニ從テ公平ナル判斷ヲ得ルコト頗ル難シ、蓋シ先入主ト爲ルハ人情ノ通弊ナレハナリ。

四 裁判所ノ管轄ヲ問フ

裁判所ノ管轄トハ裁判所ニ於テ特定ノ刑事事件ヲ裁判スル權限ヲ云フ、裁判所ハ全國ニ多數アリ故ニ此ノ裁判所間ニ事務ノ分配ヲ定メ裁判權行使ノ範圍ヲ定ムルナリ、裁判所ノ管轄ハ更ニ小別シテ事物ノ管轄及土地ノ管轄ト爲ス。

五 事物ノ管轄ヲ記セ

事物ノ管轄トハ事件ノ性質種類ヲ標準トシテ決定メタル管轄ヲ謂フ。

第一 區裁判所

(一) 拘留又ハ科料ニ該ル罪

(二) 有期ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪但シ豫審ヲ經サル事件ノミニ限ル。

第二 地方裁判所

(一) 第一審トシテ區裁判所ノ權限竝大審院ノ特別權限ニ屬セサル事件。

(二) 第二審トシテ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴及區裁判所ノ決定ニ對スル抗告。

第三 控訴院

(一) 地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴。

(二) 地方裁判所ノ第一審トシテ爲シタル決定ニ對スル抗告。

第四 大審院

(一) 終審トシテ地方裁判所又ハ控訴院ノ第二審判決ニ對スル上告。

(二) 區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル上告。

(三) 地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定竝控訴院ノ決定ニ對スル抗告。

(四) 地方裁判所又ハ區裁判所ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告。

(五) 第十審ニシテ且終身トシテ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件、即チ(イ)皇室ニ對スル罪(ロ)内亂罪(ハ)皇族ノ犯罪ニシテ禁錮以上ニ該ル罪ナリトス

六 土地ノ管轄

土地管轄トハ事件ト土地トノ關係ヲ標準トシテ決定メタル管轄ヲ謂フ、同等ノ裁判所數個アル場合ニ於テ土地管轄ノ問題ヲ生ス、故ニ大審院ニハ土地管轄ナルモノナシ、今刑事訴訟法ノ定ムル所ニ依レハ土地ノ管轄ハ(一)犯罪地(二)被告人ノ住所、居所若ハ所在地ニ依ルヲ原則トス但帝國外ニ於テ行ハレタル犯罪ニ付テハ以上ノ外軍艦軍用船ハ本籍ノ所在地、一般船舶ニ在リテハ船籍港又ハ犯罪後其ノ艦船ノ繫泊シタル地ヲ管轄スル裁判所ノ管轄ナリトス。

七 檢事ノ職務ヲ問フ

檢事ハ犯罪アリト思料スルトキハ犯人及證據ヲ捜査シ之ニ依リ起訴不起訴ヲ決ス、起訴シタル事件ニ付テハ公判ニ立會ヒ被告事件ヲ陳述シ證據調終リタルトキハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述シ裁判ニ不服アルトキハ上訴ノ申立ヲ爲シ裁判ノ執行ヲ指揮ス。  
檢事ハ公益ノ代表者トシテ再審及非常上告ヲナスノ職務アリ。

八 被疑者ト被告人トノ別ヲ問フ

被告人トハ犯罪ノ嫌疑ヲ以テ公訴ヲ起サレタル者ヲ云フ公訴ノ提起前嫌疑者トシテ取調ヲ受ケタル者ヲ被疑者ト稱ス、舊法ニ在リテハ此ノ被告人ト被疑者トノ別ナカリシモ新法ハ嫌疑者ノ中公訴ヲ提起(起訴)セラレタルヤ否ヤニ依リ其ノ區別ヲ明ニシタリ。

九 捜査トハ如何ナルモノ

捜査ハ公訴ノ準備手續ニシテ公訴ノ提起實行ノ爲メ必要ナル資料ヲ蒐集スルヲ目的トスル手續ヲ云フ而シテ此目的ヲ達スル方法ヲ捜査方法トス捜査ハ通常強制力ヲ用ヒサルモ、現行犯緊急事態ノ場合及裁判上ノ捜査ニハ強制

力ヲ用フルコトヲ得之ヲ特別捜査ト云フ何レノ場合ニモ嚴ニ祕密ヲ保チ被疑者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ。

一〇 現行犯ヲ説明セヨ

現行犯トハ現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ謂フ、現ニ罪ヲ行ヒトハ犯罪ノ實行中ヲ謂ヒ、行ヒ終リタル際トハ犯罪行爲終了後未タ多クノ時間ヲ經過セス且犯罪ノ形跡歴然タル場合ヲ云フ、現行犯ハ犯罪發覺ノ状態ニ依ル區別ニシテ犯人其ノ場所ニ在ルトキハ勾引狀ニ依ラスシテ何人ト雖之ヲ逮捕スルコトヲ得猶現行犯ニ付テハ其ノ捜査ニ付強制處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ。

一一 準現行犯トハ如何

現行犯ニ非サルモ左ノ場合ニ於テハ現行犯ニ準シテ之ヲ取扱ヒ現行犯其ノ場所ニ在ルモノト看做ス場合ナリ

(イ) 兇器贓物其ノ他ノ物件ヲ所持シ犯人ト思料スヘキトキ。

(ロ) 誰可セラレテ逃走シ犯人ト思料スヘキトキ。

(ハ) 犯人トシテ追呼セラレ犯人ト思料スヘキトキ。

(二) 身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキトキ。

二 緊急事態トハ如何

緊急事態トハ刑事訴訟法第二百二十三條ノ定ムル所ニシテ檢事左ノ場合ニ於テ急速處分ヲ必要トスル場合一般搜查處分ノ外特別搜查處分トシテ勾引狀ヲ發シ被疑者ノ身柄ヲ拘束シ押收搜索檢證ヲ爲シ被疑者若ハ證人ヲ訊問シ鑑定ヲ命スル等ノ處分ヲ爲スコトヲ謂フ。

(イ) 被疑者定マリタル住居ヲ有セサルトキ。

(ロ) 現行犯人其ノ場所ニ在ラサルトキ。

(ハ) 現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯者ヲ發見シタルトキ。

(ニ) 既決ノ囚人又ハ刑事訴訟法ニ依リ拘禁セラレタル者逃亡シタルトキ。

(ホ) 屍體ノ檢證ニ因リ犯人ヲ發見シタルトキ。

(ヘ) 被疑者常習トシテ強盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタル者ナルトキ。

三 召喚ノ意義ヲ問フ

召喚トハ被告人ヲシテ一定ノ日時ニ一定ノ場所ニ出頭セ

シムヘキ命令ニテ召喚狀ノ送達ヲ以テ執行ス、舊法ニ在リテハ豫審ニ於テ之ヲ召喚トシ公判ニ於テハ呼出ト云ヘリ新法ハ此ノ區別ヲ全然廢止セリ、被告ハ召喚ニ依リ出頭ノ義務ヲ生シ再度ノ召喚ニ應セサルトキ之ヲ勾引スルコトヲ得トセリ。

四 勾引トハ如何

勾引トハ訊問ノ目的ヲ以テ被告人ヲ裁判所ニ出頭セシムル強制命令ナリ、此ノ命令ハ勾引狀ヲ必要トス執行ハ檢事ノ指揮ニ依リ司法警察官吏之ヲ爲ス執行ニ際シテハ必ス勾引狀ヲ被告人ニ示シ指定セラレタル場所ニ引致スヘキモノトス其ノ發スル條件ハ左ノ如シ。

(甲) 被告人再度ノ召喚ニ應セサルトキ。

(乙) 召喚狀ヲ發セスシテ直ニ勾引スルコトヲ得ル場合

(イ) 被告人定マリタル住所ヲ有セサルトキ。

(ロ) 被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ。

(ハ) 被告人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ。

五 勾留ノ意義ヲ問フ

勾留トハ訴訟ノ遂行ヲ全フスル爲メ被告人ヲ監獄ニ留置スル命令ナリ、此ノ命令ハ勾留狀ヲ必要トス執行ハ檢事

ノ指揮ニ依リ司法警察官吏之ヲ爲ス、勾留狀ノ效力ハ被告人ヲ其ノ令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致シ二ヶ月以内ノ期間拘禁スルモノナリ、勾留ヲ爲ス場合ハ召喚又ハ勾引ニ依リ被告人ヲ訊問シタル後ニ非サレバ之ヲ爲スコトヲ得ス、但被告人逃亡シタル場合ハ訊問ヲ爲スコトナクシテ勾留狀ヲ發スルコトヲ得、勾留ノ要件ハ勾引ノ要件アル場合ニ限ル。

六 保釋責任及勾留ノ執行停止ヲ問フ

保釋トハ裁判所カ被告人又ハ法定代理人等ノ請求ニ依リ一定ノ保證金ヲ以テ勾留ノ效力ヲ停止スルヲ云フ、責任トハ裁判所カ職權ニ依リ被告人ノ親屬又ハ其ノ他ノ者ニ被告人ハ出頭ヲ保證セシメ勾留ノ效力ヲ停止スルヲ云フ、勾留ノ執行停止トハ裁判所カ單ニ被告人ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ云フ以上三者ハ何レモ勾留ノ效力ヲ一時停止スルモノナリ。

七 押收及搜索ノ意義ヲ問フ

押收及搜索ハ對物強制ノ手段ニシテ勾引勾留ノ對人強制ナルニ相對ス何レモ個人ノ權利ニ直接ノ關係ヲ及ホシ殊ニ犯罪ニ關與セサル者ニ對シテハ其ノ利害ニ影響スルコ

ト勢カラサルニ付執行上慎重ノ考慮ヲ要ストナス。

(イ) 押收トハ證據物件又ハ沒收スヘキ物ノ占有ヲ取得スル處分ナリ、押收ニハ強制力ヲ用フル場合(差押及提出命令)ト強制力ヲ用ヒサル場合(領置)トアリ、

(ロ) 搜索トハ證據物件ヲ發見スル爲メ必要ナル部所ヲ點檢スルヲ云フ分チテ(イ)家宅搜索(ロ)物件搜索

(ハ)身體搜索ノ三トナス。

八 證人トハ何ソヤ

證人トハ訴訟以外ニ於テ實驗シタル事實ヲ裁判官ニ對シテ陳述スル第三者ヲ云フ、故ニ其ノ事件ニ關與スル判事檢事裁判所書記被告人法定代理人法人ノ代表者及辯護人ハ證人タルコトヲ得ス、證人ハ其ノ實驗シタル事實ヲ述

ブルモノニシテ鑑定ノ如ク判斷意見ヲ述フルモノニ非ス證人ハ(一)出頭ノ義務(二)宣誓ノ義務(三)供述ノ義務アリ。

九 鑑定ノ意義ヲ問フ

鑑定トハ訴訟中ノ實驗ニ因リ事實ニ關シ特別智識上ノ意見ヲ陳述スル第三者ヲ云フ、第三者ノ意義ハ前二同シ、鑑定人ハ鑑定事項ニ付特別智識ヲ具有スルコトヲ要ス、

鑑定人ハ訴訟中ノ實驗ニ基キ意見ヲ述フルモノナリ、此點ニ於テ證人ト異ル、鑑定人ハ證人ト同シク出頭、宣誓及供述ノ義務アルモ不出頭ニ對シテ勾引セラルルコトナキナリ。

二〇 告訴トハ如何

告訴トハ犯罪ノ被害者其ノ他ノ告訴權者ヨリ犯罪事實ヲ捜査官ニ申告シテ起訴ヲ求ムルヲ云フ、一般ノ犯罪ニ付テハ告訴ハ起訴ノ條件ニ非サルモ親告罪ニ對シテハ告訴ナケレハ檢事公訴ヲ提起スルコトヲ得ス、告訴權者ハ被害者ハ勿論被害者ノ法定代理人、夫、被害者死亡シタルトキハ配偶者家督相続人直系ノ親族又ハ兄弟姉妹ニモ告訴權アリ告訴ハ祖父母父母ニ對シテ爲スコトヲ得ス、有夫姦ノ告訴ニ付テハ特殊ノ制限アリ。

二一 告發トハ如何

告發トハ第三者ヨリ犯罪ノ事實ヲ捜査官ニ申告スルヲ云フ、第三者トハ告訴權者又ハ犯罪者ニ非サルモノヲ云フ即チ何人ト雖告發ヲ爲スコトヲ得ヘシ但官吏及公吏職務ヲ行フニ當リ犯罪ヲ認知シタルトキハ告發ノ義務ヲ有ス警察官吏ハ犯罪捜査ノ任務アルカ故ニ告發ノ手續ヲ爲ス

ヲ要セス單ニ報告ヲ爲スヲ以テ足ル。

二二 自首トハ如何

自首トハ犯人自ラ犯罪事實ヲ捜査官ニ申告スルコトヲ謂フ、自首ハ捜査機關タル檢事又ハ司法警察官ニ爲スヲ要ス自ラ進ンテ申告スルコトヲ要スルカ故ニ捜査官ノ訊問ニ應ジテ自己ノ犯罪ヲ陳述スルハ自白ニシテ自首ニ非ス自首ハ科刑ノ際特ニ減輕セラルル場合アリ。

二三 公訴トハ如何

公訴トハ科刑權確定ノ請求ナリ、即チ檢事カ裁判所ニ對シ科刑權ノ確定ヲ請求スル意思表示ナリ、此ノ請求ハ彈劾主義ノ骨子ニシテ裁判所ハ檢事ノ公訴提起(即チ訴追)ナケレハ審理裁判ヲナサス、之ヲ不告不理ノ原則ト云フ。

二四 公訴時効トハ如何

公訴時効トハ時ノ經過ニ因リ公訴權ヲ消滅セシムルヲ云フ、公訴ノ時効完成スルトキハ公訴權ト共ニ科刑權ヲモ消滅セシムルヲ以テ時効完成後ハ法律上全ク罪ヲ犯ササルト同一視セラルルナリ、時効ノ期間ハ法定刑ノ如何ニ依リ長短アリ例之死刑ニ該ル罪ハ十五年拘留科刑刑ハ六

ケ月ナルカ如シ時効ハ其ノ事件ニ付公訴ノ提起又ハ公判若ハ豫審ノ處分等ノ事由ニ因リテ中斷ス。

二五 公訴權ノ消滅原因ヲ述ヘヨ

公訴權ノ消滅原因トシテ別ニ列記セラルルコトナキモ公判ノ裁判又ハ豫審ノ終結決定ニ免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ヲ列舉セリ、之レ即チ舊法ノ公訴權ノ消滅原因ト見ルヘキナリ、即チ(一)被告人ノ死亡(二)親告罪ニ付キ告訴又ハ請求ノ取消(三)公訴ノ取消(四)確定判決(五)刑ノ廢止(六)大赦(七)時効ノ場合ナリトス。

二六 豫審トハ如何

豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付スヘキヤ否ヤヲ決スル爲メ必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ其ノ目的トス、即豫審ハ公判ノ準備手續ナリ、豫審ノ開始ハ檢事ノ請求アル場合ニ限ル但豫審中共犯アリ又ハ他ノ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ナクモ豫審ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得、豫審終結シタルトキハ左ノ何レカノ決定ヲ爲ス(一)管轄違ハ決定(二)公判ニ付スル決定(三)免訴ノ決定(四)公訴棄却ハ決定是レ

ナリ。

二七 公判トハ如何

公判トハ科刑權ノ存否及範圍ヲ審判スル訴訟手續ナリ、公判ハ訴訟手續ノ中樞ナリ公判ニ於テハ完全ニ彈劾訴訟ノ形式及實質ヲ具備シ、訴訟ノ三個主體ハ皆其本然ノ性質ヲ發揮ス、而シテ公判ニ於テハ左ノ主義行ハル(一)不告不理ノ原則(二)公開主義(三)口頭辯論主義(四)職權主義(五)事實ノ認定ハ證據ニ因ル主義(六)直接審理主義(七)自由心證主義等ナリ。

二八 公判審理ノ順序

公判ハ大略左ノ順序ニ依リ審理ス、即チ(一)被告人ニ人違ナキヤ否ヤヲ確ムル訊問(二)檢事ノ被告事件ノ陳述(三)被告人訊問(四)證據調(五)檢事ノ論告(六)辯論(七)判決等ナリトス、此ノ外裁判長ノ處分ニ對スル異議ノ申立、受命判事ノ取調又ハ公判手續ノ停止等ノコトアリ。

二九 一事不再理ノ原則トハ如何

一事不再理ノ原則トハ同一被告人ニ對シ同一ノ犯罪事實ニ付訴ヲ提起スルコトヲ得サルヲ云フ換言セハ一旦確定

判決ヲ經タル事件ニ付テハ再ヒ訴訟ヲ爲スコトヲ得サルモノトス、茲ニ確定判決トハ(一)刑ヲ言渡シタル判決(二)無罪ノ判決(三)刑ヲ免除スル判決(四)刑ノ廢止大赦時効ノ完成ヲ理由トスル免訴ノ判決ナリトス。

三〇 上訴ノ意義ヲ問フ

上訴トハ未タ確定セサル裁判ニ對シ上級裁判所ノ裁判ニ因リテ救済ヲ求ムル方法ヲ云フ、其ノ種類ニ控訴上告及抗告ノ三種アリ。

三一 控訴トハ如何

控訴トハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審判決ニ對シテ爲ス上訴ニシテ事件ノ覆審ヲ求ムルモノナリ控訴ノ申立期間ハ七日ニシテ控訴審ハ第一審ト同シク事件ニ付更ニ法律及事實等ノ審理ヲ爲スヘキモノニシテ第一審ノ繼續ニ非サルナリ、控訴裁判所ノ檢事ハ控訴ニ附帶シテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得。

三二 上告トハ如何

上告ハ原則トシテ第二審判決ニ對スル上訴ナリ但特別ノ場合ニ於テハ第一審ノ判決ニ對シテ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得上告ハ法令違反ヲ理由トスル場合ノ外一定ノ條件ノ

下ニ重大ナル事實ノ誤認アルコト又ハ刑ノ量定甚シク不當ナルコト並再審開始ノ原因ニ該當スル事由アルコトヲ理由トシテ上告ヲ爲スコトヲ得トセリ。

三三 抗告トハ如何

抗告トハ決定ニ對スル上訴ナリ、抗告ヲ別チテ即時抗告及單純抗告ノ二トス、即時抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ハ特ニ其ノ明文存ス兩者ハ其ノ抗告期間ニ於テ差異アリ即時抗告ハ三日トシ單純抗告ハ期間ニ付別ニ定メナキモ原決定ヲ取消スモ實益ナキニ至リタルトキハ抗告ヲ爲スコトヲ許ササルナリ。

三四 再審及非常上告

再審及非常上告ハ何レモ確定判決ニ對シ更ニ審判ヲ求ムルモノナリ、再審ハ事實認定ノ不當ヲ理由トスル攻撃方法ニシテ非常上告ハ法令ノ違背ヲ理由トシテ判決又ハ訴訟手續ノ破毀ヲ求ムルモノニテ兩者共其ノ許サルヘキ場合ヲ列擧セリ。

憲法

一 憲法ノ意義ヲ問フ

憲法ハ國家統治ノ大原則ナリ、凡ソ國家トシテ其ノ國ノ統治ニ關スル根本法ナキコトヲ考フルヲ得サルニ付キ何レノ國モ憲法ヲ有シ、何レノ國モ憲法國ナリト云フヲ得ヘシ然ルニ近世ニ於テハ少シク憲法ノ意義ヲ變シテ考フルニ到レリ、即チ憲法トハ所謂三權分立主義ニ則リ民選議會ヲ有スル國ノ根本法ヲ謂ヒ、斯ル國ヲ憲法國ト稱シ此ノ國ノ政體ヲ立憲政體ト稱スルニ到レリ我カ國ハ即チ立憲政體國ニシテ、後ノ意味ニ於ケル憲法々典ヲ有ス。

二 三權分立主義トハ何ソヤ

三權分立主義トハ佛國ノモンテスキュー氏カ始メテ主唱シ英國ニ於テ最先ニ行ハレタル政治ノ仕方ニシテ三權分立トハ統治權ヲ行使スルニ當リ法律ヲ制定スル權即チ立法權ト法律ヲ適用スル權即チ司法權ト法律ノ執行ヲ掌ル權即チ行政權トハ全然別異ノ機關ヲシテ行使セシムルヲ

云フ、我カ國ニ於テハ立法機關ニ帝國議會アリ、司法機關ニ裁判所アリ、行政機關ニ政府アリ。

三 國家ノ意義ヲ問フ

國家トハ一定ノ土地一定ノ人民ヲ統治權ヲ以テ統治スル團體ヲ云フ、即チ此ノ意義ヲ分析説明スレハ(一)國家ニハ一定ノ土地アルコトヲ必要トス、吾人ハ國家トシテ苟モ領土ナキテ想像スルヲ得サルモ其ノ土地ノ廣狹ハ敢テ問フ所ナシ、例之歐亞兩大陸ニ亘ル露國モ世界六大洲ニ跨ル英國ノ大モ、モナコ、ルクセンブルグノ小モ一國タリ(二)國家ニハ一定ノ人民ヲ要ス、一國ヲ組成スル人民ノ數ハ別ニ限局ナキモ少クモ國家ヲ組成シ得ル員數アレハ足ル、人民ハ同一民族タルコトアリ數多ノ民族ヨリ成ルコトアリ(三)國家ハ統治權ヲ以テ統治ス、統治權ハ之主權トモ稱ス國家ヲ統治スル權力ニシテ國內ノアラユル權力ニ對シ最高最上ノ權力タル性質ヲ有ス。

四 國體トハ如何

國體トハ統治權所在ノ態様ヲ云フ換言スレハ統治權カ何人ノ手ニアルヤノ觀念ヲ云ヒ、之ニ依リテ區別スルトキハ君主國體ト民主國體トニ大別セラル(一)君主國體ト

ハ統治權カ君主ノ手ニ在ル國體ヲ云ヒ例之日、伊ノ國體ノ如キ是レナリ(二)民主國體トハ統治權カ人民全體ノ手ニ存スル國體ヲ云フ即チ人民ノ意思ノ綜合シタルモノヲ國家ノ意思ト看做スモノヲ云フ佛、米、獨ノ如キ國體即チ是レナリ。

五 政體トハ如何

政體トハ統治權行動ノ形式ヲ云フ言葉ヲ約シテ言ヘハ『政治ノ仕方』ヲ云フ、國體ハ統治權カ何人ノ手ニ存スルヤニアルモ政體ハ統治權ヲ行使スルニ付キ如何ナル方法ヲ採ルヤノ意ナリ、政體ハ立憲政體ト專制政體トニ區別ス。

六 立憲政體ト專制政體トヲ説明セヨ

立憲政體トハ三權分立主義ニ則リ且民選議會ヲ有スル政體ヲ云フ、三權分立主義ノ何タルヤニ付テハ先ニ述フル所ナリ立法、司法、行政ノ三權ヲ同一ノ機關ヲシテ行使セシムルトキハ爲政者ハ時ニ專恣ノ弊害ナキヲ保セス之ヲ別異ノ機關ヲシテ行使セシムルトキハ互ニ牽制シテ公正公平ニ統治權ヲ行フヲ得ト云フニ在リ民選議會トハ國民ノ公選ニ依ル議員ヲ以テ組織スル議會ヲ云フ我カ國ニ

憲法ハ國ノ根本法ナルカ故ニ妄ニ改正ヲ爲スヲ許サス之ヲ爲スニハ幾多ノ制限アリ即チ(一)攝政ヲ置ク間ハ憲法ヲ改正スルヲ得ス(二)天皇ニアラサレハ改正ノ發案ヲ爲スコトヲ得ス(三)兩議院各其ノ議員ノ三分ノ二以上ノ出席アルヲ要シ且出席議員ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス。

九 統治權ノ主體トハ何ソ

統治權ノ主體トハ統治權ノ歸屬者、統治權ノ握持者ヲ云フ、我カ國ニ於テハ天皇ノ固有ニ有シ給フ所ニシテ皇祖天照大神ノ神勅ニ明ナルノミナラス、憲法第一條ニ『大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス』トアリ我カ國三千年ノ歷史上昭々トシテ明ナリ、其ノ間一點ノ疑ヲ容レズ。

一〇 天皇ノ特權ニ就テ記セ

天皇ハ權力ノ源泉、法ノ大本ナルニ付キ天皇ニ對シ何等加フヘキ力ナキハ言テ俟タサルモ一面ニ於テハ天皇モ亦自然人ヨリ此ノ自然人ニ對シテ特種ノ權力ヲ認ム即チ(イ)神聖不可侵權(ロ)榮譽權(ハ)財産上ノ特權(ニ)皇室ニ首長タルノ權アリ。

於ケル衆議院是ニ屬ス、專制政體トハ立法、司法、行政、君主自ラカ又ハ一機關ヲシテ併セ行フハ政體ヲ謂フ我カ國ハ明治二十三年憲法實施前ハ專制政體ナリシモ時代ノ進運ニ伴ヒ立憲政體ニ改メラレタリ。

七 憲法ノ種類ヲ問フ

憲法ハ其ノ觀察點ノ如何ニ依リ種々ニ區別セラル。(イ)成文憲法ト不文憲法、前者ハ憲法カ成文ノ法典ニ書キ表ハサレタルモノヲ稱シ我カ國憲法ノ如キ之ニ屬ス不文憲法トハ憲法ノ全部又ハ大部分カ慣習其ノ他宣言約束等ヨリ成立スル憲法ヲ云フ英國憲法ノ如シ。(ロ)欽定憲法ト協約憲法、欽定憲法トハ專ラ君主ノ制定セラレタル憲法ヲ云ヒ(日)協約憲法トハ直接又ハ間接ニ國民ノ手ニ依リ制定セラレタル憲法ヲ云フ(佛、米)。(ハ)軟憲法ト硬憲法、軟憲法トハ憲法カ法律ト同一手續ニ依リ改廢セララルル憲法ヲ云フ(伊)硬憲法トハ憲法改正ノ手續カ法律改正ノ手續ヨリモ鄭重ナル憲法ヲ云フ(日、米、佛)

八 憲法ノ改正手續ヲ問フ

一一 皇位繼承トハ如何

皇位繼承トハ皇位ヲ充當スヘキ自然人ノ更替ナリ皇位繼承ノ場合ニ付テ昔時ハ讓位、遜位、廢位等アリシモ皇室典範ニ於テ皇位繼承ハ天皇崩御以外ニ在リテ其ノ問題起ルコトナキヲ定ム、而シテ皇位繼承ノ資格ハ左ノ三個ノ要件ヲ必要トス(一)祖宗ノ血統ナルコト(二)男系ノ男子ナルコト(三)皇族ナルコト之レナリ。

一二 領土トハ如何

領土ハ統治權カ絕對無限ニ行ハルル地域ヲ云フ、故ニ外國統治權ノ侵入ヲ排斥ス、彼ノ租借地又ハ國際委任地ノ如ク他國トノ條約ニ基キ統治權ヲ行使スル地域ハ領土ニ非ス、領土内ニ在ル人ハ日本人タルト外國人タルト又日本人ノ物タルト外國人ノ物タルトヲ問ハス一切其國ノ統治權ニ服從セサルヘカラス。

一三 臣民トハ何ソヤ

人民ハ國家ノ成立ニ缺クヘカラス、人民ハ國家ニ對シテ國民ト云ヒ君主ニ對シテハ臣民トイフ、國民ト云ヒ臣民ト云フモ其ノ意義同シ、日本臣民タルノ要件ハ國籍法ノ定ムル所ニ依ル即チ父日本人ナルトキハ其ノ子ヲ日本人



トシ父明ナラサルトキ又ハ無籍ナルトキハ母日本人ナルトキ之ヲ日本人トシ、父母明ナラサルトキ又ハ無籍ナルトキハ日本ノ領土内ニ生レタル者ニ限り之ヲ日本人ナリトセリ。

一四 臣民ノ權利ニ就テ問フ

昔時專制時代ニ在リテハ生殺與奪ノ權一ニ君主ニ在リ臣民カ國家ニ對シテ主張シ得ヘキ權利ヲ認ムルコトナシ然ルニ我カ憲法ニ於テハ臣民カ國家ニ對シテ主張シ得ヘキ各種ノ公權ヲ認メタリ參政權、行爲請求權、自由權ノ如キ即チ是レナリ。

一五 參政權トハ如何ナルモノゾ

參政權トハ臣民カ國權ノ或動作ニ參與スル權ヲ云フ(一)選舉權(二)均ク公務ニ就クノ權トニ大別ス、選舉權トハ衆議院議員、府縣會議員、市町村會議員等ヲ選舉シ又ハ選舉セラルルノ權ヲ云フ、均ク公務ニ就クノ權トハ封建時代ノ如ク門閥、血統ニ依リ官職ヲ世襲スルコトナク國民一般ニ參政權ヲ開放シ彼ノ出生地、職業、人種、宗教等ニ依リ等差ヲ設ケス専ラ人材登用ノ意ヲ以テ官公吏議員ニ就任スルコトヲ得ルヲ云フ。

一六 行爲請求權ヲ問フ

行爲請求權トハ國家ニ對シテ國權ノ或動作ヲ要求スル權ヲ云フ(一)裁判請求權(二)請願權ノ二種ニ大別セラル世ニ無告ノ民程哀レナルモノ無シ即チ國民ニシテ權利ヲ侵害セラレタリト思料スルモノカ公平公正ナル裁判官ニ依リ裁判セララルコトヲ求ムルヲ得ルト國家ニ對シ或ル願望ヲ有スルモノカ相當ノ手續ニ依リ請願ヲ爲シ之ヲ受理裁決セララルルノ道アルコトハ日本臣民トシテ一種ノ權利ナリ。

一七 兵役納稅ノ義務ヲ問フ

國ヲ護リ寇ヲ防ク爲メニ兵力ヲ要シ、ニ國維持ノ爲メニ納稅ノ必要ナルコトハ言ヲ俟タス、是レ國民ニ兵役納稅ノ二大義務アリト稱セラルル所以ナリ、然レトモ之ヲ課スルニ無制限ナルトキハ國民ノ能ク耐フル所ニアラズ、故ニ憲法ニ於テハ之ヲ課スルニハ必ス法律ノ規定アルヲ要ストセリ、故ニ兵役納稅ハ一面ニ於テ義務タルト共ニ他面ニ於テハ法律ニ依リニ非サレハ課セラレサルノ權利ナリ。

一八 自由權ヲ問フ

ヒ王(三)皇后(四)皇太后(五)太皇太后(六)内親王及ヒ女王ナリトス。

二〇 國務大臣トハ如何

國務大臣ハ天皇ノ大權行使ニ付之ヲ輔弼スル機關ナリ、茲ニ輔弼トハ天皇ニ意見ヲ奉リ之ヲ正路ニ輔導シ奉ルヲ云フ、國務大臣意見開陳ノ方法ハ書面口頭ハ勿論舉動ニ顯ハスモ可ナリ要ハ天皇ノ大權ヲ親裁專行スルニ際シ之ヲ翼贊スルニ在リ、而シテ大臣ニハ斯ノ如ク進言ノ自由アルモ天皇ハ之ヲ採納スルノ義務アルニ非ス、大臣ハ君命ヲ守ルノ義務アリテ之ヲ左右スルノ權ナキナリ。

二一 國務大臣副署ノ責任ヲ問フ

國務大臣ハ副署ヲ爲スノ義務アリ、副署トハ御名ニ副ヘテ大臣署名スルノ義ナリ、憲法第五十五條ニ依リ法律勅令其ノ他國務ニ關スル詔勅ニハ國務大臣副署スルコトトセリ、副署ハ君主ノ行爲ノ適法ナルコトヲ明ニスル形式ナリ從ツテ副署ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス拒ムコトヲ得サル副署ニ對シテ國務大臣ハ他ニ何等責任ヲ負フコトナシ

二二 樞密顧問ニ就テ知ル所ヲ記セ

樞密顧問ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ナル國務ヲ審議スル合

自由權トハ國家ニ對シ國權ノ或干涉或程度迄排斥スルノ權ヲ云フ、吾人ニハ絕對ノ自由アルコトナシ絕對ノ自由ハ自由ニ非スシテ我儘ナリ放埒ナリ、故ニ或程度ノ制限アルコトハ蓋シ當然ノコトニ屬ス、以下述フル所ノ臣民ニ對シ許サレタル俗ニ所謂八大自由モ亦法律ヲ以テスルトキハ此ノ自由ヲ制限シ得ルヲ通常トシ唯々單ナル命令ノミヲ以テハ其ノ自由ヲ制限シ得スト爲スニ在リ、八大自由トハ(一)居住移轉ノ自由(二)身體安全ノ自由(三)住所安全ノ自由(四)信書秘密ノ自由(五)集會結社ノ自由(六)思想發表ノ自由(七)所有權不可侵權(八)信教ノ自由ナリトス。

一九 攝政トハ何ツ

攝政トハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ機關ナリ、天皇ノ名ニ於テトハ天皇ノ名義ニテト云フ意ナリ、大權トハ統治權ノ謂ナリ、攝政ヲ置クヘキ場合ハ(一)天皇未成年ナルトキ(二)天皇久シキニ亘ルノ故障ニ因リ大政ヲ親ラサルコト能ハサルトキノ二ツノ場合ナリトス、攝政ハ古ノ如ク臣下ヲ以テ充ツルコトヲ得ス必ス皇族ニ限ル、就任ノ順位ハ(一)成年ノ皇太子又ハ皇太孫(二)親王及

議機關ナリ、樞密顧問ノ職務ハ天皇ノ諮詢アル場合ニ奉答スルモノニシテ國務大臣ノ如ク居常總テニ就テ輔弼スルモノニ非ス又進シテ意見ヲ獻替スルモノニアラス元ヨリ人民ニ對シ命令ヲ發シ若ハ政治ニ關與スルコトヲ得サルナリ、樞密顧問ハ議長副議長及若干ノ樞密顧問官ヲ以テ組織スル合議制ノ機關ナリ

二三 帝國議會ノ意義ヲ問フ

帝國議會ハ貴族院及衆議院ヲ以テ組織ス、斯ル制度ヲ二院制ト云フ帝國議會ハ立法及財政ニ參與スルコトヲ權限トスル機關ナリ、立法權ハ天皇ニ在リ議會ハ唯之ニ協賛ヲ與フルノミ議會ノ本旨ハ大政ヲ公論ニ諮ヒ國民ニ參政ヲ許スノ意ニ外ナラス、議會カ財政ニ參與スルハ財政就中豫算ノ制定ハ國民ノ利害ニ直接影響スルコト甚大ナレハナリ。

二四 貴族院ノ組織ヲ問フ

貴族院ハ皇族華族及勅選議員ヲ以テ組織ス、皇族中皇太子皇太孫ハ滿十八歲其ノ他ノ皇族ハ成年ニ達セハ當然議員タリ、華族中公侯爵ハ或年齢ニ達セハ經然議員タリ伯子男爵ハ互選ノ上議員タリ、勅選議員ニハ國家ニ勳勞ア

二八 法律トハ如何ナルモノソ

ニ貴族院ハ停會ヲ命セラル貴族院ニハ解散ナルモノナシ法律トハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ天皇ノ裁可公布シタル法規ヲ云フ、帝國議會ノ協賛ヲ經ル點ニ於テ天皇自ラ發スル勅令ト異リ又各省大臣、地方長官等ノ行政機關ノ發スル省令府縣令トモ異ルナリ、議會ノ協賛ハ法律ノ内容實質カ定マルモノニシテ法タルノ效力發生ハ天皇ノ裁可シ且公布スルヲ要ス。

二九 國家ノ豫算トハ何ソ

國家ノ豫算トハ一箇年間ニ於ケル國家ノ收入支出ノ見積ヲ云フ、豫算ハ議會ノ協賛ヲ經テ天皇ノ裁可ヲ要ス、豫算ノ性質ハ天皇ノ行政官廳ニ對スル財政上ノ訓令ナリト考フヘシ。

三〇 法律制定ノ手續ヲ問フ

法律ヲ制定スルニハ(一)法律法案ノ提出、法律ノ草案ヲ議會ノ議ニ付スルコトヲ云フ、議案ハ政府貴族院及衆議院共ニ提出權アリ(二)法律案ノ議定、兩議院ニ於テ法律案ノ可否ヲ決スルヲ云フ議定ハ單ニ法律ノ内容實質ヲ確定スルニ過キス(三)裁可、議會ノ可決シタル法律

リ學識アル者ト各府縣多額納稅者ヨリ選出トノ二種アリ何レモ勅選セラレテ議員タルナリ

二五 衆議院ニ就テ記セ

衆議院ハ所謂民選議會ナリ、衆議院ハ立憲政體ニ缺クヘカラサル議院ナリ、一院制ノ國ニ在リテハ假令貴族院ヲ缺クモ衆議院ヲ缺クコトナシ、衆議院議員ハ國民ノ公選ニ依リテ議員タリ、衆議院ハ此ノ議員ノミヲ以テ組織スル議院ナリ。

二六 普通選舉トハ如何

國民一般ニ選舉權ヲ與フルノ制ナリ、然レトモ絕對ニ制限ナシト云フヘカラス男女ノ性、年齢、住居ノ期間若ハ禁治產者準禁治產者等ニ對シ制限ヲ加フルカ如シ、制限選舉トハ納稅額又ハ財產額若ハ教育ノ程度ヲ以テ選舉資格ヲ制限スルノ謂ナリ。

二七 議會ノ解散トハ如何

解散トハ衆議院議員全部ヲ同時ニ其ノ資格ヲ解クヲ云フ衆議院議員ノ任期ハ四ヶ年ナルモ滿期前其ノ資格ヲ失ハシムルモノニシテ全部同時ニ失ハシムルカ故ニ衆議院ハ其ノ成立ヲ失フナリ、衆議院ニ解散ヲ命スルトキハ同時

案ヲ天皇ノ嘉納スルコトヲ謂フ、法律案カ法律トシテ確定スルハ此ノ場合ニ在リ(四)公布、公布トハ成立シタル法律ヲ宣布シテ其ノ效力ヲ發生セシムルヲ云フ。

三一 憲法上ノ大權ヲ説明セヨ

天皇ノ親裁專斷シ給フ統治權ノ範圍ヲ云フ、統治權ノ行使ハ司法、立法、行政ノ各機關ニ委任セララルノ外天皇親ラ裁斷セララルル政務ノ範圍アリ之ヲ天皇ノ大權ト云フ(一)各種ノ勅令ヲ發スルノ權(二)條約締結ノ權(三)陸海軍ノ統帥、編制、常備兵額ヲ定ムルノ權(四)宣戰媾和(五)榮典ノ授與(六)戒嚴ノ宣告(七)恩赦權ノ如キ是ナリ。

三二 裁判所トハ如何

裁判所ニハ司法裁判所ト行政裁判所トアリ、司法裁判所ハ民事刑事ノ事件ヲ審理判決スル機關ナリ、裁判所ハ裁判ヲ爲スニ當リ法律ニ依ルノ外何等ノ拘束ヲ受クルコトナク獨立ノ見解ニ依リ裁判ヲ爲スモノトシ、判事ニハ刑法ノ宣告又ハ懲戒處分ニ依ルノ外其ノ意思ニ反シテ地位ヲ動かカスコトナシトノ身分上強固ナル保障規定アリ。

## 行政法

### 一 行政ノ意義ヲ問フ

立憲政體ハ統治權ノ行動ヲ立法、司法、行政ノ三機關ニ分チ獨裁政治ノ弊ヲ矯メントスルニ在ルモノナリ而シテ立法ハ法規ヲ制定シ司法ハ法規ヲ適用シ行政ハ法規ヲ執行スル作用ナリト云フトキハ一見其ノ區別判然タルカ如キモ政務ノ實際ニ徴スルニ行政機關タル各省大臣カ省令ヲ發シ府縣知事カ府縣令ヲ發スルハ立法ニ屬シ訴願ノ裁決ハ法規ノ適用ニシテ其ノ實質司法ナリ加之我カ國ニ於テハ天皇ノ親裁專斷セラルル事項(天皇ノ大權)廣キカ故ニ行政ノ意義ヲ左ノ如ク言ハントス。  
行政トハ立法司法及天皇ノ大權ヲ除キタル統治作用ナリ。

### 二 行政法トハ如何

行政法ハ近世ノ發達ニ係リ其ノ研究尙ホ幼稚ナルヲ以テ民法、商法、刑法等ノ如ク一括シタル法典ナク唯タ行政ニ關スル各種ノ法規ヲ綜合シタルモノヲ行政法ト云フノミ乃チ之ヲ定義セハ

法律

行政法トハ行政機關ノ組織權限及國家ト臣民トノ間ニ於ケル關係ヲ定メタル法規ナリ。

即チ各省官制通則、地方官々制ハ行政機關ノ組織權限ヲ定メタル法規ナリ、助長行政又ハ警察行政ニ關スル法規ハ國家ト臣民トノ間ニ於ケル關係ヲ定メタル法規ナリ

### 三 官治ト自治トノ別ヲ問フ

官治トハ行政ハ執行機關カ行政官廳ナルヲ云ヒ、自治トハ行政ハ執行機關カ公共團體ナル場合ヲ云フ、各省大臣、府縣知事、警察署長ハ官治ニシテ府縣、市町村ハ自治ナリ官治ハ行政ノ統一ヲ期スルニ利アリ、自治ハ地方ノ特色ニ適合セシムルノ利アリテ利弊互ニ相反ス。

### 四 中央集權ト地方分權トノ別ヲ問フ

行政事務カ中央ニ集中スルヤ否ヤノ區別ニシテ中央集權ハ分權制トナリ極端ニ走ルトキハ地方行政ヲ委靡セシム地方分權トハ行政事務ヲ地方官廳カ又ハ地方公共團體ニ委任スルヲ云フ極端ニ走ルトキハ封建制度ノ如ク國家ノ不統一ヲ招クニ到ル故ニ各國何レモ此ノ兩主義ヲ折衷併用シ一方ニ偏倚スルコトナキヲ期セリ。

### 五 行政官廳トハ何ソヤ

行政官廳トハ人ヲ以テ組織シ一定範圍ノ國家事務ヲ處理決定スル機關ヲ云フ、此ノ定義ヲ分析スルトキハ官廳ハ人ヲ以テ組織ス一人ノミヲ以テ組織スル場合ヲ單獨制ノ官廳ト云ヒ内務大臣、知事、郡長、警察署長ハ其ノ適例ナリ又數人ヲ以テ組織スル場合ヲ合議制ノ官廳ト云フ行政裁判所ノ如シ、官廳ハ天皇ノ委任ニ依リ國家統治事務ノ一部ヲ處理決定スル機關ニシテ自治團體ノ事務ノ如ク自己ノ爲メニ自己ノ事務ヲ處理スルニ非スシテ國家ノ事務ヲ國家ノ機關トシテ處理スルモノナリ。

六 中央官廳ト地方官廳トノ別ヲ問フ

土地ノ管轄ニ依ル區別ニシテ國家ノ中樞ニ位シ全國ニ渉ル事務ヲ掌ルモノヲ中央官廳トス例之各省大臣ノ如シ、反之地方ノ區別ニヨリ其ノ區別内ノ事務ヲ掌ルモノヲ地方官廳トス例之府縣知事、郡長、警察署長ノ如キ之ナリ。

七 普通官廳ト特別官廳トノ別ヲ問フ

普通官廳ハ事務ノ種類ヲ概括的ニ定メタル官廳ヲ云ヒ府縣知事、郡長ハ其ノ適例タリ、特別官廳トハ事務ノ種類ヲ列舉的ニ定ムル官廳ヲ云フ例之稅務署長、警察署長ノ

如シ其ノ區別ノ實益ハ權限上ニ於テ疑義アル事項ハ特別官廳ハ其ノ權限ニ屬セサルモノト解シ普通官廳ハ權限内ニ屬スルモノト解スヘキナリ。

八 各省大臣ニ就テ知ル所ヲ記セ

各省ハ行政事務ノ分配ナリ各省大臣ハ之ヲ擔任シ其ノ責ヲ負フ行政上ノ長官タリ、外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農林、商工、遞信、鐵道ノ十一省ニ別ツ大臣ハ省令ヲ制定發布シ、各種ノ許可、認可、公認等ノ處分ヲ爲シ下級官廳ニ對シ監督訓令ノ權ヲ有ス即チ主管ノ事務ニ就キ法令ノ解釋ヲ一定シ施設ノ方針ヲ授クルノミナラス下級官廳ノ命令又ハ處分カ制規ニ違ヒ公益ヲ害シ若ハ權限ヲ犯スモノナリト認ムルトキハ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得トセリ。

九 府縣知事ニ就テ知ル所ヲ記セ

府縣知事ハ最上級ノ地方官廳ニシテ然モ普通官廳ナリ、知事ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ付テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ受ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管掌ス其ノ權限ハ(一)府縣令ナル法規ヲ制定シ(二)行政處分トシテ過料ヲ科シ(三)非常急變ノ場合師團長

又ハ旅團長ニ出兵ヲ要求シ(四)下級官廳ニ對シ監督訓令ノ權ヲ有ス。

一〇 官吏ノ意義ヲ問フ

官吏トハ任命ノ形式ニ依リ國務ヲ擔任スル義務ヲ負ヒ特別ノ服從關係ニ立ツ者ヲ云フ(一)官吏ハ任命ノ形式ニ依ルカ故ニ彼ノ議員ノ如ク選舉ニ依リテ地位ヲ得タルモノニ非ス(二)官吏ハ國務ヲ擔任スルコトヲ要件トスルカ故ニ國家ノ任命ニ依ルモ國務ヲ擔任セサル日本銀行總裁、滿洲鐵道總裁ハ官吏ニ非ス(三)官吏ハ官吏服務規律其ノ他各種服務法規ノ遵守ヲ命セラレ統治者ニ對シ特別ノ服從關係ニ立ツモノナリ。

一一 官吏ノ權利ヲ問フ

官吏ハ其ノ身分ニ伴ヒ身上ノ權利及財産上ノ權利アリ身上ノ權利トシテ裁判官、會計検査官、裁判所評定官ハ刑ノ宣告懲戒ノ處分ニ依ルノ外其ノ意ニ反シテ免官又ハ轉任セララルコトナシトシ地位ノ保障ヲ爲セリ其ノ他一般ノ官吏モ亦之ニ比シ稍々輕キ程度ニ於テ其ノ地位ヲ保障セラル、次ニ財産上ノ權利トシテ在官中ハ俸給ヲ受ケ又職務執行上特別ノ費用ヲ要シタル場合ニ實費辨償ヲ受ク

ルノ權アリ旅費、疾病手当等ノ如シ、官吏關係消滅後ハ恩給、一時恩給、遺族扶助料、一時扶助料、弔祭料ヲ支給サルル權アリ。

一二 官吏ノ義務ヲ問フ

官吏ノ義務中共ノ一身上ニ就テハ廉恥ヲ重シ貪汚ノ所爲ヲ禁シ產ヲ治メ専ラ官吏タルノ品位ヲ保ツノ義務アリ又職務上ニ就テハ(一)職務ニ對シテ全能力ヲ盡シ(二)忠實勤勉ヲ旨トシ(三)在職中ハ勿論退職後モ秘密ヲ嚴守シ(四)服從ノ義務ヲ守ルヘキナリ。

一三 官吏ノ服從義務ヲ問フ

官吏カ上官ニ對シテ服從義務アルコトハ論ナキモ、其ノ服從義務ハ絕對的ニ非スシテ自ラ限度アリ、服從義務ノ要件ハ(一)本屬長官ヨリ發セラルルコト、長官以外ノモノノ爲ス命令ニハ服從ノ義務ナシ(二)職務上ノ命令ナルコト、(三)命令ニ一定ノ形式ヲ要スルトキハ其ノ形式ヲ具備スルコトヲ要ス例之非現行犯人引致ニ令狀ヲ要スル場合ノ如シ(四)下官ノ職務上ノモノタルコト、違法ノ命令ニ服從ノ義務ナキハ勿論ナルモ一旦拒ミタル命令カ後ニ至リテ適法ノ命令ナルコト明ナルトキハ懲戒上

ノ責任ヲ負フモノトス。

一四 自治トハ何ソヤ

自治トハ公共團體カ法律ニ從ヒ國ノ行政事務ヲ自己ノ行政事務トシテ自己ヲ處理スルヲ云フ、自治ハ公共團體カ自己ノ選出シタル機關ニ依リテ其ノ團體ノ事務ヲ處理スルモノニシテ所謂自己ノ事務ヲ自己カ處理スルナリ、此ノ點ハ官廳カ國家ノ爲メニ國家ノ事務ヲ處理スルト異ル自治ノ事務モ元來國ノ事務タリ、唯法律ノ定ムル所ニ依リテ公共團體ノ事務トシテ委任セラレタルニ過キササルナリ。

一五 地方團體トハ如何

地方團體トハ土地及人民ヲ要素トシ自治權ニ依リテ統治セラレル團體ナリ、土地ヲ要素トスル點ニ於テ同シ公共團體中ノ公共組合ト區別シ、自治權ニ依リ土地人民ヲ統治スル點ニ於テ國家ト異ル市町村及府縣ハ地方團體ノ適例タリ。

一六 市町村ノ機關

市町村ノ機關ニハ議決機關ト執行機關トアリ、市町村會ハ市町村ノ意思ヲ決定スル機關ニシテ議決機關タリ市長ハ市會カ選舉シ勅或テ經、町村長ハ町村會カ選舉シ認可

ヲ受クル處ナルカ何レモ市町村會ノ議決事項ヲ執行スル機關ナリ、市ニハ市參事會アリ議決機關ノ一種ニシテ市長、助役、名譽職參事會員ヲ以テ組織ス。

一七 公共組合トハ何ソ

公共組合ハ地方團體ト同シク公共團體ノ一種ニシテ唯一定ノ地域ヲ要素トスルコトナク單ニ公共事務ヲ處理スルコトヲ目的トスル團體ナリ水利組合、商業會議所、重要物產同業組合、耕地整理組合、學校組合等之ニ屬ス此ノ組合ニハ強制加入ノ規定、過怠金ノ徵收、組合費ノ強制徵收等ノ規定アリ。

一八 營造物ノ意義ヲ問フ

營造物トハ國家又ハ公共團體カ行政上ノ目的ノ爲メニ直接ニ公共ノ利用ニ供スル設備ヲ云フ例之築港、道路、橋梁、學校、公園等ノ如シ、直接ニ公共ノ利用ニ供スルコトヲ要スルカ故ニ官廳ノ建物、兵營、軍艦、砲臺ノ如キハ營造物ニアラスシテ公有物タリ、營造物ハ國家又ハ公共團體カ營造物トスル意思表示アルコトヲ要スルカ故ニ一私人ノ經營スル鐵道、病院、學校ハ營造物ニ酷似スルモ其ノ適例ニ非サルナリ。

一九 行政行爲ノ意義ヲ問フ

行政機關ハ一個人ト等シク請負、購買等ノ私法的行爲ヲ行フコトアリ、又下級機關ニ對シテ監督訓令ノ行爲ヲ爲スモ是等ハ行政行爲ニアラス、茲ニ行政行爲トハ行政機關カ外部ニ對シテ爲ス行爲中公法上ノ效果ヲ生スルモノニ限ル更ニ之ヲ大別シテ行政法規及行政處分ト爲ス。

二〇 行政法規トハ何ソ

凡ソ行政ノ準則タルヘキ法規ニハ法律、勅令、條例等アルモ茲ニ行政法規ト云フハ行政官廳ノ發スル法規命令ノミヲ指ス、例ヘハ閣令、省令、府縣令、律令、制令、廳令等ノ如シ而シテ彼ノ行政機關相互間ノ内部監督作用ニ屬スル處務規程、訓令、告示、服務命令ノ如キハ茲ニ所謂行政法規ニ屬セス。

二一 行政處分トハ如何ナルモノソ

行政處分トハ行政機關カ特定ノ人ニ對シテ特定ノ法律關係ヲ定ムル行政行爲ヲ云フ、行政處分ハ法規ニ對スル語ニシテ法規カ一般的抽象的ナル事項ヲ定ムルニ反シ處分ハ法規ニ基キ特定實在ノ關係ヲ定ムル點ニ於テ異ル例之「家屋ハ不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ」ト定ムルハ法規ニ

シテ「何某カ燃質物ヲ以テ家屋ヲ覆葺スルニ對シ其ノ除去ヲ命ス」トハ處分ナリ。

二二 許可(免許)トハ如何

許可トハ一般ニ禁止セラレタル行爲ヲ請求ニ依リ特定ノ場合ニ解除スルノ行政處分ヲ云フ、故ニ許可ハ其ノ前提トシテ一般ニ禁止セラレタル事項ナルヲ要ス然ルニ許可ノ請求アリタル場合ニ人、場所、方法、設備ノ如何ヲ調査シテ特定ノ人ニ解禁スルヲ許可ト云フ、質屋古物商營業ノ許可、人力車駐車場ノ設置許可、劇場ノ設置許可等ノ如シ。

二三 認可ト特許トノ別ヲ問フ

認可トハ一定ノ行爲ニ法律上ノ效力ヲ附與スル行政處分ヲ云フ例之町村長、助役選任ノ認可ノ如シ、解禁處分ノ性質ヲ有セサル點ニ於テ許可ト異ル、特許トハ一人ノ請求ニ依リ私權ヲ設定附與スル行政處分ヲ云フ例之發明特許、鑛業特許ノ如シ前者ハ法律上ノ效力ヲ與フルニ過キササルモノナルモ後者ハ私權ノ設定附與ナル點ニ於テ異ル。

二四 行政上ノ強制手段トハ何ソ

法規又ハ行政手段ニ依リ私人カ其ノ負擔スル義務ヲ從順ニ行フトキハ何等ノ問題ヲ生セサルモ往々之ニ服從セサル場合アリ茲ニ於テカ行政上ノ強制手段ヲ必要トス此ノ強制方法ニ(一)代執行(二)執行罰(三)直接強制ノ三方法アルモ委シキ説明ハ警察法ノ解説ニ讓ル。

二五 行政上ノ救濟手段ヲ問フ

行政廳カ行政ヲ爲スニ當リ其ノ職司ヲ嚴守シ適正公平ニ法規ニ準據シ國民福利ヲ増進スルハ其ノ理想トスル所ナルモ行政廳ヲ組織スルモノハ自然人ニシテ時ニ違法又ハ不當ノ處分ヲ爲シ臣民ノ權利又ハ利益ヲ傷害スルコトナキヲ保セス茲ニ於テカ國家ハ之カ救濟手段トシテ訴願及行政訴訟ノ道ヲ開ケリ。

二六 訴願ノ意義ヲ記セ

訴願トハ行政機關ノ違法又ハ不當ナル處分ニ依リ權利又ハ利益ヲ傷害セラレタリトスルモノカ其ノ處分ノ取消變更ヲ請求スルヲ云フ、故ニ訴願ハ行政處分ノ當否ヲ再審センコトヲ求ムルニ在リ訴願ハ訴願事項トシテ許サレタル事項ニ對シテノミ提起シ得ルナリ、訴願ハ處分ヲ受ケタル後六十日以内ニ書面ヲ以テ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ

經其ノ官廳ヲ監督スヘキ直近上級ノ官廳ニ向ツテ之ヲ爲スヘキナリ。

二七 行政訴訟ノ意義ヲ問フ

行政訴訟トハ行政機關ノ違法處分ニ依リ權利ヲ侵害セラレタリトスルモノカ其ノ處分ノ取消變更ヲ求ムル爲メ行政裁判所ニ提起スル訴ヲ云フ、行政訴訟ヲ許サルヘキ事項ハ列擧的ニ之ヲ定メ濫訴ノ弊ヲ防ケリ、行政訴訟ハ訴願ノ如ク不當處分ニ對シテハ許サレズ必スヤ違法處分ニ對スルコトヲ要ス、假令違法ナルモ之カ爲メニ權利侵害ノ事實ナクンハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス、行政訴訟ハ現行法ニ於テハ各省大臣ノ處分及内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對スル場合ノ外必ス先ツ地方上級行政廳ニ訴願シ其ノ裁決ヲ經タル上ニアラサレハ訴訟ヲ提起スルヲ得ストセリ。

二八 行政ノ監督トハ何ソヤ

一國ノ統治方法ハ複雑ナルモ必スヤ其ノ間ニ統一ヲ保チ法令及公益ニ反スルコトナキヲ保スルモ行政廳ヲ組織スル官吏ハ多數ナレハ時ニ違法ノ行爲又ハ不當ノ處置アルヲ免レズ此ニ於テカ之ニ對シ救濟ノ道ヲ講シ其ノ間ニ秩

序ヲ保チ統一ヲ計ラサルヘカラス、監督ノ要即チ茲ニ存ス、監督ニハ種々ノ形式ヲ以テ現ハル(一)視察(二)指揮命令(訓令指令等)(三)行政行爲ノ停止及取消等ナリトス。

二九 權限爭議ヲ説明セヨ

權限爭議トハ官廳相互ノ間ニ起ル權限ノ爭ヲ云フ、國家ハ數多ノ官廳ヲ設ケテ國務ヲ處理セシムルヲ以テ是等ノ官廳ハ皆一定ノ權限ヲ有ス、此ノ權限ハ法令ヲ以テ定ムル所ナルモ官廳カ實際其ノ職務ヲ行フニ當リテハ各場合ニ付各官廳解釋ヲ異ニシ權限ノ爭ヲ生ス、即チ官廳ト官廳トカ同一事件ニ付互ニ自己ノ管轄ナリト主張スル爭ヲ積極的權限爭議トシ反之官廳カ互ニ自己ノ管轄ニアラスト主張スル爭ヲ消極的權限爭議ト云フ此ノ爭議ノ裁決方法ハ各定ムル所ナリ。

## 裁判所構成法

### 一 裁判所構成法ノ性質ヲ述ヘヨ

一 裁判所ノ意義 裁判所構成法ニ所謂裁判所ハ通常裁判所即區裁判所、地方裁判所、控訴院及大審院ヲ謂フ

二 裁判所構成法ノ地位 裁判所構成法ハ裁判所ノ組織及權限ヲ定メタル法律ナリ。

(一) 裁判所ノ組織 トハ裁判所ハ如何ナル職員ヲ以テ構成セラルルカ其職員ノ地位、資格等ハ如何トイフ問題ナリ。

(二) 裁判所ノ權限 トハ裁判所ハ如何ナル國家事務ヲ取扱フモノナルカ其取扱ノ方法等ハ如何トイフ問題ナリ。

### 二 裁判所ノ職員ハ如何ナル者ナリヤ

裁判所ノ職員ハ左ノ如シ。

(一) 判事 判事ハ裁判所職員ノ主腦ニシテ裁判事務ノ大部分ヲ掌ルモノトス即チ民事、刑事ノ審理ヲ爲シ裁判ヲ言渡ス手續ノ主要部分ハ皆判事ノ職權職務ニ屬ス。

(二) 裁判所書記 ハ判事ニ從屬シ書類ノ調製、公判審

法律

理ノ立會、會計事務、登記事務等法律ニ定メタル一定ノ職務ヲ行フモノナリ。

(三) 執達吏 書類ノ送達、裁判ノ執行等ヲ掌ルモノナリ。

### 三 裁判所ノ組織ヲ略說セヨ

一 司法機關ト司法官 裁判所ハ司法機關即チ民事刑事ノ裁判事務ヲ掌ル國家ノ機關ニシテ無形ノ地位ナルカ故ニ此ノ地位ヲ充ス自然人タル官吏ナカルヘカラス此官吏ハ司法官ニシテ判事ハ之ニ當ル裁判所ハ一人ノ判事ヲ以テ組織スルモアリ又數人ノ判事ヲ以テ組織スルモアリ前者ヲ單獨裁判所トイヒ後者ヲ合議裁判所トイフ。

二 裁判所ノ書記課 各裁判所ニ書記課ヲ置キ相應ナル員數ノ書記ヲ配置ス執達吏ハ各區裁判所ニ附屬スルモノナリ。

### 四 區裁判所ノ構成及其權限ノ大略ヲ記セ

一 區裁判所ノ構成 區裁判所ハ單獨裁判所ニシテ二人以上ノ判事勤務スル場合ニ於テモ裁判事務ハ各一人ノ判事之ヲ爲ス而シテ二人以上ノ判事アルトキハ其上級

判事ヲ監督判事トシ司法行政事務(例之下級職員ノ任免、進退、監督等)ヲ掌ラシム。

二 區裁判所ノ權限 區裁判所ハ最下級ノ裁判所ニシテ簡易ニシテ迅速ニ處理スヘキ事件ヲ管轄ス即民事ニ在リテハ金額千圓以下ノ爭訟事件ヲ裁判シ、刑事ニ在リテハ短期一年以下ノ懲役禁錮又ハ罰金、拘留若ハ科料ニ該ル事件ヲ處理ス尙區裁判所ハ破産事件及非訟事件例之親族會招集、相續人、後見人等ノ選定等其他登記事務ノ如キヲモ管轄ス。

五 地方裁判所ノ構成及其權限ノ大略ヲ記セ

一 地方裁判所ノ構成 地方裁判所ニ於テ現實ニ裁判所トシテノ裁判事務ヲ管掌スルモノハ一又ハ二以上ノ民事部及刑事部並ニ豫審判事ナリ民事部及刑事部ハ各三人ノ判事ヲ以テ組織シ其中一人ヲ裁判長トス各地方裁判所ニハ所長及部長ヲ置キ司法行政事務ヲ掌ラシム、尙司法大臣ハ必要ト認ムルトキハ區裁判所内ニ地方裁判所ノ支部ヲ開設スルコトヲ得。

二 地方裁判所ノ權限 地方裁判所ノ權限ノ主要ナルモノハ

六 控訴院ノ構成及其權限ノ大略ヲ記セ

一 控訴院ノ構成 控訴院ニ於テ裁判所トシテ事務ヲ管掌スルモノハ一又ハ二以上ノ民事部及刑事部ナリ、各部共三人ノ判事ヲ以テ組織シ其一人ヲ裁判長トス但皇族ニ對スル民事訴訟ニ付テハ第一審トシテハ三人ノ判事ナルモ第二審トシテハ五人ノ判事ヲ以テ組織ス院長及部長ハ司法行政事務ヲ管掌ス。

二 控訴院ノ權限 控訴院ハ民事刑事ヲ通シ地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴及地方裁判所ノ第一審トシテ爲シタル決定命令ニ對スル抗告ヲ管轄ス、尙東京控訴院ハ此外特ニ人民ヨリ皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第

七 大審院ノ構成及其權限ノ大略ヲ記セ

一 大審院ノ構成 大審院カ裁判所トシテ裁判ヲ行フハ一又ハ二以上ノ民事部及刑事部並ニ聯合部ナリ民事部及刑事部ハ各五人ノ判事ヲ以テ組織シ其中一人ヲ裁判長トス聯合部ハ民事聯合部、刑事聯合部又ハ民刑總聯合部トアリ何レノ場合ニ於テモ聯合部ノ判事三分ノ二以上ノ列席ヲ以テ審理裁判ス尙臨時ニ豫審判事ヲ設クルコトアリ。

二 大審院ノ權限 大審院ハ最高裁判所ニシテ左ノ權限ヲ有ス。

(一) 上告審即チ終審トシテ民事刑事ヲ通シ控訴院ノ判決及地方裁判所ノ第二審判決ニ對スル上告(刑事ニ在リテハ例外トシテ尙區裁判所地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル上告)並ニ控訴院及地方裁判所ノ第一審トシテ爲シタル決定命令ニ對スル抗告ヲ管轄ス

(二) 第一審且終審トシテ刑事ニ付皇室ニ對スル罪、内亂罪及皇族ノ犯シタル禁錮以上ノ事件ノ裁判ヲ爲ス大審院ハ法律ノ解釋適用ヲ統一スル爲メ同様ノ事

八 裁判長ト裁判所長又ハ部長トノ區別如何

一 根本ノ差異 裁判長ハ裁判機關タル裁判所(民事部、刑事部又ハ聯合部)ノ代表機關トシテ訊問、裁判言渡、法廷警察等ノ裁判官タル事務ヲ行フ反之裁判所長又ハ部長ハ官署トシテノ地方裁判所ノ長又ハ其代理者トシテ司法關係ノ行政事務ヲ掌ル即所長部長ハ本來ハ判事即チ裁判官トシテ民事刑事ノ裁判事務ヲ掌ルモノナルモ他面ニ於テハ行政官トシテ司法行政ノ事務ヲ行フモノニシテ其司法行政事務ヲ行フハ所長又ハ部長タル資格ニ於テ之ヲ爲ス。

二 差異ノ結果 裁判長ハ事務分配ノ規程ニ依リ各事件ニ付各場合ニ定マリ所長部長ハ任命ニ依リ常設ノ機關トシテ存在ス故ニ所長又ハ部長ニシテ裁判長タルコトアルモ裁判長ハ必スシモ所長部長ニ限ラルルコト無シ他ノ一般判事ト雖モ裁判長タルコトアリ又所長部長カ裁判長タル場合ニ於テモ裁判長トシテハ一般判事ノ裁判長タル場合ト毫モ異ナルコト無シ。



九 判決例ノ意義及效力ヲ問フ

一 意義 判決例トハ既往ノ事件ニ付下シタル判決ノ實例ヲ謂フ。

二 效力 裁判官ハ不羈獨立ノ判斷ニ依リ判決ヲ爲スモノニシテ他ノ裁判所ノ判決例等ニ拘束セラルルコトナキヲ原則トス故ニ判決例ノ法律上ノ效力ハ原則トシテ之無キモノトス唯例外トシテ大審院ニ於テ上告ヲ理由アリトシ原判決ヲ破毀シ下級裁判所ニ事件ヲ差戻又ハ移送シタルカ如キ場合ニハ下級裁判所ハ其事件ニ付大審院ノ判決ト矛盾スル判決ヲ爲スコトヲ得ス(裁權法四八條)

一〇 檢事局ノ組織ヲ述ヘヨ

一 檢事局ノ意義 檢事局トハ檢事ノ事務所ニシテ各裁判所毎ニ附置セラルルモノナリ。  
二 檢事ノ地位 檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ提起實行シ刑ノ執行ヲ掌リ民事ニ付テモ公益ニ關係アル事件ニ立會ヒ其他公益ノ代表者トシテ種々ノ監督事務ヲ行フ單獨制ノ行政官廳ナリ但其職務ヲ行フニハ常に上官ノ指揮命令ニ從フ檢事ノ最上長官ハ司法大臣ナリ其下ニ大審院

ノ檢事總長控訴院ノ檢事長、地方裁判所ノ檢事正アリテ各其部下ノ檢事ヲ指揮監督ス之ヲ檢事同一體ノ原則トイフ。

三 檢事ト裁判所トノ關係 檢事ハ行政官ニシテ裁判所ノ職員ニ非ス裁判所ニ對シテハ獨立シテ其職分ヲ行フト同時ニ絕對ニ判事ノ裁判事務ニ干涉スルコトヲ得ス判事ト檢事トハ嚴然タル區別存シ互ニ相侵スコトヲ得ス。

一 區裁判所檢事ノ事務ヲ取扱フコトヲ得ル官吏アリヤ

一 檢事事務取扱 其他ノ警察官、憲兵將校下士又ハ林務官ハ區裁判所檢事ノ事務ヲ取扱フコトヲ得。

二 檢事代理 司法大臣ハ適當ナル場合ニハ區裁判所判事、司法官候補又ハ郡市町村長ニ檢事ノ代理ヲ命シ檢事ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得。

二 司法權ノ獨立トハ何ソ

一 司法權獨立ノ意義 司法權ノ獨立トハ判事カ民事刑事ノ裁判ヲ爲スニハ裁判所構成法、訴訟法等ノ法律ノ定ムル所ニノミ從ヒ其適當ナル裁量ヲ以テスルモノニ

シテ大臣、上官其他何人ヨリモ指揮命令ヲ受クルコト無キヲ謂フ是レ裁判ヲシテ公正ナラシメ其威信ヲ保持セシムル所以ナリ。

二 判事ノ地位ノ保障 右ノ如クナルヲ以テ判事ハ憲法上及法律上其地位ヲ保障セラルル即チ

(一) 判事ハ終身官ニシテ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ依ルノ外其職ヲ免セラルルコト無シ其懲戒ノ條規ハ法律(判事懲戒法)ノ定ムル所ニ依ル

(二) 判事ハ其意ニ反シテ轉官、轉所、停職又ハ減俸セラルルコト無シ但多少ノ例外アリ(裁權法七三條乃至七五條參照)

檢事モ亦右(一)ト同様ナル地位ノ保障ヲ受クルモ开ハ裁判所構成法ノミニ依ル保障ニシテ判事ノ如ク憲法上ノ保障ナキノミナラス(二)ノ如キ保障モ無シ。

一三 開廷ノ意義ヲ述ヘ其公開トノ區別ニ及フヘシ

一 開廷ノ意義 開廷トハ民事、刑事ノ訴訟ヲ審理裁判スル爲ニ法廷ヲ開クノ謂ニシテ判事、檢事、書記、廷丁出廷シ當事者又ハ其代理人、辯護人等出頭シテ之ヲ

爲ス開廷ノ場所ハ裁判所又ハ其支部内ノ法廷ナルヲ原則トスルモ司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要アリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其管轄區域内一定ノ場所ニ於テ爲スコトヲ命スルヲ得。

二 開廷ト公開 開廷ハ右述フルカ如ク單ニ法廷ヲ開キ訴訟手續ヲ始ムルノ意義ニシテ公開トハ法廷ノ出入ヲ自由ニシ公衆ヲシテ自由ニ傍聽スルコトヲ得セシムルヲ謂フ故ニ公開ヲ停止シタルトキト雖モ苟クモ閉廷セサル限りハ開廷中ニ屬ス。

一四 訴訟指揮及法廷警察トハ何ソ

一 訴訟指揮 トハ訴訟手續ヲ秩序良ク進行セシメ滯滞ナク終了セシムル爲適當ナル措置ヲ採ルヲ謂フ開廷、閉廷ヲ宣シ證據調ノ順序ヲ定メ辯護人ヲ選任スルカ如キ又ハ不必要又ハ有害ナル辯論發問ヲ禁止スルカ如シ訴訟ノ指揮權ハ裁判長ニ屬ス。

二 法廷警察 トハ法廷内ノ秩序ヲ維持シ外部ヨリノ妨害ヲ排斥スル作用ナリ例之婦女、兒童相當ナル衣服ヲ着セサル者、密問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者等ニ對シ退廷ヲ命スルカ如シ法廷警察權モ亦裁判長ニ

屬ス裁判長ノ法廷警察權ニ服スル者ハ法廷内ニ在ル一切ノ人ナリ檢事ト雖モ裁判長ノ此職權ニ服從セサルヘカラス。

一五 裁判ノ評議トハ何ソ

一 評議ノ意義 合議裁判所ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リテ數人ノ判事ノ意見ヲ綜合シテ裁判所ノ意思ト爲ササルヘカラス此爲メニスル判事ノ合議ヲ裁判ノ評議トイフ。  
二 評議ノ手續 評議ハ裁判長之ヲ開キ且整理ス其次第大略左ノ如シ。

- (一) 裁判ニ關與スル判事ハ回避事件ヲ除ク外必ス問題ニ付自己ノ意見ヲ述ヘサルヘカラス。
- (二) 意見ヲ陳述スヘキ順序ハ官等最低キ判事ヨリ始メ官等同等ナルトキハ年少者ヲ先ニシ裁判長ヲ最後トス。
- (三) 評議ハ秘密ニ之ヲ行フヘク當該判事ノ外特ニ傍聽ヲ許サレタル豫備判事司法官試補以外ノ者ハ何人ト雖モ評議席ニ立入ルコトヲ得ス。
- (四) 評議ハ總テ過半数ノ意見ニ依ル若シ各自ノ意見カ三説又ハ其以上ニ分レ何レモ過半数ニ達セサルト

キハ金額ニ付テハ過半数ニ達スル迄最多額ノ意見ヨリ順次算額ニ合算シテ之ヲ決シ刑事ニ在リテハ過半数ニ至ルマテ被告人ニトリテ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算シテ決ス例之一人ノ判事ハ懲役六年説一人ノ判事ハ懲役五年説一人ノ判事ハ懲役四年説ナルトキハ六年説ヲ五年説ニ合算シ五年説カ多數説トシ之ヲ以テ裁判ヲ言渡スカ如シ。

一六 裁判所ノ共助ノ意義及共助事項ヲ略説セヨ

- 一 共助ノ意義 廣ク共助トハ一ノ官廳カ他ノ官廳ノ囑託ニ應シテ特定ノ事項ヲ處理シ以テ他ノ官廳ノ作用ヲ援助スルヲ謂フ裁判所相互間ノ共助裁判所ト行政官廳トノ間ノ共助國際間ノ共助等種々アリ。
- 二 裁判所ノ共助 裁判所構成法ニ依ル共助ハ通常裁判所間ノ共助、書記課ノ共助、檢事局ノ共助ノ三アリ。
- (一) 裁判所相互間ノ共助 此共助ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外所要事務ヲ取扱フ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス。
- (二) 檢事局相互間ノ共助 各自ノ管轄區域内ニ於テ取扱フ事務ニ付互ニ共助ヲ爲ス。

(三) 書記課相互間ノ共助 其權限内ノ事務又ハ其配下ノ執達吏ノ權限内ノ事件ニ付互ニ共助ヲ爲ス。

一七 司法行政ノ機關及監督ニ付知ル所ヲ記セ

一 機關 司法行政ハ司法即裁判事務ニ關係アル行政事務ヲ謂フ廳舎ノ修理、會計、職員ノ任免、進退監督等種々アリ此事務ヲ掌ル最高機關ハ司法大臣ニシテ其下ニ大審院長、控訴院長、地方裁判所長、區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事、檢事總長、檢事長及檢事正アリ。

二 監督 司法行政ノ監督ハ左ノ順序ニ依ル。

- (一) 司法大臣 ハ全國ノ裁判所及檢事局ヲ監督ス。
- (二) 大審院長 大審院ノミテ監督ス。
- (三) 控訴院長 其控訴院及管内ノ下級裁判所ヲ監督ス。
- (四) 地方裁判所長 其裁判所及支部並ニ管轄内ノ區裁判所ヲ監督ス。
- (五) 區裁判所判事 其所屬ノ書記執達吏ヲ監督ス。

(六) 檢事總長 大審院檢事局及下級檢事局一切ヲ監督ス。

(七) 檢事長 其控訴院檢事局及其控訴院管内ノ下級檢事局ヲ監督ス。

(八) 檢事正 其地方裁判所檢事局及其地方裁判所管内ノ下級檢事局ヲ監督ス。

## 監獄法

### 一 監獄法トハ如何

廣ク監獄法ト云フトキハ刑務所ニ關スル法規ノ總體ヲ云フ(廣)即チ監獄法ハ勿論監獄法施行規則及行刑事務ニ關スル一切ノ法規ヲ包括ス行刑事務ニ關シテハ例之司法省官制、監獄官制、作業章程、假出獄取締細則、假出獄少年取締細則、刑務賞與規則等ノ法規ヲモ含ム狹義ニ監獄法ト云フトキハ明治四十一年法律第二十八號ニ依リ發布セラレタル現行ノ監獄法ノミヲ指稱ス、以下監獄法ト云フトキハ狹義ノ監獄法ヲ云フ

### 二 刑務所トハ如何

刑務所ハ最近監獄ノ名稱ヲ改正セラレタルモノナルモ其根本タル法ハ未タ名稱改正セラレスシテ従前ノ如ク監獄法ト云フ多少奇異ノ觀アリ、刑務所ハ國家ノ強制力ヲ以テ受刑者及ヒ刑事被告人ヲ拘禁スル公務所ヲ云フ、受刑者トハ自由刑ノ言渡確定シタル懲役囚禁鋼囚拘留囚ヲ云フ、刑事被告人ノ拘禁ハ犯罪捜査ノ必要ニ依リ刑事被告人ヲ一定ノ場所ニ繫留シ其ノ自由行動ヲ禁止スルニ

在リ

### 三 刑務所ハ何ノ爲メニ設置スルヤ

刑務所ハ懲役禁錮拘留ノ受刑者ニ對シ刑罰執行ノ爲メ其期間中自由ヲ拘束シ犯人ヲシテ改過遷善セシメ世人ヲシテ心ヲ戒シムルニ在リ、又刑事被告人ヲ拘留スルハ被告人ノ逃亡ヲ防遏シ證據ノ湮滅ヲ防止スル爲メナリ

### 四 刑務所(即チ監獄)ノ種類ヲ問フ

監獄ノ名稱ハ刑務所ト改メラレタルモ監獄法ノ名未タ存續スルニ付以下刑務所ヲ同法ニ基キ監獄ト稱スルコトアルヘシ、監獄ノ種類ニハ左ノ四種アリ

- 一 懲役監 懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
- 二 禁錮監 禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
- 三 拘留場 拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
- 四 拘置監 刑事被告人及死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ拘禁スル所ナリ

以上ノ外警察官署ニ附屬スル留置場ヲ右諸種ノ監獄ニ代用スルコトヲ得但懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ一ヶ月以上繼續シテ拘禁スルコトヲ得ス

### 五 刑務所ハ參觀ヲ許スヤ

刑務所ハ人ノ自由ヲ束縛シ罪惡ヲ懲ラシ世人ヲ戒ムル場所タルヲ以テ其性質上猥リニ公衆ノ參觀ヲ許可スヘキニ非サルモ學術ノ研究其ノ他正當ノ理由アリト認ムル場合ニ限り之ヲ許スコトヲ得併シ其許可ハ男子ニハ男監ニ限リ女子ニハ女監ニ限リ之ヲ許ス但司法大臣ノ特別許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス而シテ未成年者ハ絕對ニ之ヲ許サス外國人ノ參觀ハ司法大臣ノ許可ヲ要ス、典獄ハ參觀者ノ氏名身分職業年齢及參觀ノ目的ヲ調査シテ許可ヲ與ヘ、參觀前參觀心得事項ヲ告知スルモノトス

六 新入監アリタルトキノ措置如何

今新ニ入監セントスル犯人アリタルトキハ先ツ令狀又ハ判決書及檢事ノ發スル所ノ執行ヲ指揮スル命令書其他成規ノ書類ヲ充分ニ調査閱覽シ入監ノ要件ヲ具備スルトキハ制規ノ領收書ヲ護送者ニ交付シ、囚人ノ身體及衣類ノ檢査ヲ爲シ監獄醫ハ其ノ健康ヲ診査シ次ニ番號ヲ付シ其番號票ヲ上衣ノ襟又ハ胸部ニ附着セシム

七 在監者ノ拘禁ハ如何ニ區別スルヤ

(一)二月以上ノ懲役ニ處セラレタル十八歳未満ノ者ハ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ拘禁ス (二)前記ノ規定ニ依ル

者ハ滿二十歳ニ至ルマテ之ヲ拘禁ス但滿二十歳ニ至リタル後三箇月内ニ刑期終了スヘキ者ハ其殘刑期間ニ付テ亦同シ(三)心身發育ノ狀況ニ因リ必要ト認ムル者ハ年齢ニ拘ハラズ分界ヲ設ケタル場所ニ拘禁スルコトヲ得 (四)男監及女監ハ同一區劃内ニ在ルモ分界ス

八 新ニ入監スル婦女ハ其子ヲ携帶スルコトヲ得ルヤ

入監者ニ乳兒ノ携帶ヲ許スハ眞摯ナル規則ノ勵行ニ種々ノ障害アルモ滿一歳以下ノ子女ハ概ネ母乳ニ因リ生命ヲ保持スルモノナレハ必要ニ依リ携帶ヲ許スコトヲ得又婦囚ニシテ獄内ニ於テ分娩シタル子亦滿一歳ニ至ルマテ在獄スルコトヲ許スコトアリ

九 囚人中獨居拘禁ニ付セララルル者ヲ擧ケヨ

(一) 刑事被告人ハ成ルヘク獨居拘禁ニ付スヘシ (二) 受刑者ハ特ニ規定アル場合ノ外左ノ順序ニ從ヒ拘禁ス

(イ) 刑期二月未満ノ者 (ロ) 二十五歳未満ノ者 (ハ) 初犯者 (ニ) 入監後二ヶ月ヲ經過セサル者 (ホ) 其他餘罪又ハ刑期限内ノ犯罪ニ因リ審問中ニ在ル受刑者モ成ルヘ

ク獨居拘禁ニ付ス (ヘ) 猶獨居監房ニ殘餘アルトキハ一般受刑者ニテモ獨居監房ニ付スルコトヲ得

一〇 夜間ノミ獨居監房ニ拘禁スヘキ囚人ハ如何

(一) 受刑者ニシテ獨居監房ニ付スヘキ者(第九問答参照)ニシテ監房不足ノ爲メ獨居拘禁ニ付スルコト能ハサル者

(二) 前號ニ該當セサル受刑者ニテモ監房ニ殘餘アルト

キ

(三) 獨居拘禁ノ期間滿了後必要アリト認ムル者

(四) 在監者ニシテ戒護ノ爲メ離隔ノ必要アル者

以上ノ者作業ニ就カサルトキハ晝間ト雖モ仍ホ在房セシムヘキモノトス

一一 雜居監房ニ付テノ諸規定ヲ述ヘヨ

(一) 雜居監房ニハ三人以上ヲ拘禁ス但療養其ノ他已ムコトヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(二) 雜居監房、工場教場及教誨堂ニ於テハ在監者ノ席次ヲ定メ交談ヲ禁止ス

(三) 雜居監房ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ工場ニ代用スルコトヲ得ス

(四) 雜居監房ニハ其容積、定員及現在人員ヲ記載シタル小札ヲ掲クヘシ

一二 戒具ノ種類及其ノ使用スヘキ場合ヲ問フ

戒具ノ種類ハ別チテ五トス (一) 窄衣 (二) 鈇 (三) 手錠 (四) 聯鎖 (五) 捕繩 以上ハ典獄ノ命アルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得サルモノトス其使用場合ハ

(一) 窄衣 危險ナル暴行ヲ爲ス懲役囚ニ限り使用スルコトヲ得六時間以上繼續シテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

(二) 鈇 ハ逃走又ハ暴行ノ虞アル懲役囚ニ限り使用スルモノニシテ兩脚施鈇ハ六月以上、一脚施鈇ハ一年以上繼續使用スルコトヲ得ス尙此ノ二種ノ戒具ハ護送中ノ者ニ施スコトヲ得ス

(三) 手錠及捕繩 ハ暴行逃走若クハ自殺ノ虞アル在監者又ハ護送中ノ在監者ニ限り使用ス

(四) 聯鎖 ハ監外ノ作業ニ就ク懲役者ニシテ必要アリト認ムル者ニ對シ之ヲ使用ス

一三 監獄官吏ノ携帶スル劍又ハ銃ヲ使用スル場合ヲ説明スヘシ

(一) 在監者他人ニ對シ危險ナル暴行ヲ爲シ又ハ爲スヘ

キ脅迫ヲ加フルトキ

(二) 在監者カ危険ナル暴行ノ用ニ供シ得ヘキ物ヲ所持

シ又ハ其ノ放棄ヲ肯セサルトキ

(三) 在監者カ逃走ノ目的ヲ以テ多衆騷擾スルトキ

(四) 逃走ヲ企テタル在監者カ暴行ヲ爲シテ捕拿ヲ免カ

レントシ又ハ制止ニ從ハスシテ逃走セントスルトキ

一四 在監者懲罰處分ノ種類如何

在監者ノ懲罰方法ニハ左ノ十二種アリ(一)叱責(二)賞

遇ノ三月以内ノ停止(三)賞遇ノ廢止(四)文書圖畫閱讀ノ

三月以内ノ禁止(五)請願作業十日以内ノ停止(六)自辨ニ

係ル衣類臥具着用ノ十五日以内ノ停止(七)糧食自辨ノ十

五日以内ノ停止(八)運動ノ五日以内ノ停止(九)作業賞與

金計算高ノ一部又ハ全部減削(十)七日以内ノ減食(十一)

二ヶ月以内ノ輕屏禁(十二)七日以内ノ重屏禁以上各號ノ

懲罰ハ之ヲ併科スルコトヲ得、屏禁ハ受罰者ヲ罰室内ニ

晝夜屏居セシメ情狀ニ因リ就業セシメサルコトアリ重屏

禁ニ在リテハ仍ホ罰室ヲ暗クシ臥具ヲ禁ス

一五 天災事變ニ際シ在監者ヲ如何ニ處置スルヤ

天災事變ニ際シテハ在監者ヲシテ應急ノ用務ニ就カシム

(刑期一年以上ノ懲役囚ニシテ刑期ノ半ヲ經過シタル者ノ中ヨリ

傑メ典獄ノ指定シタル者)斯ク盡力スルモ避難ノ手段ナシト

認ムルトキハ在監者ヲ他所ニ護送ス然スルモ護送ノ途ナ

キトキハ一時之ヲ解放スルモノトス尤モ此ノ場合ニハ出

頭スヘキ期間ト場所トヲ告知ス、故ニ解放セラレタル者

ハ監獄又ハ警察官署ニ出頭スヘキモノナルニ解放後二十

四時間内ニ出頭セサルトキハ囚人逃走ノ罪ニ依テ處斷ス

一六 刑事被告人ト既決囚トノ給與上ノ差異

如何

刑事被告人及勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ノ衣類臥具

ハ自辨トシ其ノ自辨スルコト能ハサル者ハ官ヨリ之ヲ貸

與シ且刑事被告人ニハ糧食ヲ自辨ニテ差入ルコトヲ許ス

モ受刑者ノ衣類臥具ハ官給トシ着用セシメ(但拘留囚ニハ

白衣ノ着用ヲ免ス)時ニハ襯衣ノミノ自辨ヲ許スコトアリ

一七 就役ヲ免スル日ト場合トヲ説ケ

在監者ニハ大祭祝日、一月一日及十二月三十一日ニ

ハ就業ヲ免シ又父母ノ訃ニ接シタル者モ三日間就業ヲ免

シ猶司法大臣必要ト認ムルトキハ臨時就業ヲ免スルコト

アリ但炊事洒掃看護其他監獄ノ經理ニ關シ必要ナル作業

一八 在監者ニ手當金ヲ給與スル場合ヲ説明

セヨ

在監者就業ニ因リ創傷ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲メニ

死亡シ又ハ業務ヲ營ミ難キニ至リタルトキハ情狀ニ因リ

手當金ヲ給スルコトヲ得トセリ、而シテ此ノ手當金ハ釋

放ノ際本人ニ之ヲ給シ死亡ノ場合ニハ父母配偶者又ハ子

ニ給スルモノトス

一九 在監者ニ賞金ヲ給スル場合ヲ列擧セヨ

左ノ各號ノ場合ニハ五十錢以下ノ賞金ヲ給與セラレ

(一) 在監者ノ逃走セントスルヲ密告シタルトキ

(二) 人命ヲ救護シ又ハ在監者ノ逃走セントシタル者ヲ

捕拿シタルトキ

(三) 天災事變又ハ傳染病流行ノ際監獄ノ用務ニ服シ功

勞アリタルトキ

二〇 在監者ニ作業ヲ課スル標準ヲ問フ

作業ハ衛生經濟及在監者ノ刑期健康技能職業將來ノ生計  
等ヲ斟酌シテ之ヲ課ス但在監者ニシテ十八歳ニ滿タサル  
トキハ如上ノ外特ニ教育ニ關スル事項ヲ斟酌スルモノト

ス是レ全ク在監者ノ苦痛ヲ減シ且收益ヲ計リ又出監後ニ

於テ正業ニ就キ得ル利便ヲ與ヘンカ爲メニ外ナラス十八

歳未滿ノ少青年ニ對シテハ更ニ教養ヲ爲シ以テ在監ノ爲

メニ品性修養ノ後ルルヲ補ハントスル精神ニ出ツ

二一 作業賞與金ノ計算方ヲ説明セヨ

作業賞與金ノ計算高ハ各就業者ノ成績ヲ普通ノ傭工錢ニ

見積リ行狀犯數及作業科程ノ良否ヲ斟酌シ左ノ割合ヲ以

テ之ヲ定ム

(一) 刑事被告人拘留囚及禁錮囚ハ見積額ノ十分ノ四乃

至十分ノ七

(二) 懲役囚ハ見積額ノ十分ノ一乃至十分ノ四

(三) 炊事洒掃看護其他監獄ノ經理ニ關シ必要ナル作業

ニ就キタル者ニハ就業ノ當日ニ限り以上ノ割合ノ外見

積額ノ十分ノ三以内ヲ増加スルコトヲ得

此賞與金ハ勤勉ノ良風ヲ馴致シ釋放後生活資料ノ一助ニ

供セシムル爲メノ恩惠的給與ナリトス

二二 作業賞與金ノ計算ヲ爲ササル在監者ヲ

擧ケヨ

(一) 累犯ノ懲役囚ニシテ入監後三月ヲ經過セサル者

(二) 監獄内ノ懲罰ニテ自辨ニ係ル衣類臥具着用ノ十五日以内ノ停止、糧食自辨ノ十五日以内ノ停止、運動五日以内ノ停止、七日以内ノ減食、二月以内ノ輕屏禁、七日以内ノ重屏禁ニ處セラレ其執行中ニ在ル者 (三) 就業三十日ニ滿タサル者 (四) 釋放ノ月ニ於ケル就業日ノ全部ヲ通シ就業セサル者

**二三 監外ノ作業ニ就カシムルヲ得サル在監者ノ種類ヲ問フ**

(一) 刑事被告人 (二) 刑期六月ニ滿タサル者 (三) 受刑後三月ヲ經過セサル者但既決囚ニ對シテハ司法大臣ノ認可ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラス又十八歳未滿ノ受刑者ヲ構外ノ農業ニ就カシムルハ別ニ其認可ヲ要セサルナリ

**二四 在監者ニ許サル接見ニ就テ記セ**

接見ハ監獄ノ執務時間内三十分以内トス但辯護人トノ接見ハ此ノ限ニ在ラス而シテ其ノ度數ハ刑事被告人ニハ制限ナク拘留囚ニ付テハ十日毎ニ一回禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ一回懲役囚ニ付テハ二月毎ニ一回トス但典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ以上ノ制限ニ依ラサルコトヲ得、賞遇囚ニハ接見度數ヲ各一回ツツ増

加セラルルコトアリ接見者ハ配偶者六親等内ノ血族三親等内ノ姻族及辯護人トス

**二五 在監者ハ信書ノ發受ヲ爲シ得ラルルヤ**

在監者ニ對シ信書ノ發受ヲ自由ニ爲サシムルハ入監本來ノ目的ニ背馳スルカ故ニ受刑者ハ發受共ニ刑務所長ノ檢閱ヲ受ケ刑事被告人ハ刑務所長ノ外裁判所又ハ檢事ノ檢閱ヲ經テ授受ス發受ノ度數ハ拘留囚ハ十日毎ニ各一通、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ各一通、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ各一通ヲ超ユルコトヲ得サレトモ典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認メ又ハ賞遇囚ニハ其度數ヲ増加セラルルコトアリ刑事被告人ハ支障ナキ限り相手方ヲ問ハス之ヲ許サル

**二六 刑事被告人及受刑者ニ差入レ得ヘキ物**

品ヲ舉ケヨ

受刑者ニハ自辨ヲ許シタル物ノ外法令其他典獄ニ於テ有益ト認ムル文書、筆墨紙、郵便切手、郵便ハカキ、金錢及司法大臣ニ於テ許可シタル物ヲ差入ルルヲ得刑事被告人ニハ以上受刑者ニ許シタル物ノ外衣類、臥具、飲食物、手巾及履物ノ差入ヲ許セリ

**二七 在監者ニ宛テ送致ノ物品ヲ没入又ハ廢棄シ得ヘキ場合ヲ問フ**

(一) 在監者ニ宛テ送致シ來リタル物品ノ差出人ノ氏名若クハ居所ノ不明ナルトキ (二) 其差入ヲ許スヘカラスト認メタル物品ナルトキ (三) 在監者ニ於テ受領ヲ拒ミタル場合ハ之ヲ没入又ハ廢棄ス (四) (三)ノ場合差出人出頭シタルトキハ之ヲ還付スルモ可ナリ

**二八 在監者賞遇ノ場合及方法ヲ問フ**

在監者ニシテ改過遷善ノ狀顯著ナル者ニ對シテハ賞遇ス、賞遇者ハ長二寸幅一寸ノ白色巾ヲ用ヒ上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫着ス、賞表ハ加ヘテ三個ヲ超ユルコトヲ得ス、賞遇ノ種類左ノ如シ

- (一) 接見ノ度數及信書發受ノ度數ヲ一回ツツ増加スルコト
- (二) 襯衣ノ自辨ヲ許スコト
- (三) 作業ノ變更ヲ許スコト
- (四) 作業賞與金計算高ノ割合ヲ賞表一箇毎二十分ノ一ツツ増加スルコト
- (五) 賞表一個ヲ有スル者ニハ一週間ニ付キ一回、同一個ヲ有スル者ハ一回、同三個ヲ有スル者ハ三回、菜ヲ増給スルコト但其代價ヲ一回三錢以下トス

**二九 在監者逃走シタルトキノ措置ヲ問フ**

法 律

**三〇 在監者ノ教育ニ關スル規定ヲ述ヘヨ**

- (一) 十八歳未滿ノ受刑者ニ對シテハ強制的ニ教育ヲ施シ其他ノ受刑者ハ特ニ必要アリト認ムル場合ニ限り教育ヲ施スモノトス
- (二) 教育ハ毎日四時間以内小學校程度ニ依リ修身算術習字其他必要ト認ムル學科ヲ教授ス
- (三) 小學校程ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力アル者ニハ毎日二時間以内相當ノ補習學科ヲ教授ス
- (四) 當今一般受刑者ニ對シ「人」ナル雜誌ヲ講讀セシム

**三一 文書圖畫ノ閱讀ニ係ル規定ヲ問フ**

(一) 文書圖書ノ閱讀ヲ請フトキハ之ヲ許スモノトス  
 (二) 文書圖書ノ閱讀ハ監獄ノ紀律ニ害ナキモノニ限り  
 之ヲ許シ新聞紙及時事ノ論說ヲ記載スルモノハ閱讀ヲ  
 許ササルモノトス

(三) 雜居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ同時ニ三箇以  
 上ノ文書圖書ヲ閱讀セシムルコトヲ得ス但字書ハ必要  
 ニ因リ其冊數ヲ増加スルヲ得ルモノトス

三二 教誨ノ目的及種類ヲ問フ

教誨ハ受刑者ノ徳性ヲ涵養スルコトヲ目的トスル作用ニ  
 シテ受刑者ヲ改過遷善セシムル方法中重要部ヲ占ム、教  
 誨ハ受刑者ニハ強制的ニ課シ刑事被告人ニハ任意トス、  
 教誨ハ休業日又ハ日曜日ニ之ヲ爲スヲ通常トス、刑務所  
 長ハ必要アリト認ムル場合ニ於テ此ノ日以外ノ日ニ教誨  
 ヲ爲ス、教誨ハ一般教誨ト個人教誨トアリ後者ハ病舎、  
 獨居囚ニ對シテ行フ、父母ノ訃ニハ哀悼教誨ヲナシ、其  
 他式典教誨、棺前教誨アリ

三三 在監者ノ衛生ニ付テ概略ヲ記セ

刑務所構内及其ノ他工作物ノ清潔ハ勿論衣類臥具雜具ハ  
 時々蒸氣消毒洗濯日光消毒等ニ依リ清潔ナラシメ入浴ハ

季節ニ依リ五日又ハ七日ニ一回トシ理髮ハ刑事被告人ハ  
 衛生上必要ナキ限りハ本人ノ任意トシ受刑者ハ強制的ニ  
 之ヲ行フ、運動ハ作業ノ種類ニ因リ必要ナシト認ムルモ  
 ノノ外毎日三十分(獨居囚ハ一)以内戶外運動ヲナス但雨  
 天ハ此ノ限ニ在ラス

三四 在監者情願ヲ爲ストキ其取扱方如何

在監者ニシテ監獄ノ處置ニ對シ不服アルトキハ命令ノ定  
 ムル所ニ依リテ司法大臣又ハ巡閱官吏ニ情願ヲ爲スコト  
 ヲ得ルモノトス司法大臣ハ差出ス情願書ハ本人ヲシテ封  
 緘セシメ刑務官吏之ヲ披閱スルコトヲ得ス若シ之ヲ差出サ  
 ハ典獄ハ速ニ之ヲ司法大臣ニ進達スルモノトス又巡閱官  
 吏ニ情願ヲ爲スニハ書面又ハ口頭ヲ以テスルモノナレハ  
 之ヲ聽クトキハ必要アル場合ヲ除クノ外ハ刑務官吏ヲシ  
 テ立會ハシメス、巡閱官吏ニ於テ其情願ヲ審査シタルト  
 キハ自ラ裁決ヲ爲シ又ハ司法大臣ノ裁決ヲ乞フコトヲ得  
 ルモノトス、而シテ此ノ情願ニ對スル裁決ハ典獄ヨリ速  
 ニ本人ニ告知スヘキモノトス

三五 在監者ノ釋放規定ノ概要ヲ述ヘヨ

在監者ノ釋放トハ收容者ノ拘禁ヲ解除スルヲ云ヒ其原因

左ノ如シ(一)恩赦 即チ大赦特赦減刑ノ場合ナリ (二)

職權アル者ノ命令 即チ檢事ノ出獄指揮書及假釋放假出  
 場ノ許可ノ如キ是ナリ (三)刑ノ終了ナリトス 釋放ノ  
 日時ハ恩赦、假釋放及假出場ヲ許可セラレタル者ハ其裁  
 可狀又ハ許可書ノ刑務所ニ達シタル後二十四時間内、其  
 他ノ場合(職權アル者ノ命令ノ如キ)ハ命令書ノ達シタル  
 後十時間内刑期終了者ハ翌午後六時迄ニ於テ之ヲ釋放ス  
 ヘキモノトス

三六 假釋放者ノ遵守スヘキ事項ヲ記セ

假釋放即チ假出獄者ハ一定ノ條件ノ下ニ假ニ出獄ヲ許サ  
 レタルモノナルカ故ニ其間自由行動ニ付多少ノ制限ヲ受  
 ク即チ左ノ如シ  
 (一)正業ニ就キ善行ヲ保ツコト (二)警察署ノ監督若ク  
 ハ警察署ノ委任シタル監督者ノ監督ヲ受クルコト (三)  
 住居ヲ移轉シ又ハ十日以上旅行ヲ爲サントスルトキハ監  
 督者ノ許可ヲ受クルコト、以上ノ三條件ヲ遵守スヘキモ  
 ノトス

三七 死刑執行ノ方法ヲ述ヘヨ

死刑ノ執行ハ監獄内ノ刑場ニ於テ之ヲ爲ス然レトモ大祭

祝日、一月一日、二日及十二月三十一日ニハ之ヲ執行セ

ス而シテ死刑ヲ執行スルニハ司法大臣ヨリ執行指揮ノ命  
 令アリタル日ヨリ五日以内ニ絞首ノ後死相ヲ檢シ仍ホ五  
 分時ヲ經ルニ非サレハ絞綱ヲ解クコトヲ得サルモノトス

三八 在監者死亡シタルトキノ處置如何

在監者死亡シタルトキハ典獄ハ其ノ死體ヲ檢視シ病死ノ  
 場合ニ於テ監獄醫其ノ病名、病歴、死因及死亡ノ年月日  
 時ヲ死亡帳ニ記載シ之ニ署名スヘキモノトス、自殺其ノ  
 他變死ノ場合ニハ其ノ旨警察官署ニ通報シテ其ノ檢視ヲ  
 受ケ檢視者及立會者ノ官氏名竝ニ檢視ノ結果ヲ死亡帳ニ  
 記載スヘキモノトス、死亡者ノ親族ニ亦之ヲ通報シ、刑  
 事被告人ナルトキハ仍ホ檢事ニ通報スヘキモノトス

三九 受刑者死體ノ解剖及埋葬方ヲ問フ

受刑者ノ死體ハ死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナ  
 キ場合ニ限り解剖ノ爲メ官公立ノ病院學校又ハ其ノ他ノ  
 公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得ルモノトス但本人ノ生前  
 ノ意思ニ反スルコトヲ得ス、死體又ハ遺骨ハ假葬後二年  
 ヲ經ルニ非サレハ之ヲ合葬スルコトヲ得ス、死亡者ノ親  
 族、故舊ノ者カ死體又ハ遺骨ヲ請フコトアルトキハ合葬

前ハ何時ニテモ交付スルコトヲ得ルモノトス

四〇 刑務所ニ於テ用語上注意スヘキ點ヲ述

ヘヨ

行刑ニ付テハ監獄法ノ名嚴存スルモ時代思想ノ趨向ハ世人及囚人カ監獄ナル名ヲ嫌忌シ、惡感ヲ抱クノ傾向アルニ付行刑政策上監獄ナル名稱ヲ刑務所ト改メ既決囚ヲ受刑者トシ假出獄ヲ假釋放ト改メシ等刑務所内ニ於テハ成ルヘク獄又ハ囚ノ言葉ノ使用ヲ避ケシム、其ノ他監ノ言葉モ最少限度ニ於テ使用スルノ注意ヲ要ス

附 録

巡查看守志願書式

巡查看守志願者ハ試験當日ニ左ノ書式ニ依リ志願書ニ履歴書ヲ添ヘ、試験官ニ差出スヘシ。左記書式ハ警視廳ノ雛形ナルモ各府縣共大同小異ニ付之レテ應用シ得ルモノテアル。

巡査志願書（用紙ハ半紙又ハ普通罫紙）

私儀警視廳巡査（何府縣巡査）志願ニ付御試験被成下度別紙履歴書相添ヘ此段御願候也

年 月 日 本籍 静岡県賀茂郡白濱村板戸四十三番地

寄留 岐阜市末廣町十一番地

現住(居)所 同前

平民 無職

勳七等功七級 成田 吉

明治三十四年二月二十日生

警視總監(府縣知事)氏名殿

履 歴 書 (用紙半紙又ハ普通罫紙)

出生地及居住地(一ヶ月以上居住ノ場所ハ波レナク記載ノコト)

附 録

一 出生地 何々

一 自年月日 何所ニ居住ス

一 自年月日 何所ニ居住ス(現住(居)地)

一 證 書 (本欄ニハ中學又ハ之ト同等以上ノ卒業證書ノ記載スヘキモノトス)

一 年月日 官(公、私)立學校卒業證書(第何學年修業證書)ヲ受ク

一 年月日 下士(士官)適任證書ヲ受ク

一 年月日 何所ニ於テ施行ノ何試験ニ應シ合格證書ヲ受ク

一 年月日 何處(府、縣)ニ於テ巡査精勤證書ヲ受ク

學

一 自年月日 何所官(公、私)立何學ニ在學

一 自年月日 何所何某ニ就キ何學ヲ學フ

一 自年月日 何所何某ニ就キ劍術(柔道)ノ指南ヲ受ケ免狀ヲ授與セラル

業

一 自年月日 何所何某ニ雇ハレ何業ニ従事ス

一 年月日 何處(府縣)巡査拜命、受業生(教習生)ヲ命セラレ月俸何圓(何級俸)給與セラル



附 録

- 一年月日 練習生(受業生)課程卒業、月俸何圓給與何所勤務ヲ命セラル
  - 一年月日 月俸何圓(何級俸)給與セラル
  - 一年月日 何署勤務ヲ命セラル
  - 一年月日 巡查部長ヲ命セラル
  - 一年月日 (依願)巡查ヲ免セラル
  - 自年月日 何所ニ於テ何業ニ従事ス
  - 至年月日
- 兵 役
- 一年月日 徴兵トシテ何々隊ニ入營
  - 一年月日 上等兵ヲ命セラル(伍長、軍曹、何々ニ任セラル)
  - 一年月日 現役満期(歸休ヲ命セラル)
- 賞 罰
- 一年月日 何々ニ依リ何賞ヲ受ク
  - 一年月日 何々ニ依リ何罰ヲ受ク
- 右ノ通ニ候也

看守志願書 (用紙) (半紙)

志願人 氏 名

本籍 岐阜縣實茂郡田原村東田原六百十一番地  
 住所 岐阜市若松町三十五番地平民戶主  
 間宮 藤一  
 明治二十年十月四日生

私儀看守志願ニ付御試験被成下度別紙履歷書相添へ此段相願候也  
 大正十四年六月一日  
 間宮 藤一  
 岐阜刑務所長

典獄 三田村武夫殿  
 履 歷 書 (用紙) (半紙)  
 住所 東京市神田區錦町一丁目十二番地  
 戶主 士族 佐吉次男  
 奈利多美那喜智  
 明治十四年二月二十日生

學 業

- 一年月日 何縣何郡何町何々高等小學校卒業(何學年修業)
- 一年月日 愛知縣小學校正教員免許證ヲ受ク(第何號)
- 一年月日 長野縣施行普通文官試驗合格(第何號)
- 自何年何月 何所何某ニ付皇典漢學及劍道ヲ修ム(劍道一級免)至何年何月 (狀ヲ有ス)

一 年月日 私立明治大學法學部全科卒業

職 業

- 自何年何月 愛知縣知立郵便局通信員勤務 月俸何圓
- 至何年何月 靜岡縣巡查拜命教習生ヲ命セラル 月俸何圓
- 一年月日 教習科課程卒業何圓給與何署勤務ヲ命セラル
- 一年月日 巡查部長ヲ命セラル
- 一年月日 月俸何圓(何級俸)給與セラル
- 一年月日 (依願)巡查ヲ免セラル

兵 役

- 一年月日 徴兵トシテ步兵第何聯隊ニ入營
- 一年月日 上等兵ヲ命セラル(伍長、軍曹、何々ニ任セラル)
- 一年月日 現役満期

賞 罰

- 一年月日 何々ニ依リ何賞ヲ受ク
  - 一年月日 何々ニ依リ何罰ヲ受ク
- 右ノ通ニ候也

志願人 奈利多美那喜智

志願書履歷書ノ書式ハ各刑務所共ニ大同小異ナルカラ前記ノ書式ニ依リ提出シ、試験合格ノ上看守拜命後其刑務所ニ於ケル書式ニ

附 録

基キ改書セハ充分テアル

附 受 驗 心 得

- 一、試験當日ハ午前八時(秋冬季)迄ニ受驗場ニ出頭スヘシ
- 二、着服ハ適宜ナルモ和服ノ際ハ必ず袴ヲ着用スヘシ
- 三、受驗者ハ志願書ヲ前以テ提出シタル者ハ出頭ノ際名刺ヲ差出スヘシ但受驗當日ニ志願書ヲ携帯提出スルモ支障ナシ
- 四、受驗者ハ當日筆墨(萬年筆ヲ用アルモ可)紙及算盤ノ類ヲ携帯スヘシ

看守教習所生活

看守教習期間ハ滿二ヶ月以上ナルモ此ノ間月俸三十圓内外ヲ給セラレ膳料月拾五圓程ヲ要シ外ニ長短靴(刑務所製造ノ物ハ便宜シ)襦袢、袴下、靴下、手袋等ヲ購ヒ又若干ノ教科書及參考書ヲ買フノ要アルニ付剩餘金乏シキヲ通常トス又二ヶ月ノ講習ハ學科並ニ實修ヲ併セ教へ、教習生中學術ノ素養アル者ニハ此ノ期間ヲ短縮シ或ハ教習科目ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトアリ

臺灣總督府巡查看守志願手續

一、資 格

- 一、練習生志願者ハ左ノ各項ニ適合スルヲ要ス
- (一)身元確實ニシテ品行方正ナル者
- (二)年齡滿二十歲以上(徴兵検査ノ未済又ハ検査ノ結果現役ニ召

集ノ見込アル者ニ除ク三十歳以下ノ者但シ前官前職ノ經歷アリテソノ經歷アル職ニ志願シ適當ト認ムル者ハ四十歳迄採用スル事アルヘシ

(三)身體健全ニシテ身長五尺一寸以上ノ者

(四)身元保證人一名ヲ有スル者

左ノ各職ニ抵觸スル者ハ採用セス

(一)罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者

(二)懲戒處分ニ依リ巡査看守又ハ官吏ヲ免職セラレ又ハ練習所ヨリ退所ヲ命セラレ滿ニケ年ヲ經過セサル者

(三)身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散者若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

(四)精神上調如アル者又ハ酒癖若ハ暴行ノ癖アル者

二、試験

筆記試験科目ハ讀方、作文筆跡、算術(四則應用)ニシテ之ニ合格シタル者ニハ更ニ試問ヲ行フ

試験ニ合格シタル者ハ後記様式ノ正式志願書ヲ提出スヘシ

三、採用

練習生ニ採用ノ通知ヲ受ケタル者ハ指定ノ日時場所ニ出頭シ募集官ノ指揮ニ從ヒ渡臺スヘシ、而シテ練習生ニハ試験地ヲ起點トシ出發ノ日ヨリ起算シ左表ニ依リ渡臺旅費ヲ支給ス

汽車汽船	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付	車馬一里ニ付
下級ノ實費	三、五〇〇	二、〇〇〇	〇、六〇〇

右ノ外仕度料トシテ左ノ金額ヲ給ス

門司ヨリ乗船スル者 單身者 一五、〇〇〇

有家族者 二五、〇〇〇

神戸ヨリ乗船スル者 單身者 二〇、〇〇〇

有家族者 三〇、〇〇〇

四、給與

練習中ハ寄宿舎ニ起臥シ月手當三十五圓ヲ給シ其他食料及醫療料ヲ官給シ被服、屬具及寢具ヲ貸與シ短靴ソノ他小被服代トシテ毎月一圓ヲ給ス

練習所ヲ出テ巡査又ハ看守ニ就職スル時ノ俸給其ノ他ノ給與ハ左ノ如シ

(一)巡査ノ俸給及給與

區	別	月俸	加俸	被服費	旅費	月額	特別	計
甲種巡査	初任	40,000	10,000	11,000	5,000	66,000	6,000	72,000
	最高	50,000	10,000	11,000	5,000	76,000	6,000	82,000
乙種巡査	初任	30,000	10,000	11,000	5,000	56,000	6,000	62,000
	最高	40,000	10,000	11,000	5,000	66,000	6,000	72,000

右ノ外

巡査ニシテ十五歳以下ノ子女ヲ有スル者ニハ其子女一人毎二月額一圓ヲ支給ス

蕃地又ハ僻地勤務者ニシテ十五歳以下ノ就學子女ヲ有スル者ニハ其子女一人毎二月額三圓ヲ支給ス以上ノ外通譯手當特務手當武道手當等アリ

(二)看守ノ俸給及給與

區	別	月俸	加俸	被服費	夜勤料	計
初任	最高	30,000	10,000	11,000	6,000	57,000
	最低	20,000	10,000	11,000	6,000	47,000

右ノ外

通譯手當、家族手當、療治料、給助料、一時恩給扶助料、弔祭料等ノ支給ニ付テハ平地勤務巡査ト同様ニシテ尙寄宿舎又ハ宿舍料十二圓乃至十五圓ヲ支給ス

(三)前記ノ外特別給與左ノ如シ

療治料、給助料、一時恩給、普通恩給、扶助料、一時扶助料、弔祭料概要

(イ)療治料及給助料

職務ノ爲メ傷喪ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ治療ヲ要スルモノト認ムルトキハ一日二圓以内ノ療治料ヲ給ス但一日平均二圓ヲ超過シ

タルトキハ適當ト認ムヘキ實費ヲ追給ス

治療二十日以上ニ涉リ引續キ在職シ治療ヲ要セサルニ至リタルトキハ當時ノ月俸一箇月分傷喪疾病ニ因リ職ニ堪ヘス退職シタルトキハ當時ノ月俸三箇月分ノ給助料ヲ給ス

(ロ)一時恩給

勤続一年以上ニシテ普通恩給ノ年限ニ達セス退職シタル者ニハ一時恩給ヲ給ス

一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ月俸額ニ在職年數ヲ乘シタル額トス

(ハ)普通恩給

勤続十年(但シ臺灣ニ於テハ加算アルニ付實際ハ四年乃至六年八箇月)以上又ハ公務ノ爲傷喪ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リテ不具癡疾ト爲リ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ月俸額ノ四月分以上トス

(ニ)増加恩給

職務ノ爲メ傷喪ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾トナリ退職シタルトキハ普通恩給ノ外増加恩給ヲ給ス増加恩給額ハ二四〇圓乃至九〇〇圓トス

(ホ)扶助料又ハ一時扶助料

左記各職ノ場合ハ扶助料ヲ給ス扶助料ノ額ハ普通恩給額ノ全額

附 錄

乃至半額一時扶助料額ハ一時恩給額ト同額トス

(1) 在職中死亡シ其死亡ヲ退職ト看做ストキ

(2) 恩給ヲ受ケ又ハ受ケヘクシテ死亡シタルトキ

(ハ) 弔祭料

在職中死亡シタルトキハ其家ニ在ル遺族ニ弔祭料ヲ給ス

弔祭料ハ死亡當時ノ月俸一箇月分トシ勤続一年以上九年ニ至ル

迄一年ヲ加フル毎ニ死亡當時ノ月俸額三分ノ二ヲ増給ス但職務

ノ爲メ傷損ヲ受ケ又疾病ニ罹リ因テ死亡シタル者ニハ更ニ死亡

當時ノ月俸六箇月分ヲ増給ス

平地勤務番地勤務ヲ問ハス一巡查ニ對シ職務上ノ死亡者ニハ百

三十四病死者ニハ百圓職務上疾病傷損ノ場合ニハ十圓乃至六十

圓ヲ臺灣警察協會ヨリ支給ス

(ト) 歸郷旅費

巡查、看守警約年限後退職シ三十日以内ニ臺灣ヲ出發歸郷スル

者ニハ旅費ヲ給ス奉職中死亡シタルトキハ歸郷旅費ニ相當スル

金額ヲ遺族ニ支給ス

(チ) 恩給年數ノ加算

恩給ノ算出ニ付臺灣ニ於テハ二箇年以上巡查又ハ看守ニ在職ス

ル者ハ一箇月ニ對シ半箇月ノ加算アリ故ニ六年八箇月ニシテ恩

給ヲ得

五、志願書式

志願書 (用紙美濃紙)

(何地第何號)

本籍、族稱

現住所、職業

勳位記氏

名

年月日生

私儀巡查(看守)練習生志願ニ付御試験ノ上御採用相成度別紙履歴書

誓約書戸籍謄本相添此段奉願候也

年月日

右

氏

名

臺灣總督府警察官及司獄官練習所長殿

(何地トハ試驗地名第何號トハ受驗番號)

履 歷 書 (用紙美濃紙)

出生地及居住地(注意、一ヶ月以上居住ノ場所ハ洩レナク記載ノ

事)

一 出生也 何縣何郡何村何番地

一 自出生當時 出生地ニ居住ス

一 自年月日 何縣何郡何町何番地何館内ニ居住ス

一 自年月日 出生地ニ居住ス

一 自年月日 歩兵何聯隊第何中隊ニ在隊

一 自年月日 出生地ニ居住ス

一 自年月日 何縣何郡何町何番地何某方

一 自年月日 證 書

一 年月日 (官、公、私立)何學校卒業證書ヲ受ケ

一 年月日 下士(士官)適任證書ヲ受ケ

一 年月日 何所ニ於テ施行ノ何試験ニ應シ合格證書ヲ受ケ

一 年月日 何縣(何縣)ニ於テ巡查精勤證書ヲ受ケ

一 年月日 何縣ニ於テ恩給年額何圓ヲ受ケ

一 自年月日 職 業

一 自年月日 何所何某ニ雇ハレ何業ニ従事ス

一 自年月日 何縣(何縣)巡查拜命受業生(教習生)ヲ命セラレ月俸

何圓給與

一 年月日 月俸何圓給與

一 年月日 何署勤務ヲ命セラル

一 年月日 巡查部長ヲ命セラル

一 年月日 依願巡查ヲ免セラル

一 自年月日 何所ニ於テ何業ニ従事ス

一 自年月日 兵 役

一 年月日 徵兵トシテ第何隊ニ入營

一 年月日 上等兵ヲ命セラル(伍長軍曹何々ニ任セラル)

附 錄

一 年月日 現役滿期(歸休ヲ命セラル)

一 賞 罰

一 年月日 何々ニヨリ何賞ヲ受ケ

一 年月日 何々ニヨリ何罰ヲ受ケ

一 右ノ通りニ候也

年 月 日

志願人 氏

名

誓約書 (用紙美濃紙)

參 照 入 消 印 紙 貼 用 消 印 紙 貼 用

本 人

某 儀

今般巡查(看守)練習生ニ御採用相成候ニ付テハ左記各號ヲ堅ク遵守

可致候依テ誓約如件

一 臺灣總督府警察官及司獄官練習所ノ諸規則及指揮命令ヲ誠實ニ

遵守シ専心課程ヲ練習可致コト

二 平素紀律ヲ恪守シ行狀ヲ慎ミ廉恥ヲ重シ品性ノ修養ヲ心掛可

申コト

三 練習中ハ自己ノ便宜ニ因リ退所ヲ出願セス又課程修了ノ上ハ三

ヶ年奉職ノ誓約ヲ爲シ警察(司獄)官吏ニ就職可致コト

四 懲罰處分ニ依リ又ハ課程ヲ修了スルコト能ハスシテ退所ヲ命セ

ラレ若ハ就職ノ後三ヶ年ニ滿タスシテ懲罰處分ニ依リ免職ニ相成候節ハ練習ノ爲支給セラレタル旅費及手當金ハ直ニ返納可致事有確實ニ履行スルコトヲ誓フ

年 月 日  
本籍  
現住所  
志願人 氏 名

右誓約ノ事項ハ本人ヲシテ堅ク遵守セシメ可申ノミナラス旅費並手當金返納ヲ命セラレタル場合ハ本人ト連帶責任ヲ以テ返納可致候

本籍  
現住所  
職業  
保證人 氏 名

### 朝鮮總督府巡查志願手續

#### 一、資格

巡查志願者ハ年齢二十歳以上三十五歳未滿ニシテ、身長五尺一寸以上ノ者トシ品行方正身體健全ナルヲ要ス、左ニ該當セル者ハ其ノ資格無シ

(1)徴兵検査未済者(2)前年又ハ本年度徴兵検査合格者ニシテ未召集者(3)罪ヲ犯シタルコトアル者(4)巡查又ハ他ノ官吏ヲ奉職シ免職トナ

リテ二年ヲ経過セサル者(5)身分不相應ノ負債アルモノ又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ未タ復権セサルモノ

#### 二、試験

採用試験ハ鮮内ハ京城警察官講習所ニ於テ毎月一回(第三日曜日)行ヒ、内地ニ於ケル試験場並ニ期日ハ其都府縣地方ノ新聞紙ニ掲載ス

志願者ハ別記様式ノ志願書、履歷書並筆視携帶午前八時迄ニ出願セラルヘシ

學科試験科目ハ作文、算術、地理、歴史、書取トシ、學科試験ニ合格シタル者ハ體格検査及口述試験ヲ行フ

但シ左記ノ者ニ對シテハ場合ニ依リ學科試験ヲ省略スルコトアルヘシ

- (一)列任文官タル資格ヲ有スル者
- (二)巡查精勵證書ヲ有スル者
- (三)曾テ巡查ヲ奉職シ退職後滿五ヶ年ヲ経過セサル者
- (四)下士及下士適任證書ヲ有スル者

#### 三、採用

體格検査ニ合格シタル者ニハ身元調査ノ上採否ヲ通知ス、内地ニ於テ採用セラレタル者ニハ、受験地府縣所在地ヨリ任地迄ノ旅費實費ヲ支給シ渡鮮後ハ警察官講習所ニ於テ約三ヶ月間教習ス、教習中

ノ月收ハ略一般巡查ト同様ナリ

#### 四、給與

今左ニ給與ヲ表示セハ左ノ如シ

月 俸	在勤加俸	宿舍料	被服料	計
最低三十八圓	二十二圓半	五圓	一圓三十錢	六十七圓十錢
最高九十圓	五十四圓	四圓	一圓三十錢	百五十五圓十錢

駐在所勤務者ニハ月額十一圓以内ノ手當アリ

(一)五年以上勤績シ成績優良ナルモノニハ十圓以上ノ加俸アリ、加俸ハ退職料ニ加算セラル

(二)駐在所勤務者ニハ受持内特定ノ出張ニ對シ旅費ヲ支給ス

(三)勤績二年以上ニ達スル時ハ、拜命ノ始メニ週リ勤績一年毎ニ半年ノ加算アルヲ以テ、勤績六年八月以上ニシテ退職シタル者ニハ退職料ヲ給セラレ爾後勤績年數ヲ加フル毎ニ加算アル事内地ニ同シ、尙内地ト朝鮮トノ勤績年數ハ通算セラル

(四)一定ノ年限ヲ勤績シ退職スル者ニハソノ年數ニ應シ一時金ヲ支給セラル

(五)國境ニ勤績スル者ニハ月額十一圓ノ手當アリ

#### 五、志願書式

巡查志願書(用紙半紙)

私儀朝鮮總督府巡查志願ニ付御試験被下度別紙履歷書相添(此段相願候也)

年 月 日

本籍 何々  
寄留 何々  
現住所 何々  
身分職業

勳、位、功、級 氏 名  
年 月 日 生

朝鮮總督警察官講習所長殿

履 歷 書 (用紙半紙)

出生地及居住地

出生地 何々

自年月日 何所ニ居住ス

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

自年月日 何所ニ居住ス(現居住地)

附 録

一年月日 何府縣ニ於テ巡查精勤證書ヲ受ク

一 自年月日 何所官(公、私)立學校ニ在學

一 自年月日 何所何某ニ就キ何學ヲ學ブ

一 自年月日 何所何某ニ就キ劍道(柔道)ノ指南ヲ受ケ免狀ヲ授與セラル

職 業

一 自年月日 何町何某ニ雇ハレ何業ニ従事ス

一 年月日 何廳(府縣)巡查拜命教習生ヲ命セラレ月俸何圓(何級俸)給セラル

一 年月日 (教習生)科程卒業月俸何圓給與何署勤務ヲ命セラル

一 自年月日 依願巡查ヲ免セラル

一 自年月日 何所ニ於テ何業ニ従事ス

兵 役

一 年月日 徴兵トシテ何々隊ニ入營

一 年月日 上等兵ヲ命セラル

一 年月日 現役満期(歸休)ヲ命セラル

賞 罰

一 年月日 何々ニ依リ何賞ヲ受ク

一年月日 何々ニ依リ何罰ヲ受ク

右之通り候也

年 月 日

氏 名

關東廳巡查志願手續

一、資 格

身長五尺二寸以上年齢滿二十一歳以上三十五歳未滿ニシテ品行方正體質健全ノ者、而シテ學力ハ高等小學校卒業程度以上ノ者タリ、但シ左ニ該當スル者ハ採用セス

(1)禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若ハ賭博犯ニヨリ處罰セラレタル者(2)文官懲戒令又ハ巡查看守懲罰令ニ依リ官職ヲ免セラレ爾後滿二箇年ヲ經過セサル者(3)身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者

二、試 験

試験科目ハ算術、作文、地理、歴史ニシテ試験期日場所ハ左ノ如シ

四月十七日 下ノ關警察署 四月十九日 姫路警察署 四月二十一日 津山警察署 四月廿三日 岡山縣巡查教習所 四月廿五日 三次警察署 四月廿七日 廣島縣巡查教習所 四月十五日 關東廳警察官練習所

三、採 用

採用者ノ旅費ハ山口縣三十四圓、廣島縣三十六圓、岡山縣三十七圓、兵庫縣三十八圓ヲ支給ス

四、給 與

(一)巡查ノ諸給與ハ練習中(三ヶ月)五十三圓餘、終了後ハ勤務地ニ依リ等差アルモ初任者ノ月收最低七十二圓以上ニシテ漸次昇給ス、但シ宿舍ヲ支給ス

(二)右ノ外外國語武道等特別ノ技能ヲ有スル者ニハ二圓以上三十圓以内ノ特別手当ヲ給ス、尙ホ五年以上勤続シ精勤ヲ表彰セラレタル者ニハ七圓以内ノ加俸ヲ給ス、加俸ハ恩給ニ通算ノ利益アリ。

(三)巡查勤続一年以上ニシテ退職シタル時ハ恩給法ニ依リ十年未滿ハ一時恩給(退職當時ノ俸給一ヶ月分ニ勤続年數ヲ乘シタル額)十年以上ハ普通恩給(退職當時ノ月俸四ヶ月分相當、尙十年以上ハ勤続年數ニ應ジ増加セラル)

(四)當廳巡查在職二年以上ノ者ニ對シテハ一ヶ月ニ對シ半ヶ月ヲ加算セラルルヲ以テ勤続二年ニ對シテハ三年ノ一時恩給ヲ給シ在職六年八ヶ月ニ至レハ、普通恩給ヲ給ス

(五)巡查ノ恩給ヲ受ケ又ハ受ケヘクシテ死亡シタル時ハ遺族ニ左ノ扶助料ヲ給ス

(イ)普通死亡ハ恩給ノ二分ノ一

附 録

(ロ)普通公務死亡ハ恩給額ノ十分ノ八

(ハ)戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ(兇賊ノ爲メ死亡)場合ノ死亡ハ恩給ノ全額

(六)巡查在職二年以上ニシテ甲科練習生採用試験ニ合格シタル者ハ八ヶ月練習ノ上警察部ニ任用シ、支那語學習ノ成績優良ナル者ハ通譯囑託又ハ翻譯生ニ任ス

五、志願書式

巡查志願書(用紙美濃紙)

私儀巡查志願ニ付御試験相受度御採用ノ上ハ身上ニ關スル一切ノ件ハ身元保證人ニ於テ引受可申候依テ別紙履歷書相添へ保證人連署此段奉願候也

年 月 日

本籍 何々 寄留 何々

氏 名 年 月 日 生

本籍 何々 寄留 何々

保證人 氏 名 年 月 日 生

關東長官伯爾兒玉秀雄殿

履 歷 書 (用紙美濃紙)

本籍 何々

寄留 何々

(月主何某何男)

位勳 氏

名 〇

年 月 日 生

年月日 學業職務賞罰事故

年月日 何學卒業

年月日 事務員月給何圓

年月日 依願解職(何學)

年月日 何々ヲ命ス月何圓

年月日 依願免職(何學)

(可成詳細ヲ要ス)

學校官衙名等

何學校

何會社

同上

何縣

同上

### 樺太廳巡查採用手續

(巡查採用規則ハ内務省訓令ヲ適用ス)

第一條 巡查採用試験ハ巡查教習所長之ヲ行フ

第二條 巡查志願者ハ巡查教習所ニ於テ受理スルモノトス

第三條 巡查教習所長前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ經歷業行其ノ

他願人ノ身上ニ關スル一切ノ事項ヲ調査スヘシ

第四條 警務課長ハ必要アル毎ニ巡查採用試験ヲ施行スヘキ旨ヲ巡

査教習所長ニ通知スヘシ

第五條 前條ノ場合ニ於テ巡查教習所長ハ試験ノ日時及場所ヲ定メ

テ公告シ且志願者ニ通知スヘシ

第六條 巡查教習所長ハ受験ノ爲メ出頭セシ者ヲ試験名簿ニ記入ス

ヘシ

第七條 巡查採用規則第一條ニ依リ學術試験ヲ要セスシテ採用スル

場合ト雖モ體格検査ハ必ス施行スヘキモノトス

第八條 巡查志願者ノ體格検査ハ樺太廳醫院醫員若クハ警察囑託醫

ナシテ之ヲ施行セシメ體格検査表ヲ差出サシムヘシ

第九條 巡查採用試験ハ體格検査ヲ先ニシ其ノ之ニ合格シタル者ニ

就キ學術試験ヲ施行スルモノトス

第十條 巡查教習所長採用試験ヲ終リタルトキハ直ニ成績表ヲ調査

シ體格検査表及關係書類ヲ添ヘテ人物其ノ他採用上參考トナルヘ

キ事實ヲ具シ警務課長ニ送致スヘシ

第十一條 警務課長ハ前條ノ書類ヲ調査シ不都合ナシト認ムル者ニ

付テハ長官ノ決裁ヲ經テ採用ノ手續ヲ爲シ其ノ他ノ者ニ付テハ不

採用ノ旨ヲ通知スヘシ

大正十四年八月十日印刷  
大正十四年八月廿四日發行

總發行所 松華堂編輯部  
定價金壹圓五拾錢



編 者 松華堂編輯部  
發 行 者 東京市神田區錦町一丁目十二番地 橫 尾 留 治  
印 刷 者 東京市本郷區尾島町三十六番地 佐 藤 駒 次 郎

發 行 所 東京市神田區錦町一ノ十二 松華堂書店  
賣 捌 所 東京市神田區錦町一ノ十二 日 英 堂 書 店

306  
688

終

